第二十四條　詐僞ノ所爲ヲ以テ專賣特許ヲ受ケ又ハ專賣特許ヲ僞稱シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二十五條　第六條第二項第十二條ノ屆出ヲ其期限內ニ爲サヽル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十六條　此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十七條　第二十條第二十一條第二十二條ノ犯罪ハ專賣人ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二十八條　專賣人告訴ヲ爲シタルトキハ裁判官ニ於テ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ發賣ヲ停止スルコトヲ得

附則

明治四年四月七日專賣略規則布告以後本條例布告以前ニ發明シ明治五年三月第百五號發告但書ニ依リ屆出タル事物ニシテ之ヲ專賣セント欲スル者ハ公ニ用ヒラレ公ニ知ラレタルモノト雖モ本條例施行ノ日ヨリ六ケ月間ニ其專賣特許ヲ農商務卿ニ願出ルコトヲ得

本條例布告以前既ニ前項ノ發明ヲ使用シタル者ハ本條例施行ノ日ヨリ一ケ年間ニ其使用特許ヲ農商務卿ニ願出ルコトヲ得此場合ニ於テハ本條例第十七條專賣特許ノ免許料ト同一ノ金額ヲ納ムヘシ

○專賣特許手續

明治十八年四月十八日第五號布達

今般專賣特許條例制定候ニ付專賣特許手續別紙ノ通相定ム

二十年五月農商務省令第一號ヲ以テ各條改正及第十六條ヲ加ル

右布達候事

（別紙）

專賣特許手續

第一條　專賣特許ニ關スル願書及屆書ハ總テ地方廳ヲ經テ農商務省ニ差出スヘシ

第二條　專賣特許ヲ願出ルトキハ壹個ノ發明ニ付願書明細書幷圖面各一通ヲ差出スヘシ

二人以上協同シテ一個ノ發明ヲ爲シタルトキハ其願書及明細書等ニ連署スヘシ

第三條　明細書及圖面ハ願人ヨリ封緘シテ之ヲ差出シ地方廳ハ封緘ノ儘之ヲ農商務省ニ進達スヘシ

第四條　專賣特許願書ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

一　發明ノ名稱

二　專賣特許ノ年限

三　條例ニ牴觸セサル旨

四　願書明細書等ニハ相違ノ事實ナキ旨

第五條　明細書ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

一　發明ノ目的及性質ノ大體說明

二　圖面ノ解說（圖面ヲ添フルトキハ）

三　發明ノ製作、構造、組成、及使用ノ方法等ニ關スル詳細ノ說明

四　發明ノ區域

五　發明人ノ族籍住所氏名

第六條　圖面ニハ一圖毎ニ番號ヲ記シ其各部ニハ片假名平假名又ハ數字ヲ付シテ明細書ノ說明ト符合セシメ且發明人ノ氏名ヲ記載スヘシ

第七條　條例第七條ニ依リ專賣權ノ讓與又ハ分與ヲ願出ル者ハ讓主ヨリ願書一通ニ約定書本書ヲ添ヘ差出スヘシ

第八條　條例第八條ニ依リ追加專賣特許ヲ願出ル者ハ第二條及第三條ノ手續ニ從フヘシ

第九條　條例第九條第二項ノ特許ヲ受ケント欲スル者ハ其理由ヲ詳記シタル願書一通ヲ差出スヘシ

第十條　專賣特許又ハ追加特許ヲ受クル者ハ其出願ヲ聞屆ヘキ旨ノ通知ヲ得タル日ヨリ三十日以內ニ其特許料ヲ納ムヘシ此期限內ニ特許料ヲ納メサルトキハ其出願無効タルヘシ但已ムヲ得サル事由アリテ延期シタルモノト認ムルトキハ此限ニアラス

第十一條　條例第十三條ニ依リ專賣特許證ノ再渡ヲ願出ルトキハ其理由ヲ詳記シタル願書一通ヲ差出スヘシ

第十二條　專賣特許ヲ受ケタル者其願書明細書等ニ脫漏又ハ過誤アルコトヲ發見シテ之ヲ補足又ハ改正セント欲スルトキハ其理由ヲ詳記シタル願書一通ヲ差出スヘシ

但其補足又ハ改正ノ爲メ發明ノ重要事項ニ變更ヲ生スルモノハ之ヲ願出ルコトヲ得ス

第十三條　專賣特許ヲ受ケタル者約束ヲ以テ他人ニ其發明ヲ使用セシムルトキハ雙方連署シテ之ヲ屆出ヘシ

第十四條　條例第四條第一項ニ觸レ專賣特許無効ニ歸シタル後先發明者更ニ專賣特許ヲ願出ルトキハ其年限ハ前專賣人ノ特許年限ヲ超ユヘカラス

第十五條　專賣特許願書ノ訂正ニ關シ達ヲ受ケタルトキハ其日ヨリ十五日以內ニ圖面ノ徵收又ハ訂正ニ關シ達ヲ受ケタルトキハ其日附ヨリ三箇月以內ニ明細書ニ關シ達ヲ受ケタルトキハ其日附ヨリ六箇月以內ニ訂正書圖面又ハ答辨書ヲ出スヘシ此期限內ニ之ヲ出サヽルトキハ其出願無効タルヘシ但已ヲ得サル事由アリテ延期シタルモノト認ムルトキハ此限ニアラス

第十六條　專賣特許ニ關スル諸願書式明細書及圖面ノ雛形用紙等ハ別ニ告示スヘシ

○專賣特許ニ關スル諸願書及明細書文例

十八年四月廿三日農商務省告示第六號

專賣特許條例本年第七號ヲ以テ布告相成候ニ付右ニ關スル諸願書式及明細書文例左ノ通相定候條此旨告示候事

願書式用紙美濃紙其上部曲尺壹寸程下部八分程綴シロ壹寸五分程ヲ餘白ト爲シ字體明瞭ニ認ムルヲ要ス

第一（一箇ノ發明者又ハ協同發明者又ハ他人ノ發明ヲ讓受ケタルモノヨリ專賣特許ヲ願出ル時）

專賣特許願

一　何發明

十九年農商務省令第十號ヲ以テ專賣特許手續中ヲ改正（第百七十八條三項）參照

右ハ私(私共ノ)(何誰儀發明者何誰ヨリ讓受候)發明ニシテ從來世上ニ使用セラレサル機械)(物品)(方法)ナルハ勿論一切御條例ニ相觸候義無之且此願書及別封明細書ニ記載セル事實幷圖面(圖面ヲ添フルトキ)ニ相違之廉無之段確信候間何箇年ヲ期限トシ專賣特許證御下付相成度此段奉願候也

年　月　日

何(府縣)地名番地(居住寄留)
族籍　業名
發明者　氏　名　印
又發明者二人ナル片
肩書同斷
發明者　氏　名　印
仝
仝　氏　名　印
又他人ノ發明ヲ讓受ケタル片
肩書同斷
仝　氏　名　印
仝
讓受人　氏　名　印

農商務卿某殿

前書之通願出候ニ付進達候也

年　月　日

何(府縣事縣令)某　印

第二(相續者ヨリ專賣特許ヲ願出ルトキ)
專賣特許願

一　何發明

右ハ私亡父(亡兄)何誰發明ニ候處何年何月何日死去致候ニ付今般家名相續ノ廉ヲ以テ私受繼候右(機械)(物品)(方法)ノ從來世上ニ使用セラレサルハ勿論一切御條例ニ相觸候儀無之且此願書及別封明細書ニ記載セル事實幷圖面(圖面ヲ添フルトキ)ニ相違ノ廉無之段確信候間何箇年ヲ期限トシ專賣特許證御下付相成度此段奉願候也(同上)

故何之誰相續人
何(府縣)地名番地(居住寄留)
族籍　業名　氏　名　印

年　月　日

農商務卿某殿

前書之通願出候ニ付進達候也

年　月　日

何(府知事縣令)某　印

第三(追加專賣特許ヲ願出ルトキ)
追加專賣特許願

私（私共）所持罷在候何年何月何日付第何號專賣特許證ニ係ル發明ニ就キ今般改良ヲ加ヘ候處一切御條例ニ相觸候儀無之且此願書及別封明細書ニ記載セル事實并圖面（圖面ヲ添ノルトキ）ニ相違ノ廉無之段確信候間追加專賣特許證御下付相成度此段奉願候也（同上）

年　月　日

農商務卿某殿

何（府縣）地名番地（居住寄留）
族籍　業名
發明者　氏　名　印

前書之通願出候ニ付進達候也

年　月　日

何（府知事縣令）某　印

第四（讓與又ハ分與ヲ願出ルトキ）

專賣權（讓分）與願

一　何年何月何日付第何號專賣特許證
一　何發明
一　發明者何之誰
一　現所有主何之誰

右ハ今般別紙約定書寫之通何之誰ヘ讓與（分與）致度依テ前記ノ專賣特許證並御免許料金何圓相添此段奉願候也

何（府縣）地名番地（居住寄留）

年　月　日

農商務卿某殿

族籍　業名
（讓分）與人　氏　名　印
肩書同斷
（讓分）受人　氏　名　印

前書之通願出候ニ付進達候也

年　月　日

何（府知事縣令）某　印

第五

專賣特許証紛失（燒失流失）ニ付再渡願

一　何年何月何日付第何號專賣特許証
一　何發明
一　發明者何之誰

右專賣特許證ハ私所有ニ有之候處何年何月何日何地ニ於テ紛失（火災ニ罹リ燒失）（水難ニ遭ヒ流失）候ニ付再渡相成度此段奉願候也（同上）

何（府縣）地名番地（居住寄留）
族籍　業名
專賣特許証所有者　氏　名　印

年　月　日

農商務卿某殿

前書之通願出候ニ付進達候也

年　月　日　　何(府知事縣令)某　印

第六　(專賣特許願書明細書又ハ圖面ニ遺漏又ハ誤謬アルトキ其補足又ハ改正ヲ願出ルトキ)

專賣願許願書(發明明細書圖面)脫漏補足(誤謬改正)

一　何年何月何日第何號專賣特許証

一　何發明

一　發明者何之誰

一　現所有主何之誰

右專賣特許証ニ係ル願書(明細書圖面)中何々ノ遺漏(誤謬)有之候ニ付別紙之通補足(改正)致度尤之カ爲メ發明ノ重要事項ニ變更ヲ生スル儀無之ト確信候間此段奉願候也

年　月　日

何(府縣)地名番地(居住寄留)
族籍　業名
發明者(發明讓受人發明人死去セシトキ)　氏　名　印
又發明者存生ノトキハ左ノ如シ
肩書前同斷
發明者　氏　名　印
同

農商務卿某殿

前書之通願出候ニ付進達候也

年　月　日　　現所有主　氏　名　印

第七　(專賣特許條例附則第一項ニ依リ專賣特許ヲ願出ルトキ)

專賣特許願

一　何發明

右ハ私ハ私共、明治何年何月發明致シ明治何年何月何日ヨリ使用致來候處一切御條例ニ相違候儀無之且此願書及別封明細書ニ記載セル事實幷圖面(圖面ヲ添フルトキ)ニ相違ノ廉無之段確信候間何箇年ヲ期限トシ專賣特許証御下付相成度此段奉願候也(同上)

何(府縣)地名番地(居住寄留)
族籍　業名
發明者　氏　名　印
又發明者二人ナルトキハ
肩書前同斷
發明者　氏　名　印
同

年　月　日　　何(府知事縣令)某　印

農商務卿某殿

同　氏　名印

前書之通願出候ニ付進達候也

年　月　日

何(府知事縣令)某　印

第八（專賣特許條例附則第二項ニ日リ使用ノ特許ヲ願出ルトキ）

使用特許願

一　何發明

右ハ何之誰發明ノ(機械)(物品)(方法)ニシテ私儀營業ノ爲メ明治何年何月何日ヨリ之ヲ使用シ來候處今般右發明人何誰專賣權ヲ受候ニ付テハ何箇年ヲ期限トシ右發明使用ノ儀御許可相成度此段奉願候也(同上)

何(府縣)地名番地(居住寄留)

族籍　業名　氏　名印

年　月　日

農商務卿某殿

前書之通願出候ニ付進達候也

年　月　日

何(府知事縣令)某　印

第一（明細書文例用紙美濃紙其上部由尺一寸程下部八分程綴シ口一寸五分程ヲ餘白ト爲シ楷書若クハ行書ニテ明瞭ニ記載スルヲ要ス）（方法ノ發明ヲ記載スルトキ）

明細書

煤氣精製ノ改良法

煤氣ヲ精製スルニ當リ其容積ヲ著シク減少セスシテ其照力ヲ增進スルヲ得ヘキ新奇有益ノ改良法ヲ發明セリ之ヲ左ニ明解ス

從來煤氣ヲ精製スルノ方法ハ煤氣ヲシテ獸炭中ヲ通過セシムルニアリト雖モ單ニ獸炭ノミヲ使用スルトキハ暫時ヲ經ルノ後汚物ヲ吸收スルノ力ヲ耗失スルカ故ニ蒸氣若クハ水ヲ以テ獸炭ヲ洗浣スルカ或ハ煤氣ト共ニ大氣ヲ通過スルカ然ラスンハ熱ヲ以テ獸炭ヲ再調セサルヘカラス而シテ單ニ獸炭ノミヲ使用スルトキハ啻ニ煤氣ノ照力ヲ減殺スルノミナラス其容積ヲモ亦減少スルノ憂ヲ免レス

此改良法ノ目的ハ煤氣ノ照力ヲ減殺セス其容積ヲモ亦著シク減少セスシテ其操作法ニ間斷ナク且ツ煤氣ヲ充分ニ精製スルニアリ卽チ其法ハ煤氣中ノ汚物ヲ除去スル力ヲ增加スレトモ該氣中ノ照氣ヲ吸收セサル物體ヲ獸炭ニ混合シ大氣ト共ニ煤氣ヲシテ之ヲ通過セシムルモノトス

此發明ヲ實施スルニハ石炭「タール」若クハ該油ト水或ハ單ニ水ノミヲ以テ獸炭（新製ノモノヌハ使用セシモノニテ可ナリ）ヲ浸潤シ之ヲ一器或ハ數器內ニ充塡シ以テ精製器トス若シ浸潤スルニ單ニ水ノミヲ以テセサルトキハ獸炭ヲ乾燥シテ充塡スルモ亦可ナリ而シテ煤氣ヲ該精製器內ニ通過セシムルニ當リ蒸溜器若クハ本管ヨリ小量ノ大氣ヲ導入シ例ヘハ精製スル煤氣ノ容積一百分ニ付十分ノ八乃至二ト二分ノ一ノ比例ヲ以テ之ヲ煤氣ニ混合

セシメ然ル後煤氣ヲ該器内ニ通過セシムルモノトス但シ大氣ノ量ハ煤氣中ニ於ケル汚物ノ多少ニ關係ス若シ大氣ヲシテ煤氣ト善ク混合セシメント欲セハ蒸溜器ト精製器ノ間ニ於ケル本管ノ一局部又ハ精製器ニ密接シタル處ニ於テ適宜ノ混合機ヲ裝置スヘシ水瓦斯ヲ精製スルノ際ニモ亦大氣ヲ該瓦斯中ニ導入スルトキハ單ニ水ノミヲ以テ浸潤セル獸炭ニテ可ナリ

此法ニ據レハ大氣中酸素ノ一部ハ硫素ト抱合シ終ニ可溶鹽類ヲ生シ其殘餘ハ全ク硫化水素及其他ノ含水素硫素複體ノ水素ト抱合シテ水ヲ生シ更ニ遊離酸素ヲ殘留セス硫化水素及其他ノ硫素複體中ニ於ケル硫素ノ一部ハ遊離狀トナリテ獸炭中ニ沈澱シ窒素ノ一部ハ殘餘ノ水素ト抱合シ終ニ「アムモニヤ」鹽類ヲ生ス若シ窒素ハ精製シタル煤氣ト共ニ通過シ去ルコトアルモ甚タ僅少ナルヲ以テ更ニ害アルヿナシ

此ノ如ク大氣ヲ使用スルトキハ獸炭久シク其作用ヲ保存スルヲ以テ該操作法ハ常ニ間斷ナク施行スルヲ得ヘシ

最後ニ獸炭ノ吸收力ヲ失スルニ至リタルトキハ其有用ナル「アムモニヤ」鹽類ヲ含有スルヲ以テ之ヲ賣却スヘシ然ラスンハ熱ヲ以テ獸炭ヲ再調シ或ハ水ヲ以テ之ヲ洗浣シ而シテ適宜ノ溶劑ヲ以テ硫素ヲ分離シ再ヒ之ヲ使用スヘシ

石炭「タール」ヲ獸炭ニ混合スルニ因リ其煤氣中ノ生油氣及其他ノ照性重炭化水素ヲ吸收スルヿナシ

獸炭ヲ精製器ニ充塡スルノ前若クハ後ニ於テ獸炭ヲ處理スルニ煤氣中ノ照氣ト相互ノ關係アル適宜ノ物體即チ該炭ニ交和シテ照氣ヲ吸收セシメサル所ノモノヲ以テスルヲ得ヘシ特ニ石炭「タール」ヲ揭ケシ所以ハ其最モ得易キヲ以テナリ但シ該油中ノ炭化水素溜液即チ「ベンゾール」屬ノモノヲ使用スルモ亦可ナリ

石炭煤氣ノ塊合ニ於テハ前記ノ如ク獸炭ハ該氣中ノ硫化水素ヲ吸收ス但シ乾燥ナル獸炭中ニ煤氣ヲ通過セシムルトキハ多少其照力ヲ減殺スヘシ然レトモ大氣ヲ使用シ且ツ石炭「タール」ヲ以テ獸炭ヲ浸潤スルトキハ却テ之ヲ增進ス是レ此ノ如クシタル煤氣ノ照力ハ獸炭ヲ通過セサルトキハ同一ナレトモ通過セサルモノニ比スレハ尙ホ一層白焰ヲ生スルヲ以テナリ

此法ニ據ルトキハ硫素ト水素ハ相分離シ硫素ハ獸炭中ニ殘留シ水素ハ煤氣ト共ニ通過シ炭酸氣モ亦全ク通過スルヲ以テ煤氣精製ノ前後ニ於テ實際其容積ニ差異ヲ生セス

此改良法ノ大ニ便宜トスルハ煤氣ヲシテ凝縮器ヨリ直接ニ新發明ノ精製器内ニ通過セシムルヲ得從テ擦掙法ト精製法トヲ結合セシムルヲ得ルニアリ

硫化水素ヲ除却スルニハ之ヲ煤氣中ニ於テ分解スヘキ酸化鐵、錫鑛、「マンガニース」鑛等ノ如キ物體ヲ獸炭ニ混合スルモ亦可ナリ

此精製器ヲ以テ精製セル煤氣ハ更ニ「アムモニヤ」及硫素ヲ含マス殆ント無臭ナリ

此發明ノ專賣特許ヲ請求スル區域ハ左ノ二條トス

第一　已ニ陳述セシ如ク獸炭ノ方便ニ依リ煤氣ヲ精製スルニ當リ其煤氣中ノ照氣ヲ

吸收スルヲ豫防スルノ方法卽チ瓦氣ト相互ノ關係アル適宜ノ物體ヲ獸炭ニ混合スルノ法是ナリ

第二　煤氣ヲシテ大氣ト共ニ石炭「タール」ヲ以テ浸潤セル獸炭中ヲ通過セシムルノ法是ナリ

右之通相違無之候也

年　月　日

何(府縣)地名番地(居住寄留)
族籍　業名
發明者　氏　名　印
又ハ發明者二人ナルトキ
肩書前同斷
發明者　氏　名　印
肩書前同斷
發明者　氏　名　印
又ハ他ノ發明ヲ讓受ケタルトキ
肩書前同斷
發明者　氏　名　印
肩書前同斷
讓受人　氏　名　印

第二　(組成劑ノ發明ヲ記載スルトキ)

農商務卿某殿

明細書

脫毛媒助劑

毛皮ヲ糅化スルニ當リ豫メ其毛及脂肪ヲ脫除シ易カラシムルカ爲ニ使用スヘキ新規有益ノ組成劑ヲ發明セリ之ヲ左ニ明解ス

此組成劑ハ清水、石灰、曹達、硝石及ヒ花狀硫黃ヨリ成ル卽チ其割合ヲ揭クルヿ左ノ如シ

清水	一二五、〇斤
生石灰	八、〇
曹達	一二、〇貫
硝石	二、四
花狀硫黃	一、二

以上ノ成分ヲ攪拌シテ善ク之ヲ混和セシムルモノトス

此組成劑ノ用法ハ豫メ毛皮ヲ一日乃至八日間水中ニ浸シ皮裡ニ含有スル蛋類及汚物ヲ脫除シ之ヲ清淨ニシタル後此液劑中ニ浸スヿ四十八時間ニシテ之ヲ取出シ通法ヲ以テ其毛ヲ脫除スルモノトス

此組成劑ヲ使用スルトキハ當ニ其毛ヲ脫除シ易カラシムルノミナラス毛皮ヲ糅化ス

ルニ當リ腐妨ヲ來タスヘキ脂肪及ヒ其他ノ物質ヲ脫除スレトモ精良ノ柔革ニ變成スヘキ質ハ却テ之ヲ保存ス

此發明專賣特許ヲ請求スル區域ハ上文既ニ記載セシ如ク毛皮ヲ鞣化スルニ當リ豫メ其毛ヲ脫除シ易カラシムル爲ニ使用スヘキ組成劑是レナリ

右之通相違無之候也

年月日

何(府縣)地名番地(居住寄留)
族籍　業名
發明者　氏　名　印
又ハ發明者二人ナルトキ
肩書前同斷
發明者　氏　名　印
肩書前同斷
發明者　氏　名　印
又他ノ發明ヲ讓受ケタルトキ
肩書前同斷
發明者　氏　名　印
肩書前同斷
讓受人　氏　名　印

第三(器械ノ發明ヲ記載スルトキ)

農商務卿某殿

明細書

「クリーム」分離器械

此發明ハ牛酪製造ノ際氷ノ方便ニ藉リ牛酪ヲ冷却シ以テ其「クリーム」ヲ分離スル爲メニ使用スヘキ新奇有益ノ器械ナリ之ヲ左ニ明解ス

此器械ハ長方形ノ水槽ニシテ其內部ノ中間ニ圖中(イ)ノ如ク氷塊ヲ抑止スヘキ焙格形ノ裝置ヲナシ又槽ノ一側面ニ「クリーム」ノ全ク上浮セルヤ否ヤヲ窺ヒ得ヘキ玻璃窓(ロ)ト槽底ニ接近セル所ニ吸子(ハ)トヲ備ヘリ圖中ニ槽ノ側面ヲ截斷セル所以ハ只タ其內部ノ結構ヲ示サンカ爲メナリ

此器械ヲ以テ乳ヲ冷却スルニハ先ツ槽ノ高サ四分ノ一ニ達スルマテ清淨ナル氷塊ヲ密布シ其上ニ乳ヲ注入ス但シ乳四十斤ニ付氷十斤ノ割合ナリトス然ルトキハ氷塊ハ焙格ニ抑止セラレテ液面ニ上浮スルヿナク乳ヲ冷却スルヿ大約四十分時間「クリーム」ノ全ク液面ニ上浮スルヲ俟テ之ヲ匕取リ尋テ吸子(ハ)ヲ開キ殘乳ヲ瀉出シ之ヲ乾酪製造場ニ送ル

此操作中溶解セル氷水ハ少量ニシテ未タ殘液ノ品位ヲ劣スニ至ラス又更ニ「クリーム」ト混合セサルナリ

此器械ニ依リテ分離セル「クリーム」ハ其品位頗ル良好ニシテ其量甚タ多シ而シテ此

器械ヲ使用スルトキハ「クリーム」ヲ速カニ分離スルヲ以テ殘液ノ酸味ヲ呈セサルニ先チ之ヲ乾酪製造場ニ送ルヲ得ルト一年四季中何時ニテモ常ニ之ヲ施行シ得ルトノ二便アリ

此發明ノ專賣特許ヲ請求スル區域ハ已ニ記載セルカ如ク水槽中ニ裝置セル焙格形ノ抑氷機是レナリ

右之通相違無之候也

年　月　日

何(府縣)地名番地(居住寄留)
族籍　業名
發明者　氏　名　印
又ハ發明者二人ナルトキ
肩書前同斷
發明者　氏　名　印
肩書前同斷
發明者　氏　名　印
又他ノ發明ヲ讓受ケタルトキ
肩書前同斷
發明者　氏　名　印
肩書前同斷

農商務卿某殿

讓受人　氏　名　印

(第四圖面略之)

○專賣特許發明品標記方

十八年四月二十四日農商務省告示第七號

專賣特許條例第十條發明品ノ標記左ノ通相定候條此旨告示候事

專賣特許何年何月何日ヨリ何年間

專賣何年何月何日、何年間

專賣以下年月日ノ數字ヲ記スヘシ

例ヘハ明治十八年七月一日ヨリ五年間專賣特許ヲ受ケタレハ

專賣一八七一日ト記スカ如シ

前三項ノ內專賣人ノ便宜ニ依リ撰擇シテ標記スヘシ但縱若クハ橫ニ一行又ハ二行ニ記シ或ハ圓形楕圓形等ニ一行ニ記スルモ妨ケナシ

○專賣特許商標登錄願ノ通知ヲ得タルトキ取扱方

二十年五月十日農商務省訓令第八號北海道廳府縣

本年勅令第八號及第九號ヲ以テ專賣特許條例第十七條及商標條例第十四條改正相成且本年本省令第一號及第二號ヲ以テ專賣特許手續及商標登錄願手續共加除改正候ニ付テハ特許又ハ登錄ヲ願屆ク可キ旨ノ通知書其廳ニ達シタルトキハ卽時ニ之ヲ願人ニ下付スルト同時ニ特許料又ハ登錄料徵收ノ手續ヲ爲シ徵收濟ノ上ハ速ニ其旨ヲ當省專賣特

許局ヘ通知ス可シ

○專賣特許ニ關スル諸願書式明細書及圖面用紙雛形等

二十年五月十八日農商務省告示第三號

專賣特許ニ關スル諸願書式明細書及圖面ノ用紙雛形等別冊ノ通リ相定メ明治二十年六月一日ヨリ施行ス

但明治十八年當省第六號告示ハ右施行ノ日ヨリ廢止ス

（別冊）

專賣特許ニ關スル諸願書式及明細書文例等

願書及上申書式

一書面ハ總テ美濃紙二ツ折ニシテ上部曲尺一寸下部八分左二分綴料一寸ヲ餘シ楷行ノ内ニテ十三行二十五字詰ヲ以テ字體明瞭ニ認ムヘシ

第一　新ニ專賣特許ヲ願出ルトキ

專賣特許願

一何々發明ノ名稱ヲ掲クヘシ

此處ニ成規ニ從ヒ印紙ヲ貼用スヘシ

右ハ明細書ニ記載スル通ノ機械（物品）（方法）ニシテ私（私共）ノ發明ニ有之候處專賣特許條例ニ相觸レ候儀無之且ツ此願書及明細書ニ記載セル事實並ニ圖面圖面ヲ添ニ相違之廉無之段確信致候間何箇年ヲ期限フルトキトシ專賣特許證御下附相成度此段奉願候也

何（府縣）（北海道）何（郡區）何（町村）何番地（居住寄留）

本貫族籍

年　月　日　發明者　何　某　印

二名以上ナルトキハ各署名捺印スヘシ以下總テ此例ニ依ル

農商務大臣何某殿

前書之通願出候ニ付進達候也

年　月　日

何（府縣）知事（北海道廳長官）何某印

第二　發明者發明共有者ト連名ノ專賣特許證ヲ得ントシテ願出ルトキ

專賣特許願

一何々發明ノ名稱ヲ掲クヘシ

此處ニ成規ニ從ヒ印紙ヲ貼用スヘシ

右ハ明細書ニ記載スル通ノ機械（物品）（方法）ニシテ私（私共）ノ發明ニ有之候處專賣特許條例ニ相觸レ候儀無之且ツ此願書及明細書ニ記載セル事實並ニ圖面圖面ヲ添ニ相違之廉無之段確信致候就テハ右發明ハフルトキ何某（住所本貫族籍ヲモ記スヘシ）ト共有致度ニ付何箇年ヲ期限トシ連名ノ專賣特許證御下附相成度此段奉願候也

何（府縣）（北海道）何（郡區）何（町村）何番地（居住寄留）

本貫族籍

年　月　日　發明者　何　某　印

農商務大臣何某殿

前書ノ通願出候ニ付進達候也

年　月　日

何（府縣）知事（北海道廳長官）何某印

第三 相續者ヨリ專賣特許ヲ願出ルトキ

專賣特許願

一何々發明ノ名稱ヲ掲クヘシ

此處ニ成規ニ從ヒ印紙ヲ貼用スヘシ

右ハ明細書ニ記載スル通ノ機械(物品又ハ方法)ニシテ亡何某ノ發明ニ係處家名相續ノ廉ヲ以テ私受繼候就テハ專賣特許條例ニ相觸候儀無之且ツ此願書及明細書ニ記載セル事實並ニ圖面圖面ヲ添ニ相違之廉無之段確信致候間何箇年ヲ期限トシ專賣特許證御下附相成度此段奉願候也

發明者亡何某相續人
何府縣)北海道)何(郡區)何(町村)
何番地(居住寄留)
本貫族籍
何某印

年月日

農商務大臣何某殿

前書之通願出候付ニ進達候也

年月日

何(府縣)知事(北海道廳長官)何某印

第四 他人ノ發明ヲ讓受ケ專賣特許ヲ願出ルトキ

專賣特許願

一何々發明ノ名稱ヲ掲クヘシ

此處ニ成規ニ從ヒ印紙ヲ貼用スヘシ

右ハ明細書ニ記載スル通ノ機械(物品又ハ方法)ニシテ私(私共)儀發明者何某住所本貫族籍ヲモ記スヘシ ヨリ讓受候發明ニ有之候處專賣特許條例ニ相觸レ候儀無之且ツ此願書及明細書ニ記載セル事實並ニ圖面圖面ヲ添ニ相違之廉無之段確信致候間何箇年ヲ期限トシ專賣特許證御下附相成度此段奉願候也

何(府縣)(北海道)何(郡區)何(町村)
何番地(居住寄留)
本貫族籍發明者
證明人 何某印
肩書同斷
發明讓受人 何某印

年月日

農商務大臣何某殿

前書之通願出候ニ付進達候也

年月日

何府縣)知事(北海道廳長官)何某印

第五 追加專賣特許願ヲ願出ルトキ

追加專賣特許願

一何々改良發明ノ名稱ヲ掲クヘシ

此處ニ成規ニ從ヒ印紙ヲ貼用スヘシ

右ハ私(私共)所有ノ明治何年何月何日付第何號專賣特許證ニ係ル何々原發明ノ名稱ヲ掲クヘシ ノ發明ニ就キ明細書ニ記載之通改良ヲ加ヘ候モノニシテ專賣特許條例ニ相觸レ候儀無之且ツ此願書及明細書ニ記載セル事實並ニ圖面圖面ヲ添ニ相違之廉無之段確信致候間追加專賣特許證御下附相成度此段奉願候也

何(府縣)(北海道)何(郡區)何(町村)
何番地(住居寄留)
本貫族籍

年月日 專賣人 何某印

農商務大臣何某殿

前書之通願出候ニ付進達候也

年月日

何(府縣)知事(北海道廳長官)何某印

第六 他人ノ專賣特許年限中ノ發明ニ改良ヲ加ヘテ專賣特許ヲ願出ルトキ

改良發明專賣特許願

一何々改良發明ノ名稱ヲ掲クヘシ

此處ニ成規ニ從ヒ印紙ヲ貼用スヘシ

右ハ何某住所本貫族籍ヲモ記スヘシ 所有ノ明治何年何月何日付第何號專賣特許證ニ係ル何々原發明ノ名稱ヲ掲クヘシ ノ發明ニ就キ明細書ニ記載之通私(私共)改良ヲ加ヘ候モノニシテ專賣特許條例ニ相觸レ候儀無之且ツ此願書及明細書ニ記載セル事實並ニ圖面圖面ヲ添ニ相違之廉無之段確信致候就テハ該條例第九條第一項ニ據リ專賣人ノ承諾ヲ經候間何箇年ヲ期限トシ專賣特許證下附相成度此段奉願候也

何(府縣)(北海道)何(郡區)何(町村)
何番地(居住寄留)
本貫族籍專賣人
證明人 何某印

年月日 肩書同斷 改良發明者 何某印

農商務大臣何某殿

前書之通願出候ニ付進達候也

年月日

何(府縣)知事(北海道廳長官)何某印

第七　專賣特許年限中ノ發明ニ改良ヲ加ヘ其專賣人ノ承諾ヲ經ル能ハスシテ專賣特許ヲ願出ルトキ

改良發明專賣特許願

一何々（改良發明ノ名稱ヲ掲クヘシ）

右ハ何某（住所本貫族籍ヲモ記スヘシ）所有ノ明治何年何月何日付第何號專賣特許證ニ係ル何々（原發明ノ名稱ノ發明ニ就ヲ掲クヘシ）キ明細書ニ記載之通私（私共）改良ヲ加ヘ候モノニシテ專賣特許條例ニ相觸レ候儀無之且ツ此願書及明細書ニ記載セル事實並ニ圖面（圖面ヲ添ニ相違之廉無之フルトキ）段確信致候然ル處專賣人ニ於テ何々ノ廉ヲ以テ承諾ヲ拒ミサル理由ヲ述フヘシ）其他承諾ヲ經ル能ハ候ニ付該條例第九條第二項ニ據リ何箇年ヲ期限トシ專賣特許證御下附相成度此段奉願候也

（此處ニ成規ニ從ヒ印紙ヲ貼用スヘシ）

何（府縣）（北海道）何（郡區）何（町村）
何番地（居住寄留）
本貫族籍
改良發明者　何　某　印

年　月　日

農商務大臣何某殿

前書之通願出候ニ付進達候也

年　月　日

何（府縣）知事（北海道廳長官）何某印

第八　專賣權ノ讓與又ハ分與ヲ願出ルトキ

專賣權讓與（分與）願

一明治何年何月何日付第何號專賣特許證

一何々（發明ノ名稱ヲ掲クヘシ）

一發明者何某

一專賣人何某

右ハ今般何某（住所本貫族籍ヲモ記スヘシ）ヘ讓與（分與）致度依テ約定書本書相添此段奉願也

（此處ニ成規ニ從ヒ印紙ヲ貼用スヘシ）

何（府縣）（北海道）何（郡區）何（町村）
何番地（居住寄留）
本貫族籍
讓主　何　某　印

年　月　日

農商務大臣何某殿

前書之通願出候ニ付進達候也

年　月　日

何（府縣）知事（北海道廳長官）何某印

第九　專賣特許證ノ再渡ヲ願出ルトキ

專賣特許證紛失（燒失流失等）ニ付再渡願

一明治何年何月何日付第何號專賣特許證

一何々（發明ノ名稱ヲ掲クヘシ）

一發明者何某

一專賣人何某

右專賣特許證ハ私所有ニ有之候處明治何年何月何日何地ニ於テ何々ノ際紛失（又ハ燒失流失等其始末ヲ記スヘシ）候ニ付再渡相成度此段奉願候也

（此處ニ成規ニ從ヒ印紙ヲ貼用スヘシ）

何（府縣）（北海道）何（郡區）何（町村）
何番地（居住寄留）
本貫族籍
專賣人　何　某　印

年　月　日

農商務大臣何某殿

前書之通願出候ニ付進達候也

年　月　日

何（府縣）知事（北海道廳長官）何某印

第十　明細書圖面ニ脱漏誤謬アリテ補足改正ヲ願出ルトキ

明細書（圖面）脱漏補足（誤謬改正）願

一明治何年何月何日付第何號專賣特許證

一何々（發明ノ名稱ヲ掲クヘシ）

一發明者何某

一專賣人何某

右專賣特許證ニ係ル明細書（圖面）中脱漏（誤謬）有之候ニ付別紙之通補足（改正）致度尤之カ爲メ發明ノ重要事項ニ變更ヲ生スル儀無之ト確信候間此段奉願候也

（專賣人發明者ニアラサルトキハ發明者存生中ナレハ連署スヘシ）

何（府縣）（北海道）何（郡區）何（町村）
何番地（居住寄留）
本貫族籍
專賣人　何　某　印

年　月　日

農商務大臣何某殿

前書之通願出候ニ付進達候也

年　月　日

何（府縣）知事（北海道廳長官）何某印

第十一（専賣特許願人他人ニ代理ヲ委任シタルトキ）

代人御届

一明治何年何月何日専賣特許願
右願ニ關スル事件ニ付何某（住所本貫族籍ヲモ記スヘシ）ヲ以テ代人ト相定メ候條此段御届申上候也

何（府縣）（北海道）何（郡區）何（町村）
何番地（居住寄留）
本貫族籍
年　月　日　願人　何　某　印
農商務大臣何某殿

前書之通届出候ニ付進達候也

年　月　日
（府縣ノ知事（北海道廳長官）何某印

第十二（願書訂正ノ達ヲ受ケ訂正ヲ加ヘ進達スルトキ）

願書訂正ノ儀ニ付上申
一受付番號　何（府縣）（北海道）何（郡區）
何（町村）何番地（居住寄留）
一明治何年何月何日付　本貫族籍

一何々專賣特許願　願人　何　某
右願書訂正方御達書明治何年何月何日到達依テ御達ノ趣ニ從ヒ訂正ヲ加ヘ進達仕候也

年　月　日　右　何　某　印
農商務省專賣特許局長何某殿

第十三（明細書ニ關シテ理由書ノ達ヲ受ケ訂正書又ハ答辯書ヲ進達スルトキ）

訂正書（答辯書）進達之儀ニ付上申
一第何室
一出願順號　何（府縣）（北海道）何（郡區）
何（町村）何番地（居住寄留）
一明治何年何月何日付　本貫族籍
一何々專賣特許願　願人　何　某
右願書附屬明細書ノ儀ニ付明治何年何月何日付御達ノ趣ニ從ヒ別紙訂正書（又ハ御達ノ趣本服致シ難ク候ニ付別紙答辯書）進達仕候也

年　月　日　右　何　某　印
農商務省專賣特許局長何某殿

第十四（圖面訂正ノ達ヲ受ケ訂正ヲ加ヘ進達スルトキ）

圖面訂正ノ儀ニ付上申
一第何室
一出願順號　何（府縣）（北海道）何（郡區）
何（町村）何番地（居住寄留）
一明治何年何月何日　本貫族籍
一何々專賣特許願　願人　何　某
右願書附屬圖面不完全ノ旨明治何年何月何日付ヲ以テ御達ニ付訂正ノ上進達仕候也

年　月　日　右　何　某　印
農商務省專賣特許局長何某殿

第十五（圖面徵收ノ達ヲ受ケ進達スルトキ）

圖面進達ノ儀ニ付上申
一第何室
一出願順號　何（府縣）（北海道）何（郡區）
何（町村）何番地（居住寄留）
一明治何年何月何日　本貫族籍
一何々專賣特許願　願人　何　某
右發明審査上圖面入用ノ旨明治何年何月何日付ヲ以テ御達ニ付進達仕候也

年　月　日　右　何　某　印
農商務省專賣特許局長何某殿

明細書式

一明細書ハ美濃紙二ツ折ニシテ上部曲尺一寸下部八分左二分綴料一寸ヲ餘シ楷行ノ内ニテ十三行二十五字詰ヲ以テ字體明瞭ニ認ムヘシ
一明細書ニハ專賣特許願手續第五條ニ掲ケタル事項ヲ記載スヘシ其他之カ說明ニ必要ナラサルコトハ決シテ記載スヘカラス
一明細書ハ書損ナキ樣認ムヘシ若シ書損アリテ加除訂正スルトキハ其上部ニ存スル餘白ニ第何行第何字目何々ノ下何々ノ上何々ノ何字ヲ加ヘ又ハ除クトカ或ハ何々ノ字ヨリ何々ノ字ニ至ル何字ヲ何々ノ何字ニ改ムト記シテ捺印スヘシ決シ

テ紙ヲ糊付シテ書損ノ部分ヲ掩ヒ其上ニ書改ムル等ノコトヲナスヘカラス但シ削除訂正セラレタル文字ハ墨ニテ一ノ縦線ヲ引キ之ヲ抹消スヘシ

一明細書ニハ末尾ニ住所本貫族籍氏名ヲ記シテ捺印スヘシ年月日及宛名ハ認ムルヲ要セス

製圖法

一圖面ハ成ルヘク美濃紙ノ純白ナルモノヲ用ヒ其上部曲尺一寸下部八分左三分右一寸五分位ヲ除シ竪曲尺七寸二分横四寸六分ノ長方形而内ニ認メ且ツ右一寸五分ノ内一寸ヲ綴料トシ綴料ト該長方形トノ間ニ於ケル餘白ノ上部ニ發明ノ名稱ヲ掲クヘシ但署名捺印ハ該長方形而内左右ノ下部ニ於テ圖面ニ妨ケナキ様之ヲナスヘシ

一圖面ニハ明細書ト同様ノ署名捺印ヲ要ス但署名ハ細字ニテ氏名ノミヲ記スヘシ

一圖面ハ寫眞石版ノ原料ニ適スヘキ様濃墨ヲ用ヒ鮮明ニ畫キ着色スヘカラス

一圖ノ離レタルモノハ一箇毎ニ第一圖第二圖ト番號ヲ付シ又一ノ部分ニシテ數圖ニ亘ルモノアレハ必ス同一ノ符號ヲ用フヘシ但シ番號及符號ハ圖ノ妨ケトナラサル様墨ニテ明瞭ニ認ムヘシ

一截斷面ヲ現ハスニハ線間凡三厘ヲ離レタル平行線ヲ斜ニ引クヘシ又截斷面中部分ヲ異ニスル所ハ各方向ノ差ヒタル斜線ヲ用フヘシ

一圖面ノ凹凸ヲ明瞭ナラシムル爲メ陰ヲ施スコトヲ要スルトキハ線ヲ用ヒ簡明ニ畫クヘシ射影ハ決シテ施スヘカラス

一圖面ハ明細書ノ説明文中ニ畫キ入ルヘカラス必ス別紙ニ認ムヘシ

第一 器械ノ發明ヲ記載スルトキ

明細書

肉類細切器械

肉類細切器械ノ新規有益ナル改良ヲ發明セリ依テ左ニ之ヲ詳細確實ニ説明ス

此發明ハ昇降運動ヲナス庖丁ト回轉スル俎ト相狎テ其用ヲナス肉類細切器械ノ改良ニシテ其目的トスル所三アリ第一俎ヲ支持スルニ常ニ滑カナル承盤ヲ設備スルコト第二俎ノ表面ニ對シ數箇ノ庖丁ヲ各々別々ニ整理スルヲ得セシムルコト第三庖丁ヲ運動セシムル昇降桿ノ壓擦ヲ減省スルコト是ナリ

別紙圖面ハ右ノ目的ヲ達スヘキ機構ヲ示シタルモノニシテ即チ其第一圖ハ全器械ノ縦斷面圖ナリ第二圖ハ俎及庖丁ヲ取除キタル器械ノ頂面圖ニシテ第三圖ハ該器械ノ第二圖ニ示セル部分ヲ(一、二)ノ線ニ於テ截斷シタル縦斷面圖トス而シテ第四圖ハ昇降横桿ト其庖丁トヲ示シタル詳圖ナリ總テ此圖面ニ附シタル同一ノ符合ハ同一ノ部分ヲ示シタルモノトス

壓(い)及其脚(ろ、ろ)並ニ壓ノ裏面ニ固着シタル軸吊(イ)ヲ以テ本器械ノ構礎トス軸吊(イ)ニハ軸(に)ヲ通シ且ツ同軸ニ飛輪(ほ)ヲ備ヘ而シテ飛輪ノ殼ニ設ケタル曲柄半ヲ横桿(と)ヲ通シタル串ニ接續スルニ連桿(ロ)ヲ以テシ該横桿(と)ニハ昇降桿(ち)ヲ固着シ此桿ノ上端ニ庖丁(二、二)ヲ備ヘタル横桿(ま)ヲ附着シタリ

横桿(と)ハ軸(に)ニ藉リテ昇降ス而シテ之ニ備フルニ壓(い)ノ裏面ニ固着シタル導字(ケ、ケ)ニ適應セシメタル減阻轉子(ホ、ホ)ヲ以テセリ是レ該横桿ノ昇降スルニ成ルヘク壓擦ヲ減殺セシメンカ爲メナリ

木製俎(ぬ)ノ裏面ニハ壓(い)ニ設ケタル輪溝(マ)ニ嵌合スルニ適應シタル環狀ノ輪(チ)ヲ固着シタリ此輪溝ハ全部同一ノ深サニアラスシテ一箇所若クハ二箇所以上(茲ニ示ス所ノモノハ二箇所ナリ)ニ油ヲ貯フヘキ稍々深キ凹所(ヌ、ヌ)ヲ設ケ而シテ輪(チ)ハ皆ニ此油ニ觸レテ回轉スルヲ以テ輪ト溝トノ間ハ不斷太甚タ滑カナリ昇降桿(ち)ハ中央架子(る)ヲ貫通シ此架子ニ因テ直導セラレ該架子ハ壓(い)ニ固着シ俎ニ接觸セスシテ之カ中央孔ヲ通シテ上方ニ突出シ其上部ハ俎ニ緊着シタル覆單(ル)ノ内ニ在リ而シテ此覆單ハ俎ノ中央孔内ニ肉片ノ入ルヲ防クモノトス

第四圖ヲ以テ其詳圖ヲ示シタル横桿(ま)ハ昇降桿(ち)ニ直垂ニ嵌入スルヲ得而シテ其位置ヲ整理シタルトキハ止螺旋(ソ)ヲ以テ緊着スル様ニ作リタリ又

該并降桿ノ上端ニハ螺旋ヲ刻シ之ニ螺旋止ヲ嵌合シ以テ庖丁ノ激シク運動シテ俎上ノ肉ニ接スルトキ横桿ノ受クル激動ニ抗セシムルナリ

庖丁(ニ、ニ)ハ相互及前項ニ述ヘタル横桿ニ關係ナク各自ニ整理セシムヘキカ故ニ常ニ庖丁ノ刃ト俎ノ面トヲシテ適宜ニ相應セシムルコトヲ得ルナリ

自分ノ發明中此庖丁ニ關スル考案ヲ實施スルニハ第四圖ニ示ス所ノ裝置ヲ可トス卽チ二箇ノ螺旋棍(ワ、ワ)ヲ各庖丁ノ背部ニ固着シ該棍ヲシテ横棍ノ凸邊(カ、カ)ヲ貫通セシメ而シテ各螺旋棍ノ貫通セル上下ニ螺旋止ヲ裝置シ以テ此各箇螺旋止ノ作用ニ藉リ最モ精密ニ庖丁ヲ整理スルヲ得ルモノトス

俎ノ周邊ニハ圓形ノ圍繞板(タ)ヲ固着シテ檜(た)ヲ形成セシメ以テ肉類ヲシテ其俎面外ニ出テサラシム又環狀ノ輪(チ)ノ邊緣ニ於テ俎ノ裏面ニ固着スルニ小齒輪(レ)ニ嚙合フヘキ刻齒ヲ以テス而シテ該小齒輪ハ軸(に)ニ藉リ適宜ナル聯動機ノ作用ヲ以テ運轉セシムルヲ得ヘシ但シ別紙圖面ニ示セル聯動機ノ如キハ此發明ノ部分トシテ示シタルモノニアラス

該軸(に)ハ滑車(ツ)ニ帶革ヲ繞ラシテ以テ之ヲ回轉セシムルコトヲ得ヘク又一端ニ把手(子)ヲ備ヘ他端ニハ軸(ヌ)ニ設ケタル小齒輪ニ嚙合ハシメタル齒輪(ふ)ヲ備フル軸(む)ヲ裝置シテ手ヲ以テ回轉スルコトヲ得ヘシ

臺(い)ノ一邊ニ蝶鉸ヲ以テ臺板(れ)ヲ附着シ以テ細切シタル肉ヲ入ルヘキ器物ヲ載スル用ニ供スルヲ得ヘシ該臺板ヲ支撐シ又ハ不用ナルトキ之ヲ除去スルニ最簡便ナル方法ハ第一圖ニ示セルカ如シ

本發明ハ回轉俎ト昇降スル庖丁ト相須テ作用ヲ爲ス所ノ肉類細切器械ノ改良ナルカ故ニ上陳結合ノ全部ヲ以テ自分ノ發明トセス特許證ヲ得ンカ爲メニ自分ノ發明トシテ其權利ヲ請求スル區域ハ左ノ如シ

一　肉類細切器械中環狀ノ輪(チ)ヲ備ヘタル回轉俎ト輪溝(マ)及其溝ニ接續スル回所(メ)ヲ一箇若クハ二箇以上設ケタル臺トノ結合

二　肉類細切器械中回轉俎ト各自互ニ關係ナク横桿ニ直垂ニ整理シ得ヘキ庖丁(ニ、ニ)ヲ備ヘタル昇降横桿トノ結合

三　前ニ詳記シタル目的ヲ以テ背部ニ二箇ノ螺旋棍(ワ、ワ)ヲ固着シタル庖丁

四　肉類細切器械中庖丁(ニ、ニ)ヲ昇降運動シ且ツ廻轉ヲ減殺スル減阻轉子(ホ、ホ)ヲ備フル横桿と)

ヲ固着シタル昇降桿(ち)ト該減阻轉子ニ適應スル樣ニ設ケタル導子(ケ、ケ)トノ結合是レナリ

何府縣(北海道)何郡何區何町何村何番地居住
本貫族籍
發明者(又ハ相續人讓受人)何某印

(圖式雜形略ス)

第二　物品ノ發明ヲ記載スルトキ

明細書

挿畫匣

文書ノ保存檢閲ニ用フル新規有益ノ挿畫匣ヲ發明セリ左ニ之ヲ詳細確實ニ說明ス

此發明ノ目的ハ公私ノ執務所ニ於テ文書ヲ保存シ且ツ之ヲ檢閲スルニ便利ナラシムルニ在リ

此發明ハ木材金屬又ハ其他ノ適當ナル資料ヲ以テ作リタル矩形ノ匣ニシテ其前面ノ上緣ト面後ノ下緣トノ平面若クハ其接近ノ部分ヲ斜ニ截斷シ蝶鉸ヲ以テ之ヲ蓋ヒ匣ノ兩側ニ沿ヒ頂ト底トノ間ニ於テ制齒ヲ具シタル硬固ノ透溝杆ヲ縱設シ又撐ニ附着シテ補足ノ用ヲ爲シ穩ヲ鎖定スル所ノ側心梃ヨリ成レル押止スヘキ裝置ヲ設ケ且ツ導棍ヲ備ヘタル隨從板ヲ附シ導棍ト隨從板トノ間ニ前記ノ蓋ヲ串通セルモノナリ別紙圖面ニ於テ同一ノ符號ヲ附シテ同一ノ部分ヲ示セリ第一圖ハ匣ノ閉合シタル所ヲ示シ第二圖ハ在中ノ文書ヲ檢閲スル爲メ又ハ文書ヲ挿入スル爲メニ匣ヲ開キタル所ヲ示セルナリ第三圖ハ變形ノモノニシテ卽チ蓋ナキ挿畫具トス

圖面中示ス所ノ(い)ハ匣ノ前面(ろ)ハ底(は)ハ側面(ほ、ほ)ハ制齒ヲ具シタル硬固ノ透溝杆ニシテ卽チ蓋(と)ノ由テ以テ隨從板(ち)ヲ運用スル所ナリ(ト)ハ補足ノ用ヲ爲シ穩ヲ鎖定スル爲メニ之ニ附着シタル側心梃トス(チ、チ)ハ隨從板ニ附着シタル導棍ニシテ蓋ハ此導棍ト隨從板トノ間ニ串通スルナリ

制齒杆ニハ横透溝ヲ設ケ而シテ此横透溝ノ端ハ接ヘと)ノ兩端ヲ承クル承架ヲナス所ノ直立シタル縱透溝ニ至テ終レリ是レ隨從板(ち)ヲシテ後方ニ傾下セシメ以テ在中文書ヲ檢閲スルニ便スルカ爲メナリ

此挿畫匣ヲ使用スルニハ上截分(ヌ)ヲ擧ケタル後側心梃(ト)ヲ制齒ヨリ離ノ離ルヽ丈ニ揭起シ欲スル所ノ距離ニ移シテ制齒ニ掛クルナリ爾スレハ卽チ隨從

板(ち)ハ後方ヘ倒ルヽカ故ニ兩手ヲ以テ文書ヲ捻閉シヌハ之ヲ隨從板(ち)及ヒ先端(い)ノ間ニ挿入スルヲ得ヘシ而シテ楔ヲ押送シ文書ヲ充分押壓シ兩側ノ制齒ニ楔ヲ下シ隨從板ニ向テ側心梃ヲ下方ヘ壓スレハ壓力ヲ補足シ鎖ヲ鎖定スルヲ得然ル後上載分ヲ閉合スルナリ

第三圖ノ蓋ナキ挿書具モ其使用法前條ニ同シ

專賣特許ニ依リ自分カ此發明ノ保護ヲ請求スル區域ハ左ノ如シ

一　別紙圖面ニ示シ且ツ本書ニ記載シタルカ如ク一箇ハ制齒ヲ具スル透溝ヲ備ヘタル杆ト之ト適合セシメラルヘキ隨從板トヲ備ヘ一箇ハ蓋トナル所ノ共ニ三角形ニシテ蝶鉸ニテ附着セラレタル兩箇ノ載斷分ヲ以テ外圍ト爲ス挿書匣

二　接合シタル縱横ノ透溝ヲ備ヘ溝ニ制齒ト隨從板ノ横ノ承架トヲ具シ屈折シタル兩杆

三　匣ト各々一端ニ横ヲ承クヘキ承架ニ至テ終ル所ノ縱透溝ヲ設ケタル硬固ナル二箇ノ制齒杆トヲ附シタル隨從板トノ結合

四　前板(い)底板(る)隨從板ノ横ノ承架ニ終リタル縱透溝ヲ備ヘ硬固ニシテ制齒ヲ具セル透溝ヲ設ケタル兩杆(ほ、ほ)ト及押止スヘキ裝置ヲ附シタル隨從板(ち)トノ結合

五　三角形ニシテ蝶鉸ヲ以テ番ヒタル兩載分、縱透溝(卽チ承架)ヲ備ヘ硬固ニシテ制齒ヲ具スル透溝ヲ設ケタル兩杆(ほ、ほ)兩擧梶(チ、チ)ヲ附シタル隨從板(ち)及ヒ側心梃(ト)ヲ備ヘタル樣(へと)ヨリ成ル所ノ全備セル挿書匣ナル新製造品

是レナリ

署名ノ式ハ第一號式ニ同シ

（圖式雜形畧ス）

第三方法ノ發明ヲ記載スルトキ

明細書

軟鐵及鋼鐵製造法

軟鐵及鋼鐵ヲ製造スルニ用フル鹽基的方法ノ新規一益ナル改良ヲ發明セリ依テ左ニ之ヲ詳細確實ニ說明ス

此發明ノ目的ハ熔解シタル粗鐵ヨリ燐及硫黃ヲ除去スルニ在リ其方法ハ鹽基性物卽チ硅酸ヲ含有セサルモノヲ以テ內壁ヲ塗布シタル回轉爐ニ鐵ヲ投入シ硅

素ヲ釋除スル爲メ大氣ヲ鼓入シテ之ヲ處理シ從テ化生スル所ノ含硅熔滓ヲ該爐ヨリ注脫シ然ル後燐及ヒ硫黃ヲ釋除スル爲メニ大氣ト螢石卽チ「弗化カルシアム」トヲ用ヰテ鐵ヲ處理スルモノトス

此發明ヲ施行スルニハ顚回爐ヲ用ヒ之ニ熔鑛爐ヨリ熔鐵ヲ移注シ顚回爐ノ底若クハ側部ヨリ鼓入スル大氣ヲ以テ處理ス而シテ其鼓入ハ方法ノ初期ノ終尾卽チ硅酸作用ノ起源スルニ至ルマテ連續シ該期ノ終尾ヲ待テ顚回爐ヲ傾ケ其熔滓ヲ除却スルナリ

次テ又大氣ノ鼓入ヲ爲スニ方リ顚回爐ヲ直立ノ地位ニ復シ而シテ直チニ之ニ螢石ヲ投入ス尤其細粉ナルモノヲ宜トス然スレハ則チ螢石ハ大氣ノ鼓入ニ由リ熔鐵中ニ射入セラルヽナリ否ラサレハ熔滓ヲ除去シタル後顚回爐ノ口部ニ其小塊ヲ投入スルモ可ナリ

斯ノ如クスレハ熱ノ爲メニ螢石分解シ弗素ト石灰トヲ化生シテ以テ硫黃ト燐トヲ蒸氣及ヒ熔滓トシテ除去シ(硅素ノ殘留スルモノアレハ亦同シ)而シテ粗鐵ハ釋炭作用ノ完否ニ依テ鋼鐵若クハ軟鐵ニ變化ス

顚回炭ノ內壁ヲ塗布スルニハ石灰若クハ「マグネシア」石灰ヲ用フルヲ良トス然レトモ亦他ノ適應ナル石灰質ノモノヲ用フルモ妨ケナシ

前記粗鐵ハ普通ノ「ベセマー」法ニ於テ通常用ユルモノニシテ百分中硅素二炭素三乃至四及ヒ若干ノ螢石ヲ用フルニアラサレハ鋼鐵ヲ生成スル能ハサル程ニ過量ノ燐ヲ含有スルモノナリ

粗鐵中ニ多量ノ滿俺存在スルトキハ硅素ノ在量稍少カルヘシ(然レトモ稍多量ナル硅素ヲ含有スルモ妨ケナシ)茲ニハ百分中三乃至五ノ滿俺ヲ含有スル粗鐵ヲ用フルヲ良トス是レ大氣鼓入ノ終リニ當リテ滿俺ノ加入ヲ要セサレハナリ若シ粗鐵滿俺ヲ含有セサレハ釋炭作用ノ後直チニ鐵鐵ノ一乃至一、五分ヲ投入ス是レ釋炭作用ノ間ニ滿俺存在スレハ之ヲ次期ニ於テ加入スルニ比シ鐵ノ質ヲシテ大ニ良好ナラシムルニ由ル然レトモ鐵ヲ精製スル間ノ滿俺ノ存否ハ必スシモ鋼鐵ノ生成ニ緊要ナリトセス何トナレハ鼓入間滿俺ノ存否ニ關セス大氣ノ鼓入ノ終リニ當テ滿俺ヲ投入スルモ可ナレハナリ

粗鐵中含有スヘキ螢石ノ量ハ其鐵中ニ含有スル硅燐及ヒ硫黃ノ三乃至五倍アルヲ可トス

石灰又ハ酸化鐵ヲ螢石ト混和シ或ハ釋硅作用前ニ石灰ヲ粗鐵ト共ニ顚回爐ニ投入スルモ可ナリ然レトモ斯ク石灰又ハ酸化鐵ヲ使用スルハ敢テ緊要ノコトニアラス

螢石ヲ釋硅作用ノ後ニ用ヒテ之ヲ其前ニ用ヰサルノ利益タル所以ハ若シ「ベセマー」法ノ始メニ當テ之ヲ適用スレハ大ニ熔鐵ヲ冷却シ從テ之ヲ流注シ難カラシメ且螢石ノ多量ヲ要スルヲ以テナリ

釋硅作用後ニ含硅熔滓ヲ除去スルノ利益タル所以ハ

之ニ依テ熔滓ヲ中和スル爲メ螢石ヲ浪費スルノ憂ナカラシメンカ爲ナリ若シ鹽基性物ヲ永ク爐回爐内ニ留滞セシムレハ其多量ハ無益ニ熔滓ト相化合スヘシ「ベセマー」法ニ於テ鑄鐵ヨリ燐ヲ驅除スルカ爲メニ螢石並ニ大氣ヲ使用スルハ已ニ世ニ知ラレタル方法ナルヲ以テ自分ノ發明トシテ其權利ヲ請求スルヲ爲サス自分ノ發明ハ即チ前陳方法ノ改良ニシテ小量ノ螢石ヲ用ヒテ以テ精製スルコトヲ得ルニ在リ

專賣特許證ニ依テ自分カ發明ノ保護ヲ請求スル區域ハ左ノ如シ

第一次適應ナル鹽基性物ヲ以テ鑄布シタル爐回爐内ニ於テ珪素ヲ驅除スル爲メ火氣ノ吹入即チ噴射ヲ以テ粗鐵ヲ處理シ第二次生成シタル含珪熔滓ヲ注脫シ第三次硫黃及ヒ燐ヲ驅除スル爲メ螢石若クハ同値ノ鹽基性物ヲ以テ熔滓ヲ處理スルヨリ成ル軟鐵及ヒ鋼鐵製造ノ改良法是ナリ

署名ノ式ハ第一書式ニ同シ

第四合成劑ノ發明ヲ、記載スルトキ

明細書

脫毛媒助劑

毛皮ヲ鞣化スルニ用フル新規有益ナル合成劑ヲ發明セリ依テ左ニ之ヲ詳細確實ニ說明ス

此發明ノ目的ハ毛皮ヲ鞣化スルニ當リ豫メ其毛皮脂肪ヲ脫除シ易カラシムルニ在リ

此合成劑ハ清水、生石灰、炭酸曹達、硝石、及花狀硫黃ヨリ成ル即其割合ヲ掲クル左ノ如シ

清水	一二五、〇
生石灰	八、〇
炭酸曹達	一二、〇
硝石	二、四
花狀硫黃	一、二

以上ノ成分ヲ攪拌シテ能ク之ヲ混和セシムルモノトス此合成劑ノ用法ハ豫メ毛皮ヲ一日乃至八日間水中ニ浸シ皮狸ニ含有スル鹽類及汚物ヲ脫除シ之ヲ清淨ニシタル後此液劑中ニ浸ス凡四十八時間ニシテ之ヲ取出シ通常ノ法ヲ以テ其毛ヲ脫除スルモノトス

此合成劑ヲ使用スルトキハ當ニ其毛ヲ脫除シ易カラシムルノミナラス却テ毛皮ヲ鞣化スルニ當リ妨碍ヲ來タスヘキ脂肪及ヒ其他ノ物質ヲ脫除シ精良ノ柔革ニ變成スヘキ質ハ之ヲ保存ス

上文記載スル所ニ依リ自分ノ發明トシテ其權利ヲ請求スル區域ハ左ノ如シ

毛皮ヲ脫除スルニ當リ豫メ其毛ヲ脫除スルニ易カラシムル爲メ使用スヘキ前記ノ割合ニ於テ清水、生石灰、炭酸曹達、硝石、花狀硫黃ヨリ成ル合成劑是ナリ

署名ノ式ハ第一書式ニ同シ

伺指令

專賣特許條例及手續條項中疑義ノ儀埼玉縣ヨリ農商務省ヘ伺 十八年四月二十七日

今般第七號御布告專賣特許條例及第五號御布達專賣特許手續條項中疑義ノ廉左ニ

一條例第五條中ニ又ハ廣ク用ヰシムルコトヲ必用ナリト認ムル發明ニハ農商務卿ニ於テ專賣特許ヲ與ヘス云々トアルハ單用品ノミニ限ラス諸般ノ物件ニシテ社會公益ノ最モ大ナルモノト公認セラルヽモ惟リ發明者ニ專賣權ヲ附與スルトキハ却テ之カ擴充ヲ妨クルノ憂レナキ能ハサルヲ以テ發明者ニハ相當ノ報酬金ヲ與ヘラレ而シテ該發明品ハ何人ヲ問ハス製造販賣勝手タラシムヘキ御仕向ニ候哉

二同第八條但書ニ追加特許ハ原專賣特許ノ年限ヲ超ユルコトヲ得ストアルハ譬ヘハ某物件ニ改良ヲ加ヘテ追加專賣特許ヲ願出ル時ハ其追加特許證ノ日付ヲヨリ起算シテ更ニ向フ何年原特許五年ナレハ追加特許モ五年同十年十五年ナレハ追加モ又十年十五年特許ヲ受ケ得ラルヽ義ニ候哉又ハ當初十五年ノ特許ヲ得テ既ニ十年ヲ經過セシ後改良ヲ加ヘ追加ヲ願出ルトキハ殘リ五年丈ケノ特許ニシテ其以上ヲ超ユルコトヲ得サルノ憂ニ候哉

三同第十五條第二項ニ專賣特許ノ發明品ヲ外國ヨリ輸入シテ之ヲ販賣云々トアルハ譬ヘハ何某ノ發明ヲ以テ專賣特許ヲ得タル物品ト同一ノ物品外國ニ發明者アリテ齊シク其政府ノ專賣特許ヲ得テ本邦ニ齎シ來リテ之ヲ販賣スル者アルトキハ右何某ノ專賣權ハチノツカラ消滅スト、ノ憂ニ候哉又ハ專賣特許ヲ得シ發明品ヲ自カラ外國ニ遣リテ製造セシメ之ヲ輸入シテ販賣セシコトノ發覺シタル時專賣ノ權ヲ剝奪セラルヽトノ憂ニ有之候哉

四同第二十條ニ專賣特許ノ發明品ヲ僞造シ若クハ外國ヨリ輸入シヌハ專賣特許ノ方法ヲ竊用シタル者ハ云々ト有之右發明品ヲ僞造ストハ他人ノ專賣特許ヲ得タル發明品ヲ模造シテ之ニ發明者ノ姓名及ヒ特許ノ年月日年限等ヲ標記シタルモノヽ謂ヒニシテ外國ヨリ輸入ストハ他人ノ專賣特許ヲ受ケタル發明品ヲ竊カニ外國ニ遣リテ造ラシメ之ヲ輸入販賣シ或ハ其輸入品ヲ模範トシテ製造販賣シ一方ヨリ專賣權ヲ侵サレタリトシテ告訴スルモノアルモ外國品模造ノ口實ヲ以テスルカ如キ故意ノ者ヲ指ス歟ニ候哉將タ方法ヲ竊用ストハ例ヘハ專賣特許ヲ得タル發明品圓形ナレハ方形ニシ本製ナレハ鐵製ニシテ形容ヲ殊ニスルマテニテ其實右發明者ノ考按意匠ヲ全用

シタル者ヲ指ス義ニ有之候哉

五同第二十四條ニ詐僞ノ所爲ヲ以テ專賣特許ヲ受ケヌハ專賣許許ヲ僞稱シタル者ハ云々ト有之右詐僞ノ所爲云々トハ條例第二十條ノ事項ト類似ノ故意瞞瞞ヲ以テ既ニ特許ヲ受タルモノヽ謂ヒニシテ僞稱云々トハ專賣特許ヲ得スシテ特許ノ名ヲ密用スルヲ指ス義ニ有之候哉

六手續第十三條ニ專賣特許ヲ受タルモノ約束ヲ以テ他人ニ其發明ヲ使用セシムルトキハ雙方連署シテ之ヲ屆出ヘシトアルハ專賣權ヲ有スルモノ自己ノ都合ニ依リ讓與分與ノ手續ニ依ラス特許年限中若干年間若クハ全期他人ヲシテ之ヲ製造及販賣セシムルコトヲ爲シ得ラルヽトノ意ニ有之候哉

指令　十八年五月二日　伺之趣左ノ通可相心得事

一　見解ノ通　二　後段見解ノ通　三　專賣人自ラ輸入シテ販賣スル場合ヲ指スモノトス

四　前二段見解ノ通後段ハ專賣特許ヲ得タル製造方法ノ如キ工術ヲ轉用シタルモノヲ指スモノトス

五　見解ノ通　六　見解ノ通

◎專賣特許ノ器械物品模造ノ件ニ付愛媛縣ヨリ農商務省ヘ伺十八年十一月十日

甲者既ニ專賣ノ特許ヲ得タル發明品ニシテ乙者之ヲ模造シ已レ一人ノ使用ニ供シ候義ハ法律上ニ於テ差支無之候哉又ハ假令一己ノ用ニ供スルモ之ヲ模造スル時ハ專賣條例第二十條專賣特許ノ發明品ヲ僞造シタル廉ニ依リ處斷可相成儀ニ候哉

指令　十八年十一月二十五日　伺之趣後段見解ノ通可相心得事

第百七十八章　商標條例

明治十七年六月七日第拾九號布告

商標條例別冊ノ通制定シ明治十七年十月一日ヨリ施行ス

右奉　勅旨布告候事

（別冊）

商標條例

第一條　商標ハ農商務省ノ商標簿ニ登錄ヲ經タルトキハ其所有主ニ於テ登錄ノ日ヨリ十五年間之ヲ專用スルノ權ヲ有ス可シ

第二條　商標ヲ專用セント欲スル者ハ願書ニ見本幷明細書ヲ添ヘ登錄ヲ願出ツ可シ其明細書ニハ商標ノ說明、用方幷其商品ノ名目種類ヲ詳記ス可シ

其登錄ヲ經タル者ハ登錄證ヲ下付ス可シ

第三條　商標ノ登錄ヲ願出ツル者アルトキハ願書ノ日附ヨリ二ケ月間之ヲ留置其間ニ之ト牴觸ス可キ願書到達セサレハ之ヲ登錄ス可シ

若シ二人以上同一又ハ相紛ラハシキ商標ヲ同一種類ノ商品ニ專用センカ爲メ登錄ヲ願出ツル者アリ牴觸スルトキハ其願書日附ノ後ナル者ヲ却下ス其日附同シキ者ハ共ニ之ヲ却下ス可シ

第四條　登錄商標ハ農商務卿ニ於テ衆庶ノ觀覽ニ供スル爲メ便宜ノ方法ヲ定ム可シ

第五條　左ノ商標ハ登錄ヲ願出ツルコトヲ得ス

一　已ニ登錄セル商標ト同一又ハ相紛ラハシキ商標ニメ同一種類ノ商品ニ用フル者

二　地名人名家號會社名ノミヲ以テスル者又ハ商品普通ノ名稱或ハ內外國ノ旗章ノミヲ以テスル者

三　同業者普通ニ用ヒ又ハ商業上慣用セル目印ヲ以テスル者

四　新ニ使用スル商標ニシテ本條例頒布以前ヨリ現ニ使用者アル商標ト同一又ハ相紛ラハシキ商標ヲ同一種類ノ商品ニ用フル者

二十年四月勅令第九號ヲ以テ第十四條改正

第六條　登錄商標主其專用年限中轉籍轉居又ハ氏名ヲ變換シタルトキ及廢業シ又ハ休業一ヶ年ニ及ヒタルトキハ三ヶ月以內ニ之ヲ屆出ツ可シ

第七條　登錄商標專用年限中其相續者ニ於テ其業ヲ相續シタルトキハ三ヶ月以內ニ之ヲ屆出ツ可シ

第八條　登錄商標主其商標ノ專用權ヲ他人ニ讓與又ハ分與セントスルトキハ更ニ其登錄ヲ願出ツ可シ但專用年限ハ最初登錄ノ日ヨリ通算ス可シ

第九條　登錄商標ヲ他ノ種類ノ商品ニ兼用若クハ轉用シ又ハ之ヲ改正セントスルトキハ更ニ其登錄ヲ願出ツ可シ

前項ノ場合ニ於テハ第三條ニ依テ處分ス可シ

第十條　登錄商標專用滿期ノ後之ヲ續用セントスル者ハ滿期三ヶ月前ニ更ニ其登錄ヲ願出ツ可シ

第十一條　登錄證ヲ毀損遺失シタルトキハ其再渡ヲ願出ツ可シ

第十二條　商標ヲ登錄セシ後第五條ニ觸レ又ハ登錄願書及見本明細書ニ相違ノ事實アルコトヲ發見シタルトキハ其登錄無効ニ歸シ登錄證ヲ返納セシム可シ

第十三條　登錄商標主其業ヲ廢シタルトキハ廢業ノ日ヨリ其專用權ヲ失ス休業三ヶ年ニ及フ者亦同シ

第十四條　商標ノ登錄ニ係ル願書ニハ左ノ區別ニ從ヒ證券印紙ヲ貼用ス可シ

一　商標ノ登錄、登錄商標ノ兼用轉用又ハ改正及登錄證ノ再渡　壹圓

二　登錄商標ノ滿期續用　五圓

登錄ノ證ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄料ヲ納ム可シ

一　商標ノ登錄　金拾圓

二　登錄商標兼用轉用又ハ改正ノ登錄　金五圓

三　登錄商標ノ讓與又ハ分與ノ登錄　金五圓

第十五條　登錄商標主其專用權ヲ侵サレタルトキハ之ヲ告訴シ並要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得

第十六條　登錄商標ヲ僞造シテ使用シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス其盜用シタル者ハ一等ヲ減ス

第十七條　登錄商標ニ相紛ラハシキ商標ヲ造リテ使用シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十八條　第十六條第十七條ノ違犯ニ係ル商標ヲ附シタル商品ヲ情ヲ知テ販賣シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條　第十六條第十七條第十八條ノ場合ニ於テハ仍ホ違犯ノ商標ヲ沒收ス其商品ト分離スヘカラサルモノハ商品ヲ破毀セシム

第二十條　詐僞ノ所爲ヲ以テ商標ノ登錄ヲ得及商標ノ登錄ヲ詐稱シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二十一條　第六條第七條ノ屆出ヲ其期限內ニ爲サヽル者ハ一圓以上一圓九十五錢以

下ノ科料ニ處ス

第二十二條　此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十三條　第十六條ヨリ第十八條ニ至ルノ罪ハ登錄商標主ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二十四條　登錄商標主告訴ヲ爲シタルトキハ裁判官ニ於テ假ニ其告訴ニ係ル商標ヲ附シタル商品ノ發賣ヲ停止スルコトヲ得

附則

本條例頒布以前使用スル商標ヲ專用セント欲スル者ハ本條例施行ノ日ヨリ六ケ月間ニ於テ其登錄ヲ願出ツ可シ其願書ハ本條例施行ノ日ヨリ八ケ月間之ヲ留置其間ニ之ト牴觸ス可キ願書到達セサレハ之ヲ登錄ス可シ

若シ二人以上同一又ハ相紛ラハシキ商標ヲ同一種類ノ商品ニ專用センカ爲メ登錄ヲ願出ツル者アリ牴觸スルトキハ其願書日附ノ前後ニ拘ハラス農商務卿ニ於テ其商標ノ使用ヲ最久シキト認定スルモノヲ登錄シテ其他ヲ却下ス可シ

本條例第三條ニ依リ處分ス可キ願書ト雖モ本條例施行ノ日ヨリ八ケ月間之ヲ留置附則第一項ニ依リ願出ツルモノニ牴觸スルトキハ其願書日附ノ前後ニ拘ハラス之ヲ却下ス可シ

前二項ノ場合ニ於テ願書ヲ却下スルトキハ其手數料ヲ返付ス

本條例頒布以前使用スル商標ニシテ現ニ其同業者間ニ專用ノ効アルモノハ商業上慣用セル目印ト雖モ其登錄ヲ願出ルコトヲ得（十八年第四號布告ヲ以テ本項ヲ追加ス）

（二十年五月農商務省令第二號ヲ以テ各條改正及ヒ十二條追加）

○商標登錄願手續（明治十七年六月七日第拾三號布達）

今般商標條例制定候ニ付商標登錄願手續別冊ノ通相定ム

右布達候事

（別冊）

商標登錄願手續

第一條　商標ニ關スル願書屆書ハ都テ地方廳ヲ經テ農商務省ニ差出ス可シ

第二條　商標ノ登錄ヲ願出ツルトキハ商標見本五枚ヲ添ヘ願書一通明細書二通ヲ差出ス可シ

第三條　一箇ノ商標ヲ二種以上ノ商品ニ用ヒンカ爲メ又ハ二箇以上ノ商標ヲ一種ノ商品ニ用ヒンカ爲メ登錄ヲ願出ツルトキハ其商品一種又ハ商標一箇毎ニ各別ノ願書及明細書ヲ差出ス可シ

第四條　條例第七條ニ據リ相續ヲ屆出ツルトキ其死亡後相續ニ係ル者ハ相續者幷身元詳ナル証人二名以上連署シ其生存中ノ相續ニ係ル者ハ登錄商標主相續者連署ス可シ

第五條　條例第八條ニ據リ商標ノ讓與分與ヲ願出ツルトキハ讓主ヨリ約定本書ヲ添ヘ願書一通ヲ差出ス可シ

其登錄ヲ經タルトキハ約定書本書ニ登錄濟ノ證印ヲ捺シ之ヲ下付ス可シ

第六條　條例第九條ニ據リ登錄商標ノ轉用兼用及改正ヲ願出ツルトキハ第二條ニ準據

ス可シ」條例第十條第十一條ニ據リ商標ノ續用及登錄證ノ再渡ヲ願出ツルトキハ願書一通ヲ差出ス可シ

第七條　商標ノ登錄ヲ願出ル者及登錄商標ノ兼用轉用改正讓與又ハ分與ヲ願出ル者ハ其登錄ヲ聞屆ヘキ旨ノ通知ヲ得タル日ヨリ三十日以內ニ其登錄料ヲ納ム可シ此期限內ニ登錄料ヲ納メサルトキハ其出願無効タル可シ但已ヲ得サル事由アリテ延期シタルモノト認ムルトキハ此限ニアラス

第八條　登錄願書ヲ却下スルトキハ其理由ヲ指示ス可シ

第九條　商標登錄願書ノ訂正ニ關シ達ヲ受ケタルトキハ其日ヨリ十五日以內ニ明細書ノ訂正ニ關シ達ヲ受ケタルトキハ其日附ヨリ三箇月以內ニ訂正書又ハ答辨書ヲ出ス可シ此期限內ニ之ヲ出サヽルトキハ其出願無効タル可シ但已ヲ得サル事由アリテ延期シタルモノト認ムルトキハ此限ニアラス

第十條　商標登錄願人ハ專賣特許局ノ達ニ隨ヒ其商標ノ木版又ハ鉛版ヲ差出ス可シ其達ノ日附ヨリ六ケ箇月以內ニ之ヲ差出サヽルトキハ其出願無効タル可シ但已ヲ得サル事由アリテ延期シタルモノト認ムルトキハ此限ニアラス

第十一條　登錄商標ヲ使用スル商品ノ種類ヲ定ムルコト左ノ如シ但願人ニ於テ其種類ヲ判知シ難キモノハ農商務省ニ於テ之ヲ判定ス可シ

商品ノ種類

第一種　化學品及藥劑　酸類　鹽類「アルカリ」漂白粉　護謨　樹脂　膠　燐　石磺　酒精「グリセリン」「キナエン」「モルヒ子」丁幾劑　舍利別　煎劑　丸藥　膏藥　藥油　麝香　丁子等

第二種　染料及顏料　藍玉　藍靛　紫根　紅　朱　丹　綠青　燒青　洋靛　白粉　胡粉　藤黃等

第三種　塗料　漆　假漆「ペンキ」　漉　靴墨等

第四種　香料及煙料　香油　髮膏　香袋　香水　炷香　線香　煉香等

第五種　金屬及其半加工品　銑鐵　鍛鐵　鋼鐵　條鐵　鐵棒　鐵板　銅　銅板　銅鐵　線　鉛　鉛板　亞鉛　亞鉛板　錫　合金等

第六種　金屬ノ製品　鑄物　打物　彫鏤品及編物等

第七種　利器及尖刃器　鎌　鋸　鑿　錐　鹽　針　釘　剪刀　小刀　剃刀　庖丁　鳶嘴等

第八種　貴金屬及其製品（アルミニウム金　ニッケル銀ノ製品モ此中ニ屬ス）　黃金　銀　四分一　紫銅其他貴金屬ノ合金鍍品及彫鏤品等

第九種　珠玉及其彫鏤品　珊瑚珠　眞珠　瑪瑙　水晶　黃玉　碧玉等及其模造品

第十種　鑛物類（但石炭ハ第五十一種ニ屬ス）

第十一種　石材及其製品幷彫鏤品　石板石　大理石　砥石　石器等及其模造品

第十二種　漆喰類　漆喰「セメント」石膏等

第十三種　陶磁器類　諸種ノ陶磁器　土器　坩堝　瓦　煉化石等

第十四種　七寶燒

第十五種　玻璃及其製品　玻璃壜　玻璃管　彩色玻璃等
第十六種　機械類　紡績機　裁縫機　製糖機　印刷機械其他諸製造機械　蒸氣ノ機關及罐等
第十七種　農工器具　鋤　鍬　唐箕　熊手　釘拔　鐵鎚　繩墨等
第十八種　學術上ノ器械類　理化學　醫術及測量等ノ器械
第十九種　度量權衡
第二十種　運送用ノ車類　荷車　馬車　人力車　自轉車等
第二十一種　樂器　琴、三味線　胡弓　笛等
第二十二種　時計及其附屬品
第二十三種　銃砲　彈丸　火藥　烟火類
第二十四種　鬻種紙　繭
第二十五種　眞綿及木棉綿
第二十六種　生絲　絹絲及天鬻絲（琴絲　金絲　銀絲等モ此內ニ屬ス）
第二十七種　綿絲
第二十八種　毛絲
第二十九種　麻絲
第三十種　絹織物
第三十一種　木綿織物

第三十二種　毛織物
第三十三種　麻織物
第三十四種　絹綿麻毛外ノ織物及各種ノ交織物
第三十五種　絲類ノ編物及組物（レースス）打紐　網等
第三十六種　被服　諸種ノ衣服　織物製帽子　手套　足袋　織物製雨衣　袴　目利安等
第三十七種　醸造物及飲料　諸種ノ酒　酢　醬油　密柑水　曹達水等
第三十八種　砂糖　諸種ノ砂糖　糖蜜　蜂蜜等
第三十九種　菓子及麵包類　干菓子　蒸菓子　掛ケ物　西洋菓子　飴　砂糖漬等
第四十種　茶及咖啡類
第四十一種　煙草類
第四十二種　穀菜種子及菓物類　五穀　蔬菜　蕈　菓實　種子　根球等
第四十三種　挽粉澱粉及其製品　諸種ノ挽粉　澱粉　麪類　湯波　蒟蒻　凍豆腐　凍蒟蒻等
第四十四種　味噌　醬物及漬物類
第四十五種　肉類海草ノ貯藏食品　鰹節　鰕　乾鮑　海苔　昆布　佃煮　罐詰　雲丹諸種ノ鹹製品等
第四十六種　牛乳製品　凝油（コンデンストミルクバタ）　乳油（チーズ）　乳餅　乳粉等

第四十七種　煙具及袋物　諸種ノ煙管　煙袋　煙管筒　懐中物等
第四十八種　紙及其製品　諸種ノ紙　色紙　短冊　擬革紙　油紙　澁紙　書簡筒　帳文匣　一閑帳　元結等
第四十九種　筆墨類　筆　墨　朱墨　印肉　墨汁　石筆　鉛筆　洋筆等
第五十種　皮革及其製品　馬具　革包　文匣　革帶　靴等
第五十一種　燃材　諸種ノ炭　附木　摺附木　燈心等
第五十二種　油蠟類　諸種ノ油　蠟　蠟燭　脂肪等
第五十三種　肥料　干鰯　鯡粕　油粕　骨粉等
第五十四種　木竹材
第五十五種　木竹藤製品及其漆塗蒔繪品類　指物　挽物　曲物　桶類　編物　組物等
第五十六種　角甲牙類ノ製品
第五十七種　藁及草ノ製品　壁表　莚　編笠　細　麥藁細工等
第五十八種　傘杖及履物　諸種ノ傘　杖　下駄　草履　鼻緒等
第五十九種　扇子及團扇
第六十種　提燈及「ランプ」類
第六十一種　齒磨及洗粉
第六十二種　刷子類
第六十三種　玩具類　花簪　鞠　碁　將棋　人形　獨樂　楊弓　押繪　造花　骨牌等

第六十四種　錦繪及寫眞
第六十五種　書籍新聞紙雜誌類
第十二條　商標ニ關スル諸願書式及明細書文例等ハ別ニ告示ス可シ

○商標登錄願手續及專賣特許手續

十九年九月七日農商務省令第十號

明治十七年第十三號布達商標登錄願手續第二條第五條第七條ノ手數料及仝十八年第五號布達專賣特許手續第二條第七條第十一條ノ免許料ハ出願ノ日ヨリ三日以內ニ納ムヘキコトニ改正ス

○商標ニ關スル諸願書式文例等ヲ定ム

二十年五月十八日農商務省告示第四號

商標ニ關スル諸願書式及明細書文例等別冊ノ通相定メ明治二十年六月一日ヨリ施行ス
但明治十七年當省第五號告示ハ右施行ノ日ヨリ廢止ス
（別冊）
商標ニ關スル諸願書式及明細書文例等
一書面ハ總テ美濃紙二ツ折ニシテ上部曲尺一寸下部八分左二分綴料一寸ヲ餘シ楷行ノ內ニテ十三行二十五字詰ヲ以テ字體明瞭ニ認ムヘシ
第一　新ニ商標ノ登錄ヲ願出ルトキ

商標登錄願

此處ニ成規ニ從ヒ印紙ヲ貼用スヘシ

私(當會社當組)儀別紙明細書ニ記載ノ商標ヲ自今相用度(條例頒布以後即チ明治十七年六月七日以後ニ)ノ登錄出願以前ヨリ使用セル商標ナルトキハ)去明治何年何月何日ヨリ又ハ何月頃ヨリ相用來候處右ニ付商標條例ニ相觸レ候義無之段確信致候間御登錄ノ上證書御下付相成度此段奉願候也

何府縣(北海道)何郡何町何區何村何番地居住寄留
本貫族籍
何業
年月日　何某印
又ハ
何府縣(北海道)何郡何町何區何村何番地
何業
何會社(組)　社印　組印
社長
組長

農商務大臣何某殿

前書ノ通願出候ニ付進達候也

年月日　何府縣知事(北海道廳長官)何某印

本貫族籍
何業
年月日　何某印
又ハ
何府縣(北海道)何郡何町何區何村何番地
營業
何會社(組)　社印　組印
社長
組長
本貫族籍
何某印

農商務大臣何某殿

前書ノ通願出候ニ付進達候也

年月日　何府縣知事(北海道廳長官)何某印

第三甲　一商人ヨリ新ニ商標ノ登錄ヲ願出テ又ハ登錄商標ノ改正兼用若クハ轉用登錄ヲ願出ルトキ

登錄商標改正(兼用轉用)登錄願

此處ニ成規ニ從ヒ印紙ヲ貼用スヘシ

一何年何月何日附第何號登錄證
一第何種何品又ハ何々品ニ用フル商標

前記ノ商標ヲ自今別紙明細書ニ記載ノ通改正(商標登錄願手續第十一條第何種何品又ハ何々品ニ兼用又ハ轉用)致度右ニ付商標條例ニ相觸レ候義無之段確信致候間御登錄ノ上證書御下付相成度此段奉願候也

何府縣(北海道)何郡何町何區何村何番地居住寄留

本貫族籍
何業
年月日　何某印
又ハ
何府縣(北海道)何郡何町何區何村何番地
營業
何會社(組)　社印　組印
社長
組長
本貫族籍
何某印

農商務大臣何某殿

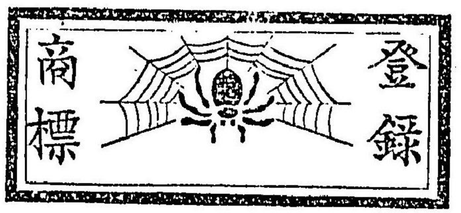
前書ノ通願出候ニ付進達候也

年月日　何府縣知事(北海道廳長官)何某印

第二　登錄商標ノ改正兼用又ハ轉用登錄ヲ願出ルトキ

商標見本

明細書商標見本ハ明細書ニ附スル外ニ三枚ヲ出ス可シ



此處ニハ商標全部ノ凱形ヲ模寫シ又ハ印刷シ又ハ模寫若クハ印刷セルモノヲ貼附ス可シ但シ商標ヲ貼附シタルトキハ其商標ト本紙トニ掛ケテ捺印ス可シ

一此商標ハ子母線ヲ以テ横長方形ノ欄ヲ設ケ其正中ニ蜘ノ巣中ニ栖メル圖ヲ畫キ其右側ニ楷書ニテ登錄左側ニ商標ト記シタル者ニ有之候本項ニハ商標全部ノ構造ヲ遺漏ナク明瞭ニ記ス可シ

一此商標ノ要部ハ蜘ノ巣中ニ栖メル圖ニ有之候

一此商標ヲ用ヒ候物品ハ商標登錄願手續第十一條第三十種ノ絹織物ニ有之候本項ニハ藥劑ノ如キ其品目夥多ニシテ逐一枚擧シ難キモノハ止ムヲ得サレ𪜈然ラサルモノハ逐一其品名ヲ記ス可シ

一此商標ハ厚紙ニ印刷シ製品絹織物ニ結附相用候本項ニハ商標ノ用ヒ方ヲ可成丈詳細ニ記ス可シ

右之通相違無之候也

何府縣(北海道)何郡何町何區何村何番地居住寄留
本貫族籍
何業
何某印

第三乙會社又ハ組合ヨリ新ニ商標ノ登錄ヲ願出テ又ハ登錄商標ノ改正又ハ轉用登錄ヲ願出ルトキ

明細書　商標見本ハ明細書ニ附スル外ニ三枚ヲ出ス可シ

右ノ處ニハ商標全部ノ眞形ヲ摸寫シ又ハ印刷シ又ハ摸寫若クハ印刷セルモノヲ貼附ス可シ但シ商標ヲ貼附シタルトキニハ其商標ト本紙トニ掛ケテ捺印ス可シ

一此商標ハ子母線ヲ以テ横長方形ノ欄ヲ畫シ其正中左右ニ屈曲シ且ツ處々ニ砂礫アル細流ノ面上ニ一蟹ノ少シク左螯ヲ擧ケ横行スル圖ヲ畫キ其上邊左右ニハ商標下邊ニハ何々製造ト孰レモ英語ニテ記シタル者ニ有之候本項ニハ商標全部ノ構造ヲ遺漏ナク明瞭ニ記ス可シ

一此商標ノ要部ハ一蟹ノ少シク左螯ヲ擧ケ横行スル圖ニ有之候

一此商標ヲ用ヒ候物品ハ商標登錄願手續第十一條第二十六種ノ生絲ニ有之候本項ニハ藥劑ノ如キ其品目夥多ニシテ逐一枚擧シ難キモノハ止ムヲ得サレ𪜈然ラサルモノハ逐一其品名ヲ記スヘシ

一此商標ハ西洋紙ニ印刷シ商品生絲ノ帶紙ニ貼附相用候本項ニハ商標ノ用ヒ方ヲ可成丈詳細ニ記ス可シ

右之通相違無之候也

何府縣(北海道)何郡區何町村何番地居住寄留
本貫族籍
何業
何某印

第四登錄商標ノ讓與登錄ヲ願出ルトキ

登錄商標讓與登錄願

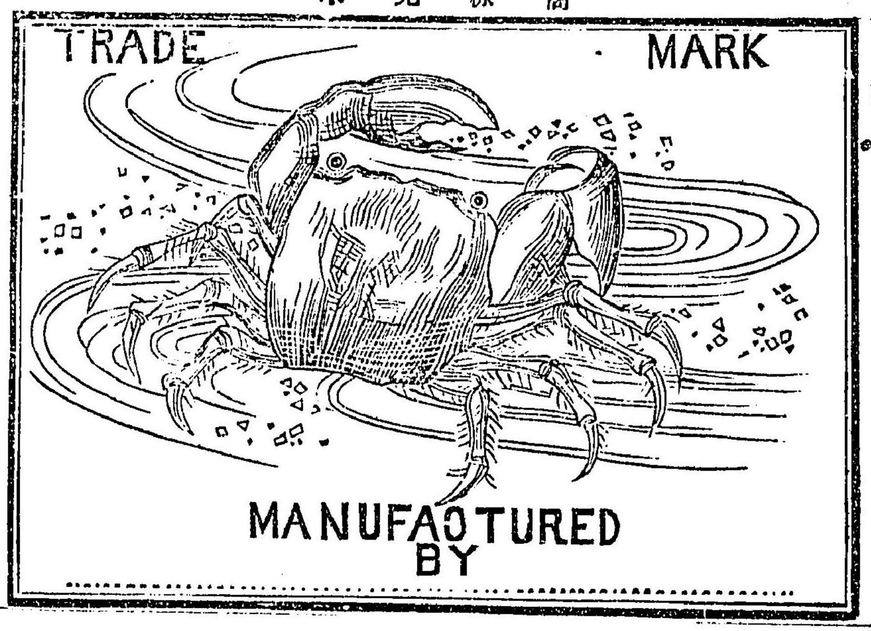
一何年何月何日付第何號登錄證

一第何種何品又ハ何々品ニ用フル商標

前記ノ商標ヲ今般何某住所本貫族籍業名ヲ記スヘシ若シ會社又ハ組合ナルトキハ其會社又ハ組合ノ所在地業名及ヒ(ニテ)當業上ノ仕做ト其社長又ハ組長ノ姓名ヲ記スヘシ共ニ讓與致度候間其旨御登錄相成度依テ約定書本書相添此段奉願候也

何府縣(北海道)何郡區何町村何番地居住寄留
本貫族籍
何業
何會社(組)社長組長
何某印

商標見本



何業
年月日　讓主　何某印
又ハ
何府縣(北海道)何郡何町何區何村何番地
何業
何會社(組)　社組印
社長
組長
本貫族籍
讓主　何某印
農商務大臣何某殿
前書之通願出候ニ付進達候也
年月日　何府縣知事(北海道廳長官)何某印

第五登錄商標ノ分與登錄ヲ願出ルトキ

登錄商標分與登錄願
一何年何月何日付第何號登錄證
一第何種何品又ハ何々品ニ用フル商標
前記ノ商標ハ私(當會社當組)所有ニ有之候處其登錄證明治何年何月何日何地ニ於テ何々ノ際紛失(又ハ

前記ノ商標ヲ今般何某住所本貫族籍業名ヲモ記スヘシト共同當業致候ニ付同人ヘ分與致度候間其旨御登錄相成度依テ約定書本書相添此段奉願候也
何府縣(北海道)何郡何町何區何村何番地居住
本貫族籍
何業
年月日　讓主　何某印
農商務大臣何某殿
前書之通願出候ニ付進達候也
年月日　何府縣知事(北海道廳長官)何某印

第六登錄證ノ再渡ヲ願出ルトキ

商標登錄證紛失(燒失流失等)ニ付再渡願
一何年何月何日付第何號登錄證
一何種何品又ハ何々品ニ用フル商標
前記ノ商標ハ私(當會社當組)所有ニ有之候處其登錄證紛失(又ハ燒失流失等其始末ヲ記スヘシ)候ニ付再渡相成度此段奉願候也
何府縣(北海道)何郡何町何區何村何番地居住寄留
本貫族籍
何業
年月日　何某印
又ハ
何府縣(北海道)何郡何町何區何村何番地
何業
何會社(組)　社組印
社長
組長
本貫族籍
何某印
農商務大臣何某殿
前書之通願出候ニ付進達候也
年月日　何府縣知事(北海道廳長官)何某印

此處ニ成規ニ從ヒ印紙ヲ貼用スヘシ

此處ニ成規ニ從ヒ印紙ヲ貼用スヘシ

第七登錄商標ノ繼用登錄ヲ願出ルトキ

登錄商標繼用登錄願
一何年何月何日附第何號登錄證
一第何種何品又ハ何々品ニ用フル商標
前記ノ商標ハ私(當會社當組)所有ニ有之候處來ル明治何年何月何日ニテ既用年限相滿候得共其後モ間從前之通專用致度ニ付更ニ御登錄相成度此段奉願候也
何府縣(北海道)何郡何町何區何村何番地居住寄留
本貫族籍
何業
年月日　何某印
又ハ
何府縣(北海道)何郡何町何區何村何番地
何業
何會社(組)　社組印
社長
組長
本貫族籍
何某印
農商務大臣何某殿

前書ノ通願出候ニ付進達候也

年　月　日　何府縣知事（北海道廳長官）何某印

第八商標登錄願人他人ニ代理ヲ委任シタルトキ

代人御屆

一明治何年何月何日附商標登錄願

右願ニ關スル事件ニ付何某住所本貫族籍ヲモ記メ可シヲ以テ代人ト相定メ候條此段御屆申上候也

何府縣（北海道）何郡何町區何村何番地居住寄留

本貫族籍

何業

何某

年　月　日　願人　何某　印

農商務大臣何某殿

前書ノ通屆出候ニ付進達候也

年　月　日　何府縣知事（北海道廳長官）何某印

第九商標登錄願人其登錄ヲ聞屆クヲ可キ旨ノ通知ヲ得テ其商標ノ木版又ハ鉛版ヲ專賣特許局ヘ差出ストキ

商標印版差出御屆

一明治何年何月何日附

一商標（登錄商標改正兼用又ハ轉用）登錄願

右願御聞屆可相成旨明治何年何月何日附ヲ以テ御通知相成候ニ付其商標ノ木鉛版本日（內國通運會社ニ托シ）差出候間此段御屆申上候也

何府縣（北海道）何郡何町區何村何番地居住寄留

本貫族籍

何業

何某　印

年　月　日

又ハ　何府縣（北海道）何郡何町區何村何番地

何業

何會社（組）　社組印

組長

本貫族籍

何某　印

農商務省專賣特許局長何某殿

附言右印版ハ可成大サ曲尺方一寸八分以內ナルヲ要ス尤モ商標ノ圖形ニ依リ此大サニテ不都合ナル片ハ之ヲ超ユルモ妨ケナシト雖モ必ス長サ七寸幅五寸ニ過キサルヲ要ス又版ノ厚サハ如何ナル場合ニ於テモ活字ノ高サ卽チ曲尺七分六厘ヨリ增減セサルヲ要ス

第十五類　勸業

何指令

（新）商標登錄願ノ儀ニ付京都府ヨリ農商務省ヘ伺　十七年六月三十日

商標條例第貳條ニ依リ商標登錄願出タル際同一又ハ相紛シキ商標ヲ同一種類ニ專用セントヲ願出ルモノアリ抵觸スル片ハ其願書日附ノ同シキ者ハ條例第三條ニ依リ共ニ之ヲ却下セラルヘキ成規ニシテ之ヲ再ヒ願出ルヿヲ得ヤ否ニ至テハ他ニ明文無之聊カ疑義相生候右ハ一旦却下セラレタル商標ハ再度登錄願出ルヿヲ得サル儀ニ候哉

指令　十七年七月九日

伺之趣同日附ナルヲ以テ共ニ却下サレタル商標ト雖モ双方熟議ノ上其中壹人ヨリ再願スルヲ得ヘキ儀ト可相心得事

（新）商標ノ儀ニ付島根縣ヨリ農商務省ヘ伺　十七年七月十二日

今般商標條例并商標登錄願手續制定相成候處該條例并手續中疑義ニ涉ル件左ニ相伺候也

第一條　該條例第五條第二項ニヨルニ地名人名家號會社名ノミヲ以テスル者又ハ商品普通ノ名稱或ハ內外國ノ族章ノミヲ以テスル者ハ登錄ヲ願出ル能ハサル儀候處內外國ノ族章ニ商品普通ノ名稱ヲ加ヘ又ハ地名人名家號會社名ニ商品名稱ヲ加フル如キハ登錄ヲ願出ル事ヲ得ヘキ筋ニ可有之哉

第二條　右同項中商品普通ノ名稱トハ產出地製造者ノ異ナルニ關ハラス同種ノモノニハ普ク通用スル名稱ヲ指ス儀ニシテ例ヘハ河內木綿雲州人參ト云フカ如キ一地方ノ物產ニ固有スル名稱ハ此限外ニ候哉又家傳ノ秘法若ク

ハ自家ノ發明ニヨリ製造スル商品ニシテ特ニ固有ノ名稱ヲ付シ同種類ノモノト雖モ他家ノ製品ニ用イサルモノ、如キハ商標トシテ登錄ヲ願出ルヲ得ヘキ儀ニ候哉

第三條　數人組合ヲ設ケ同一種類ノ商品ニ對シ同一ノ商標ヲ用フルノ約束ヲ結ヒタルモノハ其登錄ヲ願出ツルヿヲ得ヘキ儀ニ候哉又別ニ組合ヲ設ケサルモ尚ホ數人連署シテ出願シ得ヘキ筋ニ候哉

第四條　該條例第八條ニ分與トアルハ數個ノ商標ヲ專用スルノ權ヲ有スルモ其内一個若シクハ數個ノ商標ヲ他人ニ譲與スル事ヲ指ス儀ニ可有之哉又ハ商標ノ專用權ヲ得タルモノ自ラ用フル商標ヲ他人ニモ亦之レヲ使用セシムル儀ニ候哉

第五條　登錄願手續第四條乃至第七條ノ場合ニ於テモ一個ノ商標ヲ二種以上ノ商品ニ用ヒ又ハ二個以上ノ商標ヲ一種ノ商品ニ用フルキハ尚ホ第三條ニ準シ各別ノ願書并明細書ヲ差出スヘキ筋ニ候哉

第六條　登錄願手續第九條ニヨルニ商標ノ彩色ハ適宜變換スルコトヲ得ヘキ儀ニ候處紙片ニ押捺シテ商品ニ貼用スル目的ヲ以テ登錄ヲ得タルモノ場合ニヨリ之レヲ燒印トシテ使印スルカ如キモ尚ホ商標主ノ自由ニ任セラルヘキ儀ニ候哉

右指令　十七年八月二日

伺之趣左ノ通可相心得事

第一條　願出ツルヿヲ得ス

第二條　一地方ノ物産ニ固有スル名稱ト雖モ亦商品普通ノ名稱ノ限内トス後段ハ伺之通

第三條　組合ニ於テ販賣スル商品ニ商標ヲ專用セント欲スルキハ其組合長ヨリ登錄ヲ願出ツヘシ後段ハ願出ツルヿヲ得ス

第四條　後段ノ通

第五條　伺ノ通

第六條　用方ハ明細書ニ記シアル用方ト異ナルヿヲ得ス

◎商標條例疑義ノ儀ニ付德島縣ヨリ農商務省ヘ伺　十七年七月十八日

本年第拾九號御布告商標條例中左記ノ項々疑義ヲ生シ候ニ付何分ノ御指揮相成度候也

一商標條例第三條第二項ノ末其日附同シキ者ハ共ニ之ヲ却下スヘシトアリ依テ其共ニ却下サレタル後再ヒ其一人ニシテ同一商品ニ同樣ノ商標登錄ヲ願出ルヿヲ得サルハ勿論ニ候得共種類ヲ異ニスル商品ニハ登錄願出ルモ妨ケナキ儀ニ候哉

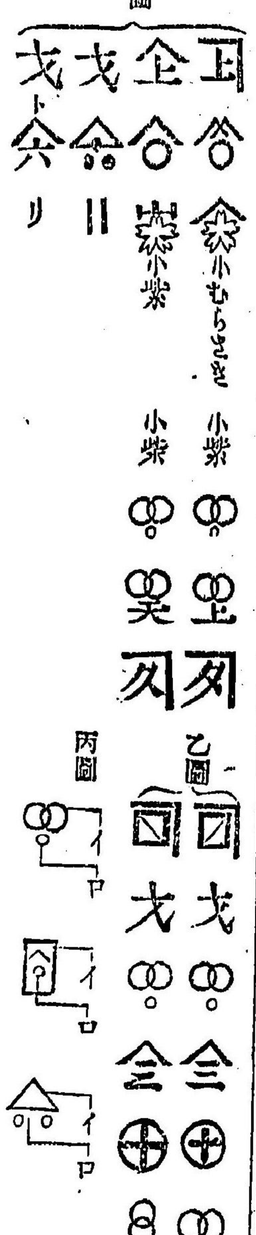
二同條例第五條第一項ニ已ニ登錄セル商標ト同一又ハ相紛ラハシキ云々トアリ然ルニ管下産出ノ藍玉食鹽等ノ如キハ從來ノ商標多クハ相類似ス故ニ相紛ラハシキト否ラサルトハ左圖ノ内甲圖ノ如キハ相紛ラハシカラサル者トシ乙圖ノ如キハ相紛ラハシキモノト相認メ可然哉果シテ然ラハ相紛ラハシキモノハ願書進達セス當廳限リ却下候テ可然哉

三同條第三項ニ同業者普通ニ用ヒ又ハ商業上慣用セル目印ヲ以テスルモノトアリ然ルニ管下産出食鹽等ノ如キハ從來一村毎ニ一ツノ目印ヲ烙印シ其傍ラ一己人ノ小印ヲ烙シ以テ何村ノ産ニシテ某ノ製タルヿヲ證シ之ヲ商標トセリ卽チ左ノ丙圖ノ類ノ如シ就テハ其大印（丙圖中イ印ヲ云フ）ノ如キハ村票ニシテ卽チ同業者普通ニ用ヒ又商業上慣用セル目印ト云ハサルヲ得スト雖トモ傍ラ小印（丙圖中ロ印ヲ云フ）ヲ加ヘテ始メテ一己人ノ全キ商標トセリ此等ハ數人各自ニ登錄ヲ願出ルモ妨ケナキ哉

四同條第四項ノ本條例頒布以前ヨリ現ニ使用者アル商標トハ附則第一項ニ依リ登錄願出サル者ニ候哉果シテ然ルトキハ條例頒布以前ヨリ現ニ用ヒ來ル商標ハ假令登錄不願出トモ其効力ヲ有スルモノヽ如ク若シ其使用者ハ登錄願濟ノ者トセハ第一項ト重複ニ相成候樣相見ヘ如何心得可然哉

但シ本文前段伺之通ニ候ハヽ本條例御頒布以前ヨリ現ニ使用者アルト否トハ判別スルヿ甚タ難ク若シ知ラスメ甲者登錄ヲ願出登錄證ヲ得而テ后チ乙者ノ現ニ使用セシヿ判然スルニ於テ本條例第拾貳條ニヨリ其登錄無効ニ屬スルトキハ甲者ノ不幸ナル最モ甚シ故ニ其現ニ使用者アルト否トハ如何ノ途ニヨリテ熟知セシムヘキ哉ニ候哉

甲圖



指令　十七年八月二日

伺之趣左之通可相心得事

第一項　伺之通

第二項　甲圖中（ヌ上ヌ）（ム上ム）ノ如キハ相紛ハシカラサルモノニシテ其他ノ符號ハ悉皆紛ラハシキモノトス如斯紛ラハシキ商標願出候節ハ願人ニ諭示シ願人之ヲ下戻ノ儀願出候ハヽ其意ニ任セ候儀ハ不苦候得共其紛ラハシキヲ以テ其慮限リ願書却下候儀ハ相成ラス

但タ久ノ如キハ條例第五條第三項ノ商業上慣用セル目印ナルヲ以テ登錄ヲ願出ツルヿヲ得ス

第三項　丙圖ノ如キ普通ノ商標ニ小印ヲ添加シ之ヲ商標ト爲シ各自ヨリ願出候儀ハ相成ラス

第四項　條例第五條第四項ニ掲載セル條例頒布以前ヨリ現ニ使用者アル商標トハ條例附則ノ限内ニ登錄ヲ經サルモノニシテ即チ公有ニ屬セル商標ノ謂ヒニ付條例第五條第一項ノ專用ニ屬セル商標トハ區別有之重複之儀ニアラス

同項但書　從來同業者中ニテ使用セル商標ハ其同業者中ニ於テ之ヲ知ルハ最モ便宜ヲ有スル者ナリ故ニ新ニ商標ヲ專用セント欲スル者同業中ニ於テ曾テ使用シ來レル者ニ紛ラハシカラサル商標ヲ選擇スル樣注意セシムヘシ

但登錄證無効ニ屬スルヒ敢テ其使用ヲ禁スルニアラス

●商標條例ノ儀ニ付新潟縣ヨリ農商務省ヘ伺十七年七月廿六日

一商標條例頒布後專用ニアラサル商標ヲ用フルモノハ若シ誤テ其專用權ヲ侵スノ憂不少右ハ條例第四條ノ方法ヲ以テ右等ノ懸念ナカラシムルノ御主意ナルヤ

一一種ノ物品ヲ假令ハ壜詰メ鑵詰ノ類ニシテ其容器ヲ大中小ノ數個ニ別ツカ如キモノハ商標ヲモ其容器ニ照シ數個ヲ製スルハ勿論ナリト雖ヒ願書及明細書ノ如キハ各別ニセス一箇ニ見做シ出願ヲ爲サシメ可然哉

一商標ノ材料ハ獨リ紙類ニ不限其貼付スヘキ物質ニヨリ木類金屬ヲ以テ製スルモ妨ケナキヤ

右數項目下達掛ノ儀有之候條至急何分之御指揮相成度此段相伺候也

指令　十七年八月六日

伺之趣左ノ通可相心得事

第一項　伺之通

第二項　願書及明細書ハ各別ニ出スニ及ハス然レヒ容器ニ從テ其商標ヲ大中小ニ爲スヿハ豫テ明細書ニ詳記ス可シ

第三項　伺ノ通

●商標條例ノ儀ニ付京都府ヨリ農商務省ヘ伺十七年八月二日

數種モヤシハ商標登錄願手續第十一條商品ノ種類中何種ニ該當候哉

指令　十七年八月二十一日

伺之趣商標登錄願手續第十一條第四十二種ニ可屬儀ト可相心得事

●商標ノ儀大阪府ヨリ農商務省ヘ伺十七年八月十三日

一二人以上同一又ハ相紛シキ商標ヲ同一種類ノ商品ニ專用スル能ハサルハ勿論ニ候得共茲ニ同業者一致團結シ申合規約ヲ設ケ以テ製品ノ改良ヲ圖ルカ爲メ必要ナル場合ニ於テハ仲間中ノ約束ヲ以テ一定ノ商標ヲ製シ之ヲ同業者各自ノ製品ニ貼用セント欲スルモノアリ右ハ專用ノ權アリ之カ登錄ヲ願出ルヲ得ヘキモノニ候哉

一前項願出ルヲ得ルモノトセハ同業仲間取締人ノ名義ヲ以テ出願可然哉

一仲間ニ於テ一定ノ商標ヲ貼付セシ上尚製造者自己ノ商標ヲ貼付セント欲セハ別ニ之ヲ製シ之カ登錄ヲ願出ルヲ得ヘキハ勿論ニ候哉

指令　十七年八月三十日

伺ノ趣左ノ通可相心得事

第一項第二項相成ラス

但仲間若クハ組合名ヲ以テ製造販賣スル物品ニ貼用スルモノハ此限ニアラス

第三項見解ノ通

㊙商標條例ノ儀ニ付千葉縣ヨリ農商務省ヘ伺十七年八月廿一日

本年第拾九號布告商標條例第五條第二項商品普通名稱第三項商業上慣用セル目印等ヲ以テスル者ハ商標登錄願出ツルコトヲ得スト有之候處左記ノ第一項包紙ニ印刷或ハ物品貼用第二項商業上慣用目印シ樽或ハ壜苞木製筐ノ類墨汁ヲ以テ畫ク等ノ類ハ出願スヘキ限リニ無之ト考量候得共一已人ノ慣用他方ヘノ信用ヲ目的トシテ出願スル證モ可有之候ニ付熟急伺分ノ御指示被下度此段相伺候也

第一項

一伺々丸伺々散　伺々製ノ粉等ノ類

但上ニ官許左右ニ國郡村姓名或ハ上ニ製左右ニ國郡村家號名等ノ類

第二項

一(仝)(千)鹽等其他壺類

但上ニ伺々製左右ニ國郡村家號姓名等烙印或ハ墨汁ニテ畫ク等ノ類

指令　十七年九月九日

伺ノ趣一已人ノ從來使用セルモノト雖モ商品普通ノ名稱又ハ形質品位ヲ表スル文字及ヒ從來世上ニ於テ布羅ニ慣用セル目印ノ如キハ登錄不相成儀ト可相心得事

㊙商標條例ノ儀ニ付長野縣ヨリ農商務省ヘ伺十七年九月十三日

商標條例并商標登錄願手續御制定相成候處辭ハ製絲ノ如キ春秋蠶ノ區別ニヨリ其商標ヲ二樣ニ製シ紋樣ハ同一ナルモ彩色ヲ殊ニス而シテ尚之ヲ明瞭ナラシム爲メ春秋蠶絲ノ文字ヲ記載セリ右ハ彩色及ヒ文字ノ相違ハ有之候得共紋樣同一ナル上ハ管箇ノ商標トヲ做シ可然哉

指令　十七年九月十九日

伺之通

但春秋蠶絲ノ文字ハ商標ノ附記ナルヲ以テ商品ニヨリテ文字ヲ異ニスルヿアラハ其趣ヲ明細書ニ詳記スヘシ

㊙商標條例ノ儀ニ付和歌山縣ヨリ農商務省ヘ伺十七年九月四日

本年第拾九號御布告商標條例中疑義ヲ生シ候ニ付左ノ事項相伺候何分ノ御指示相成度候也

第一項　本條例第五條第壹項ニ已ニ登錄セル商標ト同一又ハ相紛ハシキ商標ニシテ同一種類ノ商品ニ用フル者同第三項ニ商業上慣用セル目印ヲ以テスル者ハ商標登錄ヲ願出ルヲ得ストアリ其商標目印トノ區別ハ圖形ノ疎密若シクハ符號ノ大小等ヲ以テ判ツ可キニ非ス驛下ニ產出スル木炭醬油又ハ食鹽等ノ如キモノハ從來慣用セル符號ハ頗ル疎ニシテ一瞥以テ識別シ易カラス其商標ト目印トノ區別ハ如何相心得可然哉

第二項　前項若シ圖形ノ摸樣又ハ疎密ヲ以テ判ツ可カラサルモノトセハ商標ナルカ將タ目印ナルカハ願人ノ中立ニ任セサル可カラス若シ然ラハ甲者頗ル簡單ナル圖形ヲ以テ商標ト爲シ其專用權ノ登錄ヲ願出乙者ハ甲者ト同一ノモノヲ以テ自家ノ目印ト爲シ各之ヲ用ユルトキハ甲者ノ商標ニ同シキモ乙者ノ目印ナルヲ以テ甲者ニ於テハ其專用權ヲ侵サレタルモノト爲ス可ラス甲者登錄ノ保護ヲ受クルモ完全ノ効力ヲ缺カ如シ右ハ如何相心得可然哉

指令　十七年九月十八日

伺ノ趣左ノ通可相心得事

第壹項　商標トハ自他ノ商品ヲ區別スルガ爲メ商品ニ付スル目印ヲ謂ヒ商業上慣用ノ目印トハ從來一般ノ商家ニ

於テ用ヒ來レル布羅印卽チ㊤㊥ノ類ヲ謂フ

第二項　既ニ登錄商標ト同一又ハ紛ハシキ目印ハ假令何等ノ名稱ヲ以テスルモ同シ商品ニ用ユルヿヲ得ス

㊥商標ノ儀ニ付大阪府ヨリ農商務省ヘ伺十七年八月三十一日

一當府下酒造業及酒類受賣業ノ者從來清酒ノ樽包(俗樽ト云フ)ニ白鶴白雪梅園等ノ銘印ヲ用ヒ以テ商標トナスモノ多シ右ハ同業者中相用ユルモノナルカ故ニ條例第五條第三項ニ該當スルモノヽ如ク相見候得共退テ右銘印使用ノ由來ヲ推究スレハ蓋シ其始ハ一人一已ノ商標ナルヤ復タ疑ヲ容レス然ラハ則チ同業者中最モ古ク相用ユルモノハ其專用權ヲ有スルモノヽ如ク相見候ニ付無論第五條第三項ノ範圍外ト心得可然哉

二已ニ登錄ヲ經タル商標ヲ改正セント欲スルトキハ之カ出願ヲ要スル勿論ニ候處商標中專用ノ要點ヲ除クノ外上下左右等ノ圖形摸樣及文字等ヲ變換セント欲スルトキハ出願ヲ要スヘキ哉將タ屆出ノミニテ可然哉

三同一種類ノ商品中品位數等ニ分ルヽモノアリ其商標ノ專用點ハ同一ナルモ其品位ノ等級ニ應シ松印竹印或ハ甲乙或ハ鶴龜等ノ銘印ヲ添加シ以テ上中下ノ品位ヲ區別スルモノアリ右ハ當初登錄出願ノ際明細書ニ其區別ヲ記載致置候得ハ適宜添加候トモ妨ケナキ儀ニ候哉

指令　十七年九月十八日

伺ノ趣左ノ通可相心得事

第一條　白鶴白雪等ノ銘ニ於ケル從來多クノ酒造家之ヲ慣用シ既ニ自他ノ商品ヲ區別スルノ効力ヲ失ヒ一種ノ酒罰ヲ指定スルニ至リシトキハ之ヲ普通ノ名稱ト看做スヘシ

第二條　商標中專用ノ要點外ニアル圖形摸樣等ヲ變換スルハ商標ノ改正ニ屬ス

但條例第六條ノ場合ニ於テ商標中ノ住所氏名等ヲ變換セント欲スル時ハ屆出ノミニテ可トス

第三條　見解ノ通

㊥商標條例登錄願ニ對スル儀山口縣ヨリ農商務省ヘ伺十七年九月八日

本年第拾九號御布告商標條例第五條第三項ニ商業上慣用セル目印ヲ以テスル者ハ登錄ヲ願ヒ出ルヲ得スト有之然ルニ縣下岩國産紙ノ儀ハ舊藩ノ當時ニ於テ一ノ官衙アリテ左圖ノ符號ヲ貼シ其品位ヲ分別スルノ成規ニ候處置縣以來岩國義濟堂ナルモノ其方法ニ據リ該符號ヲ專用シ來レリ又近來ニ至リテハ同業者各自ニ之ヲ貼付スル慣行之アリ若シ此際他ニ該符號ヲ以テ商標登錄ヲ願出ルトキハ該社專用權ヲ拋棄致シ候ニ付目下登錄方可願出哉伺出候右等ハ條例第五條第三項ニ該當スル者ト思考致候得共爲念相伺候也

符號ノ圖

但サ上等トシ順次之ニ次ク

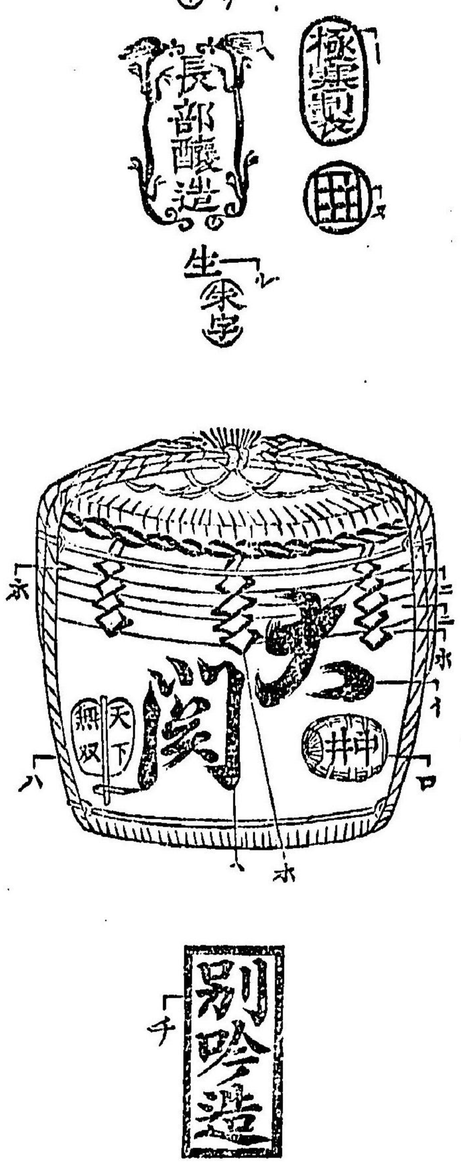
指令　伺ノ通　十七年九月二十二日

㊥商標條例疑義ノ儀兵庫縣ヨリ農商務省ヘ伺十七年八月

第壹條　條例第五條第貳項中商品普通ノ名稱トハ例ヘハ酒、醬油、綿ノ類ヲ指スカ又ハ此等ノモノハ商品固有ノ名稱ニシテ灘酒、龍野醬、油阪上綿ノ類ヲ云フ儀ニ候哉

第貳條　條例第五條第三項同業者普通ニ用ヒ又ハ商業上慣用セル目印トアルハ例ヘハ極上、飛切、天下一、天印、精選等ノ類ヲ云フ乎又ハ同業者各自ノ目印乃チ㊤㊥等ノ類ヲモ併セ指ス乎

第三條　條例第五條第四項中本條例頒布以前ヨリ現ニ使用者アル商標トアリ當縣下灘酒ニ正宗、惣花、大關、等ノ酒銘アリ其根元ハ某一家ノ酒銘ナリシモ其銘漸ク聲價ヲ世上ニ博スルニ從ヒ他人之ニ擬スルモノ次第ニ增加シ增加スルニ從テ聲價愈博ク若シ一朝之ヲ制限スルトキハ販路忽チ障害ヲ來スヘキ景況ニシテ近來某製ノ正宗某製ノ惣花ト唱ヘ其酒銘殆ント該地方慣用ノ姿ナナセリ其標牌記載方ハ酒樽ノ上包ニ正宗、惣花、大關、等ノ酒銘ヲ大書シ之ニ注連又ハ松或ハ竹梅櫻等ノ圖繪ヲ加ヘ且某醸造極製、天下一、㊤㊥等ノ烙印ヲ捺ス其圖形概ヲ左ノ如シ



右疑問

第壹　イ印大闕ハ條例第五條第四項條例頒布以前ヨリ現ニ使用者アル商標ニ相當シ即チ公有ノ商標ト相心得ヘキ儀

第貳　ニ印ホ印モ亦其慣用法イ印ニ異ナラサルヲ以テ前同樣可相心得儀

第三　ハ印ト印チ印ハ條例第五條第三項同業者普通ニ用ヒ又ハ商業上慣用セル目印ニ相當スルモノト可相心得儀

第四　ロ印ヘ印メ印リ印ハ何レカ其一ヲ擇ヒ例ヘハロ印又ハヘ印ヲ以テ商標トシ登錄願出ルヿヲ得ヘキモノニ候儀

第五　果シテ前數項何ノ通ナルヤハ專用權ヲ有スル登錄商標ハロ印又ハヘ印ニシテ其他イ印ハ印ニ印ホ印ト印チ印リ印メ印ル印等ハ依若適宜併用スルモ妨ケナキ儀ニ候儀

第六　ロ印又ハヘ印即チ登錄ヲ得タルモノヽミヲ以テ商標ト唱ヘ其他ノ諸圖繪烙印ハ畢竟製品容器ヲ裝飾シタル繪紋ノ一部ニ屬シ商標ノ全形以外ト做スヘキ儀又ハイ印ヨリル印ニ至ルモノハ悉皆商標ノ全形內ニ屬スヘキ儀ニ候儀

第四條　本年御省第五號告示第二書式第四項（此商標ノ何處ニハ某地何某ノ文字ヲ何樣ニ附記致候）トアリ例ヘハ麥酒何地何某製如此類ノモノ其櫻花ハ商標ニシテ何地何某製ノ文字ハ附記ナリ此附記ハ商標全形ノ內外何レニ可屬儀

第五條　若シ前條ノ附記ヲ以テ商標ノ全形內ニ屬スルモノトセハ例ヘハ其製品容器ノ正面ニハ櫻花ノミヲ畫キ何地何某製ノ文字ヲ其側面ニ附記スル場合ニ於テハ一個ノ商標二ヶ所ニ分製スヘシ此等ハ妨ケナキ儀ニ候儀

第六條　登錄ヲ得タル商標ノ全形內外上下左右周圍等ヘ登錄商標ノ文又ハ橫文ニテ同意義ヲ或ハ記載シ或ハ記載セサル等適宜ニ任セ候儀ハ不苦候儀

第七條　例ヘハ櫻花ノ商標ヲ以テ登錄ヲ得其製品上中下ヲ區別セン爲メ商標ノ全形內又ハ全形外、上等品ニハ全中等品ニハ全下等品ニハ全等ノ印ヲ適宜記載スルハ妨ケナキ儀ニ候儀

第八條　登錄商標全形ノ內外適宜ノ個所ヘ其商品ノ容量重量尺度番號年月等ヲ記載スルハ商標主ノ隨意ニ任スヘキ儀ニ候儀

第九條　商標登錄願書式ニ何組組長トアルハ同業者各自業務ノ改良進歩ヲ計ルノ目的ヲ以テ組織シタル例ヘハ菜業組合蠶業組合ノ如キ類ヲ云フニ非スシテ全ク會社ノ方法ヲ以テ一個体ヲ爲シタルモノヲ指稱スル儀ニ候儀

第十條　條例第九條登錄商標ヲ他ノ種類ノ商品ニ兼用若クハ轉用云々トアリ種類異同ノ差別ハ本年第十三號布達第十一條ニ明記アル六十五種ノ區別ニ從ヒ例ヘハ食鹽ト醬油ハ其物相異ナルカ如シト雖モ等シク第一種ニ屬スルヲ以テ同種類トシ眞綿ト木綿綿ハ共ニ第二十五種ニシテ全種類ナルモ絹絲ト綿絲トハ第二十六種ト第二十七種ト其屬スル所相異ナルヲ以テ其品相似タリト雖モ眞綿ト木綿綿ノ例ニ依ラス仍ホ別種類ト爲スカ如キ旨意ニ候儀果シテ然ラハ食鹽ニ用ユル登錄商標ヲ醬油ニ兼用又ハ轉用スルモ同種類中ナルヲ以テ別ニ出願又ハ届出等ニ及ハサル儀ニ候儀

第十一條　登錄商標ノ全形中又ハ其以外ニ灘酒龍野醤油阪上綿等ノ文字ヲ適宜記載スルハ不苦儀ニ候哉

第十二條　製造人登錄商標ヲ其製品ニ貼付シ之ヲ買受ケテ販賣スル商人モ亦其自己ノ登錄商標ヲ之ニ貼付順次轉賣スル毎ニ各商標ヲ增貼スルハ妨ケナキ儀ニ候哉

第十三條　登錄願手續第二條ノ見本願書明細書等縣廳參考ノ爲メ成規員數ノ外見本ハ壹枚願書明細書ハ各壹通宛願人ヨリ別ニ差出サセ不苦候哉

指令　十七年九月十七日

伺ノ趣左ノ通可相心得事

第一條　總テ普通ノ名稱トス

第二條　條例第五條第三項ニ掲載シタル同業者普通ニ用フル目印トハ例ヘハ茶商ノ茶袋ニ茶壺ノ形ヲ付シ足袋商ノ包紙ニ足袋ノ隻形ヲ付スルノ類ヲ謂ヒ商業上慣用ノ目印トハ商家一般ニ慣用シ來レル布羅印即チ大久等ノ類ヲ謂フ

但極上飛切等ノ文字ハ物ノ品位ヲ表スルカ爲メニ用フルモノナルヲ以テ之ヲ商標ノ要部ト爲スヲ得ス

第三條　第一項

酒銘大關ノ如キハ條例附則第一項ノ願書留置期限ヲ經過スルニ非サレハ其公用商標タルト否ラサルトヲ判定スルヲ得ス

但大關ノ銘タル從來多クノ酒造家之ヲ慣用シ既ニ自他ノ商品ヲ區別スルノ効力ヲ失ヒ一種ノ酒質ヲ指定スルニ至リシ故ハ之ヲ普通ノ名稱ト看做スヘシ

第二第三第四

ニホ兩個ノ印ハ第一項本文ノ通ハトチル四個ノ印ハ物ノ品位ヲ表スルモノナルヲ以テ登錄ヲ願出ツルヲ得スリヌ兩個ノ印ハ第二條本文ニ據テ了解スヘシロハ兩個ノ印ハ外部ノ螭龍及ヒ俵ノミヲ要部トシ內部ノ文字ヲ要部外ニ附記スレハ登錄ヲ願出ルモ妨ナシ

第五項　併用ノ儀ハ見解ノ通

第六項　前段見解ノ通

第四條　書式ニ掲載シタル附記ハ商標ノ全形內ニ附記スルノ方法トス

但伺面書例附記ノ如キハ之ヲ全形ノ內外孰レニ屬スルモ願人ノ適宜タルヘシ

第五條　全形內ノ附記ヲ製品ノ容器ニ從テ變換スルヿアルモノハ明細書中用方ノ處ニ於テ其旨ヲ詳記スヘシ

第六條　商標ノ全形外ニ記載スルハ適宜ニ任スト雖モ全形內ニ記載セント欲スルトキハ豫テ明細書ニ記載シ置ヘシ

第七條　前同斷　第八條　前同斷　第九條　見解ノ願　第十條　前段ハ見解ノ通後段ハ屆出ヘシ

第十一條　第六條ノ指令ニ同シ　第十二條　見解ノ通　第十三條　相成ラス

但願人背諾ノ上ハ妨ナシ

商標登錄願ノ儀ニ付栃木縣ヨリ農商務省ヘ伺十七年十一月八日

第壹項　管內ニ於テ從來家號ノ頭字ヲ以テ洋字Kトナシ商標ニ使用セシモノアリ今之カ登錄ヲ願出ツルト雖モ右ハ洋和ノ文字ヲ異ニスルモ條例第五條第貳項ニ該當スルモノト心得可然哉

第貳項　前項ノ場合ニ於テハ願書ハ地方總限リ下戻可然哉

指令　十七年十二月三日　伺之趣左之通可相心得事

第壹項　願出ツルモ妨ケナシ

第貳項　例規ニ據テ進達スヘシ

商標登錄願ノ儀ニ付和歌山縣ヨリ農商務省ヘ伺十七年十二月十七日

本年十二月八日官報第四百三拾五號宜載商標登錄願ノ儀ニ付栃木縣ヨリ伺第壹項ニ家號ノ頭字ヲ以テ洋字トナシ商標ニ使用セシモノ登錄願出云々ニ對シ御省御指令ニ願出ツルモ妨ケナシトアリ右ハ條例第五條第貳項ノ家號トハ假令ハ紀伊ノ國屋又ハ尾張屋等ノ類ヲ指シタルモノニ可有之歟果シテ然ラハ右等ノモノハ願出ツルヲ得サルモノニ有之處如此家號ノ頭字ヲ洋字ニ改メタルモノハ商標ヲ爲ルヲ得可キモノナラハ紀伊ノ國屋ノ紀尾張屋ノ尾ノ類ノ如キ

モノ和字ヲ以テ商標ト爲スヲ得ヘキヤ都テ右等ノ種類ハ則チ商標ニ非スシテ所謂目印ノ部ニ屬ス可キモノト相考候得共聊カ解兼相伺候

指令　十七年十二月二十四日

伺之趣家號ノ頭字ト雖モ從來同業者普通ニ用ヒヌハ商業上慣用之目印ニアラサルニ於テハ其登錄ヲ願出ツルモ妨ケナキ儀ト可相心得事

◉商標專用ノ儀ニ付岡山縣ヨリ農商務省ヘ伺十七年十月八日

一本年第拾九號ノ布告ヲ以テ商標條例御制定相成候處右ハ一般商家ノ賣品ニ限リ專用可致モノニシテ府縣監獄署ニ於テ製造スル物品ニハ適用難致儀ト思料候得共抑在監人ノ如キハ無資無產無技無能ノ徒多キヲ以テ監獄則ニ於テ之レニ種標ヲ授クルノ事業ヲ設ケテ以テ在監人ニ習熟セシムルニ於テハ其製出スル處ノ物品ハ監獄署ニ於テハ販賣セサルヘカラス其販賣ノ方法ニ至テハ均シク他ノ商店ニ異ナルヿナシ然ラハ即チ監獄署ノ製造品ト雖モ商標專用ヲ得タル物品ヲ製作シ之レヲ販賣セントスルモノヘハ商標專用ノ權ヲ分與致シ不苦候哉

指令　十七年十二月廿五日

伺ノ趣出願スルノ限リニ無之儀ト可相心得事

◉商標ノ儀ニ付島根縣ヨリ農商務省ヘ伺十七年十月二十四日

商標條例ノ中疑義ノ廉左ニ相伺申候

第一條　條例第五條第四項ノ儀ニ付德島縣伺御指令ノ趣有之候處其公有標ニ屬スヘキモノハ幾年ノ後顯スルモ限ナキヤ

第二條　前條公有商標後日露顯シ之ニ抵觸スレハ條例第十二條ニ據リ無効ニ歸スヘキ處其公有商標トナスヘキ實否ノ調査ハ何等ニ據ルヘキモノナルヤ

第三條　若シ公有商標ハ人民ノ申出ニ任セ別ニ調査セラレサルモノトスレハ附則限內ニ出願登錄ヲ得專有權ヲ有スル者ト抵觸スルトキハ如何可心得哉

第四條　公有商標ト同一又ハ相紛ハシキ商標ヲ同一種ノ商品ニ用フルヿハ出願スルヲ得スト雖モ出願セスシテ同樣ノ商標ヲ使用スルモノアルモ不問ニ置クヘキ筋ナルヤ

指令　十八年三月三日

伺之趣左ノ通可相心得事

第一條　見解ノ通

第二條　已ニ登錄ヲ經タル商標ニシテ後日公有ニ屬スヘキ商標ナルコトヲ商標登錄所ニ於テ發見シタルトキハ農商務卿之ヲ判定シ民間ニ於テ發見セシトキハ裁判官ノ審判ニ據ルモノトス

第三條　附則限內ニ出願シ其登錄ヲ經タル商標ハ條例第五條四項ニ抵觸スルコトナシ

第四條　見解ノ通

◉商標登錄願手續ノ義ニ付富山縣ヨリ農商務省ヘ伺十八年七月八日

登錄商標ヲ使用スル商品ノ種類ハ商標登錄願手續第拾壹條ニ明示有之候然處其同種內ノ品ヲ貳品以上（甲乙丙或ハ丙丁戊便宜）ニ取リ束ヲ之ヲ包括スル爲メ相用候上包紙若クハ上袋等ヘハ登錄商標ヲ使用スヘキ限リニ無之義ト相心得可然哉

指令　十八年七月廿一日

伺之趣商標明細書中ニ掲載セル商品ナレハ幾品タリトモ之ヲ包括スル上包紙若クハ上袋等ニ登錄商標ヲ使用シ差支無之義ト可相心得事

◉商標登錄願手續ノ儀ニ付富山縣ヨリ農商務省ヘ伺十八年七月十五日

一商標違例第拾四條手數料上納手續第一項ニ商標壹箇ニ付金拾圓但一ノ商標ヲ數種ノ商品ニ兼用若クハ轉用スル者ハ其商品一種ヿトニ金五圓ヲ加フトアリ又商標登錄願手續第三條ニ壹箇ノ商標ヲ貳種以上ノ商品ニ用ヒンカ爲メ又ハ貳箇以上ノ商標ヲ壹種ノ商品ニ用ヒンカ爲メ登錄ヲ願出ツルトキハ其商品一種又ハ商標壹箇ヿトニ各別ノ願書

及明細書ヲ差出ス可トアリ右兩條ヲ對照比考候ヘハ壹箇ノ商標ヲ數種ノ商品ニ兼用若クハ轉用スル者ハ一種ニ金五圓ヲ加フルニ準シ一種ノ商品ニ數箇ノ商標ヲ用ユル者ハ壹箇コトニ金五圓ヲ加ヘ上納ノ義御許可相成候哉

一二人以上同一又ハ相紛フシキ商標ヲ同一種類ノ商品ニ專用不相成義ハ條例第三條ニ明文有之然ル處若シ一人ニシテ專用ノ要點同一ナル左ノ圖ノ如キ商標ヲ一種ノ商品ニ專用出願スル者ハ壹箇ノ商標ト見做シ手數料金拾圓相納メサセ其ノ形狀使用ヲ明細書ニ記載シテ可然哉

（圖略ス）

指令　十八年八月十三日

伺之趣左ノ通可相心得事

第一項　數箇ノ商標同種ノ商品ニ使用スルモノタリ共壹箇コトニ金拾圓ヲ納ムヘシ

第二項　本伺ニ示スカ如キ商標ハ專用ノ要點同一ナリトシテ一商標ヲ以テ論スヘキ限リニ無之同一種ノ商品ニ使スルモノタリ共孰レモ全形ヲ要點トシ別箇ノ商標トシテ登錄願出ツヘシ

㊙商標使用方ノ儀ニ付函館縣ヨリ農商務省ヘ伺十八年八月十九日

大坂府權衡製作請負人山本清之助儀自分製作ノ權衡ヘ別紙見本ノ商標使用ノ儀大坂府廳ヲ經出願許可相成候趣ニ候處同人儀ハ當縣權衡製作請負モ兼業致居候ニ付當縣於テ製作ノ權衡ヘモ右商標使用致度旨今般屆出有之右商標ハ山本清之助製作ノ權衡ヘ使用許可相成タル儀ニ付假令製作地ハ異リ候トモ使用候テ差支無之樣被相考候得共條例中明文無之候ニ付如何相心得可然哉（見本略ス）

指令　十八年九月五日

伺之趣差支無之儀ト可相心得事

㊙商標登錄願書却下ノ儀ニ付栃木縣ヨリ農商務省ヘ伺十八年十二月五日

從來使用ノ商標ニシテ即今登錄願出ルモノ有之右ハ商標條例附則ニ據リ出願スヘキモノニシテ既ニ期限ヲ經過候上ハ當縣限リ願書却下不苦候哉

指令　十八年十二月廿一日

伺之通

第百七十九章　日本銀行條例

明治十五年六月二十七日第三十二號布告

日本銀行條例左ノ通制定ス

日本銀行條例

第一條　日本銀行ハ有限責任トシ本行ノ負債辨償ノ爲メ株主ノ負擔スヘキ義務ハ株金ニ止マルモノトス

第二條　日本銀行ハ本店ヲ東京ニ置クヘシ各府縣ノ首邑其他要用ナル地方ニ支店出張所ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「コルレスポンデンス」ヲ締約スルヿヲ得但支店出張所ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「コルレスポンデンス」ヲ締約スル𪜈ハ其事由ヲ大藏卿ニ具狀シテ其許可ヲ受クヘシ又大藏卿ニ於テ支店出張所ヲ要用ナリトスル時ハ銀行ニ命シテ之ヲ設置セシムルヿアルヘシ

第三條　日本銀行ノ營業年限ハ開業ノ日ヨリ滿三十年トス但株主總會ノ決議ニ依リ營業ノ延期ヲ請願スルヿヲ得

第四條　日本銀行ノ資本金ハ壹千萬圓ト定メ之ヲ五萬株ニ分チ壹株貳百圓トス但株主總會ノ決議ニ依リ資本金ノ增加ヲ請願スルヿヲ得

第五條　日本銀行ノ株分ハ總テ記名分トナシ日本人ノ外賣買讓與スルヲ許サス

第六條　日本銀行ノ株主トナラントスルモノハ大藏卿ノ許可ヲ受クヘシ

第七條　資本金總額五分ノ一即チ貳百萬圓ノ入金アル時ハ營業ヲ開始スルヲ得ヘシ但

資本金募集ノ手續ハ定欵ヲ以テ定ムル者トス

第八條　營業上ニ於テ損失ヲ生シ資本現入金額ノ內幾分ヲ減少シタル時ハ其事由ヲ審明シ資本入金殘額ヨリ其欠額ニ充ル迄ノ金額ヲ追募スヘシ

第九條　事業ノ申張ニ由リ資本入金ノ增加ヲ要スル時ハ之ヲ資本入金殘額ヨリ追募スヘシ

第十條　純益金總額ヨリ株主割賦金ヲ引去リ其殘額ヨリ少クモ十分ノ一ヲ左ノ目的ヲ以テ積立金ト爲スヘシ

第一　資本金ノ損失ヲ補フ

第二　割賦金ノ不足ヲ補フ

第十一條　日本銀行ノ營業ハ左ノ如シ

第一　政府發行ノ手形爲換手形其他商業手形等ノ割引ヲ爲シ又ハ買入ヲ爲ス事

第二　地金銀ノ賣買ヲ爲ス事

第三　金銀貨或ハ地金銀ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス事

第四　豫テ取引約定アル諸會社銀行又ハ商人ノ爲メニ手形金ノ取立ヲ爲ス事

第五　諸預リ勘定ヲ爲シ又ハ金銀貨幣金屬並諸證券類ノ保護預リヲ爲ス事

第六　公債證書政府發行ノ手形其他政府ノ保證ニ係ル各種ノ證券ヲ抵當トシテ當座勘定貸又ハ定期貸ヲ爲ス事但其金額及利子ノ割合ハ總裁副總裁理事監事ニ於テ時々決議シ大藏卿ノ許可ヲ受クヘシ

第十二條　日本銀行ハ第十一條ニ記載スル事業ノ外左ニ掲クル件々ハ勿論其他諸般ノ營業ニ關涉スルヿヲ得ス

第一　不動產及ヒ銀行又ハ諸會社ノ株分ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス事

第二　日本銀行ノ株分ニ對シテ貸金ヲ爲シ又ハ此株分ノ買戻ヲ爲ス事

第三　諸工業會社ノ株主タルハ勿論直接間接ヲ問ハス工業ニ關係スル事

第四　本支店出張所ヲ開設スル爲メ必要ナル者ノ外一切他ノ不動產ノ所有主タル事

第十三條　政府ノ都合ニ由リ日本銀行ヲシテ國庫金ノ取扱ヒニ從事セシムヘシ

第十四條　日本銀行ハ兌換銀行分ヲ發行スルノ權ヲ有ス但此銀行分ヲ發行セシムル時ハ別段ノ規則ヲ制定シ更ニ頒布スル者トス

第十五條　日本銀行ハ諸手形及切手ヲ發行スルヲ得ヘシ

第十六條　日本銀行ハ公債證書ヲ買入又ハ之ヲ賣拂フヿヲ得ヘシ但此場合ニ於テハ大藏卿ノ許可ヲ受クヘキモノトス

第十七條　日本銀行ハ總裁一人副總裁一人理事四人ヲ以テ綜理スル者トス此外ニ監事三人乃至五人ヲ置クヘシ

第十八條　總裁副總裁ハ任期五ケ年トシ總裁ハ勅任副總裁ハ奏任トス但任期中ハ他ノ官職ヲ兼任スルヲ得ス

第十九條　理事ハ株主總會ニ於テ撰舉シ大藏卿ノ命スル者トス但創立第一回ハ五ケ年ノ任期ヲ以テ大藏卿之ヲ特命スヘシ監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ撰舉シ理事監事ノ任期ハ定款ヲ以テ定ムヘシ

第二十條　理事監事ハ任期中他ノ銀行又ハ會社等ノ役員タルヲ許サス

第二十一條　大藏卿ハ特ニ管理官ヲ日本銀行ニ派出シテ諸般ノ事務ヲ監視セシムヘシ

第二十二條　日本銀行ハ本支店出張所及約定店等ノ營業上百般ノ景況ヲ調査シ少クモ毎月一回之ヲ大藏卿ヘ報告ス可シ

第二十三條　日本銀行ハ本條例ノ旨趣ニ基キ銀行定款ヲ作リ政府ノ許可ヲ受ク可シ但定款ヲ改正シ又ハ定款外ノ事件ヲ處スル時ハ株主總會ニ於テ決議シ政府ノ許可ヲ受ク可シ

第二十四條　政府ハ日本銀行諸般ノ業務ヲ監督シ其營業上條例定款ニ背戻スル事ハ勿論政府ニ於テ不利ト認ル事件ハ之ヲ制止スヘシ

第二十五條　此條例ヲ改正增削スル時ハ其施行ノ日ヨリ三ケ月以前ニ之ヲ布告スヘシ

右奉　勅旨布告候事

第百八十章　國立銀行條例

明治九年八月一日第百六號布告

明治五年(十一月)第三百四拾九號布告國立銀行條例ノ儀詮議ノ次第有之別紙ノ通改正致シ舊條例ハ自今相廢シ候條新ニ國立銀行ヲ創立セントスル者ハ勿論從來舊條例ヲ遵奉シテ創立シタル者ト雖モ右改定條例ニ準據シ大藏省ヘ願出ノ上其免許ヲ受候樣可致此旨布告候事

(別冊)

國立銀行條例

銀行創立請願ノ件

銀行ヲ創立スルノ摸範

國立銀行ハ政府ヨリ發行スル公債證書ヲ抵當トシテ之ヲ大藏省ニ預ケ紙幣寮ヨリ銀行紙幣ヲ受取リ引換ノ準備金ヲ設ケ之ヲ發行シ以テ其業ヲ營ムモノナリ今之ヲ創立スルニ付大日　政府ニ於テ制定シタル條々左ノ如シ

第一章　銀行創立ノ方法、創立證書、銀行定款ノ差出方及ヒ開業免狀ノ下附並ニ諸役員撰任方法等ノ事ヲ明カニス

第一條　此條例ヲ遵奉シ國立銀行ヲ創立セントスル者ハ何人ヲ論セス(外國人ヲ除クノ外)五人以上結合シタル人々成規第一條ニ掲クル所ノ手續ヲ以テ其創立願書ヲ大藏省ノ紙幣寮ヘ差出スヘシ紙幣頭之ヲ檢按シ相當ト思慮スルニ於テハ之ヲ大藏卿ニ稟議シテ其銀行創立證書及ヒ銀行定款ノ差出方ヲ命スヘシ

第二條　右紙幣頭ノ命ヲ受ケタル人々ハ各其姓名ヲ創立證書ニ記入シ諸般ノ手續ヲ經テ其創立証書ニ紙幣頭ノ承認許可ヲ受ルニ於テハ此條例ニ規定セル箇條ヲ遵奉シ以テ國立銀行ヲ創立スルヲ得ヘシ而シテ其創立證書ニ掲載スヘキ件々ハ左ノ如シ

第一　銀行ノ名號

但シ此名號ハ紙幣頭ノ承認許可ヲ得テ之ヲ公稱スヘシ

第二　銀行ノ本店及ヒ支店(若シ之アラハ)ヲ置クヘキ場所

第三　銀行資本金額及ヒ株數

第四　銀行營業ノ年限

第五　株主ノ姓名、住所、屬族、職業(若シ之アラハ)及ヒ其引受タル株式ノ番號、箇

創立証書ノ印紙貼用並ニ其他ノ件

定款ノ印紙貼用並ニ其他ノ件

創立証書更正ノ件

數

第六　此創立證書ハ此條例ヲ遵奉シ銀行ノ事業ヲ營ナミ株主一同ノ利益ヲ謀ルタノ取極メタル旨

第三條　右創立證書ハ其株主等各記名調印シ之ニ壹錢ノ印紙ヲ貼用シ其管轄地方長官ノ奥書鈐印ヲ受タルモノタルヘシ斯ク從事シタル創立證書ハ當人ハ勿論其相續人後見人タル者ニ於テモ右創立證書ノ條ヲ確守シ此條例成規ノ旨趣ヲ遵奉スル者トスヘシ

第四條　右創立証書ノ條ヲ更正スルニハ其社中ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認許可ヲ得ルニ於テハ之ニ從事スルコトヲ得ヘシ但其事件ハ即チ資本金ノ增減及ヒ本店轉移或支店開設等ノ如キ是ナリ而シテ右ノ如ク更正シタル條條ハ最初右創立證書中ニ記載セシ條條ト同シク確守スヘシ且右ノ條條ハ其創立證書ノ本紙正寫ノ別ナク之ヲ綴込ミ又ハ添附シ置ヘシ

但シ右ノ外創立証書中ノ條條ヲ更正スルヿヲ得サルヘシ

第五條　此條例ヲ遵奉スル國立銀行ハ右創立証書ニ必ス銀行定款ヲ添フヘシ而シテ此定款ハ即チ成規第六條ニ掲クル所ノ雛形ニ準據シ其條條ヲ悉皆(又ハ若干)記載シ創立証書ト同樣株主一同之ニ記名調印シ壹錢ノ印紙ヲ貼用シタルモノタルヘシ

但シ此定款ハ唯紙幣頭ノ承認ヲ得紙幣寮ノ官印ヲ受クルノミニシテ其管轄地方長官ノ奥書鈐印ヲ乞フニ及ハサルヘシ

定款ノ條條ヲ更正增加及ヒ廢止スルノ件

創立証書並ニ定款差出方ノ件

開業免狀下附ノ件

銀行開業ノ件

開業免狀創立証書定款ハ臨証トセラルヽノ件

創立証書并ニ定款ノ寫ヲ各株主ヘ付與スルノ件

第六條　此條例ヲ遵奉スル國立銀行ハ社中ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ銀行定款中ニ掲ケタル諸款ヲ更正增補シ及ヒ之レヲ廢止スルヿヲ得ヘシ而シテ右ノ如ク更正增補シタル條條ハ最初右定款中ニ掲載セシ條條ト同シク確守スヘシ且右ノ條條ハ其定款ノ本紙正寫ノ別ナク之ヲ綴込ミ又ハ添附シ置クヘシ

第七條　創立証書並ニ銀行定款ハ本紙壹通正寫二通都合三通宛ヲ製シ而シテ創立証書ヘ其管轄地方長官ノ奥書鈐印ヲ受ケ銀行定款ト共ニ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ

第八條　紙幣頭ハ右創立証書及ヒ銀行定款ヲ領受シ其銀行株主等此條例第三十條ニ規定スル所ノ割合ヲ以テ資本金ノ入金ヲナセシヤ否ヤノ狀實ヲ檢査シ且株主等ノ正不正其他百般ノ事務ヲ視察シ不都合アルニ非レハ之ヲ大藏卿ヘ稟議シ開業免狀ヲ下附スヘシ

但シ創立証書銀行定款共本紙ハ記錄寮ニ納メ正寫壹通ハ紙幣寮ノ簿冊ニ綴込ミ壹通ハ紙幣寮ノ官印ヲ鈐シテ開業免狀ト共ニ之ヲ其銀行ヘ下附スヘシ

第九條　銀行ハ右ノ開業免狀ヲ得テ始テ一國ノ會社トナリ何々國立銀行ト公稱シ此條例成規ニ規定シタル條條ヲ履行シテ國立銀行ノ事業ヲ經營スルヲ得ヘシ

第十條　此條例ニ從ヒ紙幣頭ノ記名調印シタル開業免狀、創立証書、銀行定款ハ何レノ裁判所何レノ官廳ニ於テモ之ヲ正確ナル証據トシテ採用セラルヽヲ得ヘシ

第十一條　創立証書、銀行定款ノ寫又ハ版本等(用意分配ノ手續了ルノ後)各株主ヨリノ要需アルニ於テハ銀行ニ於テ定ムル所ノ代價ヲ以之ヲ付與スヘシ若シ銀行右付與

營業期限幷ニ延期ノ件

ノ事ヲ怠慢スルニ於テハ銀行ハ其怠慢時間一日ニ付五圓ニ踰エサル罰金ヲ納ムヘシ

第十二條　此條例ニ遵奉シテ創立スル銀行ハ鎖店其他ノ事故アルニ非レハ開業免狀ヲ受ケシ日ヨリ二十ケ年ノ間其營業ヲ繼續スルコトヲ得ヘシ右期限後ハ更ニ私立銀行ノ資格ヲ以テ大藏卿ノ許可ヲ受ケ其營業ヲ繼續スルコトヲ得ヘシ然レトモ紙幣發行ノ特許ヲ有シ國立銀行ノ資格ヲ以テ營業ヲ繼續スルコトヲ許サス（十六年第十四號布告ヲ以テ全條改正）

社號幷ニ社印用法ノ件

第十三條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役等ハ開業免狀ヲ得ルノ日ヨリ社印ヲ刻シ諸役員ノ印信ト共ニ大藏省ノ紙幣寮國債寮出納寮ノ三寮ヘ差出スヘシ而シテ銀行ノ諸出願ヲ始メ訴訟、約定、保證及ヒ報告、往復其他一切ノ文書ニ至ルマテ都テ其社號ヲ用ヰ社印ヲ鈐スヘシ

銀行ノ諸役員撰任ノ件

但報告、約定、保證等ノ如キ文書ニハ頭取取締役及ヒ支配人ノ名印ヲモ加用スヘシ

第十四條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ頭取取締役ヲ始メ支配人、書記方、出納方、計算方、簿記方、其他適宜ノ役員ヲ撰任シ其職制權限進退及ヒ頭取、取締役交代ノ手續等諸般ノ規約ヲ取極メ之ヲ銀行定欵中ニ掲載スヘシ

取締役所持株式ノ制限

第十五條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ取締役ハ必ス自力ヲ以テ成規第五十一條ニ規定スル所ノ株數ヲ所持シタル者ニシテ其總員ハ五人以上（內一人ハ頭取）タルヘシ而シテ其四分ノ三ハ其銀行創立ノ地ニ於テ上任前一箇年以上在住シタル者ニ限ルヘシ

頭取取締役撰擇ノ件

第十六條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役ハ上任ノ節ニ其地方長官ノ面前ニ於テ誓詞ヲ爲シ其事務ヲ施行スルニ忠實公平ヲ以テシ且此條例中ノ要旨ニ決シテ戾セ背ザル旨ヲ認メ其管轄地方長官ノ奥書鈐印ヲ受ケ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ紙幣頭ハ之ヲ領受シテ寮中ノ簿冊ニ綴込ムヘシ

資本金額制限ノ件

第二章　銀行資本金ノ制限、公債證書銀行紙幣交收ノ割合並ニ其手續及ヒ引換準備金等ノ事ヲ明カニス

第十七條　此條例ヲ遵奉スル國立銀行ノ資本金額ハ拾萬圓ヨリ下ル可カラス尤人口拾萬人以上ノ地ニ於テハ貳拾萬圓未滿ノ資本金ヲ以テ創立スルヲ許サス

但シ時宜ニヨリ紙幣頭差支ナシト思考シテ大藏卿ヘノ稟議ヲ經ルニ於テハ五萬圓以上拾萬圓未滿ノ資本金ニテモ創立ヲ許スヿアルヘシ

公債證書納方ノ件

第十八條　此條例ヲ遵奉スル國立銀行ヨリ發行スル紙幣ハ資本金十分ノ八タルヘシ然レ𪜈大藏卿ハ全國ニ發行スヘキ銀行紙幣ノ總額ヲ制限スルヿアルヘシ故ニ新タニ創立ヲ願フ者アル𪜈其資本金額ヲ節減シ或ハ其創立ヲ許可セサルヿアルヘシ尤モ發起人ノ請願ニ依テハ特ニ其發行紙幣ノ割合ヲ節減シテ其創立ヲ許可スルヿアルヘシ而シテ各銀行ハ其發行紙幣ノ高ニ應シ四朱以上利付ノ公債證書ヲ時價（時相場ヲ斟酌シ大藏省ニ於テ定ムル所ノ價格）ヲ以テ右紙幣ノ抵當トシ之ヲ出納局ニ預クヘシ（十一年第五號布告ヲ以テ但書共全條改正）

公債證書ノ管守幷ニ當藏處分ノ件

但公債證書ノ時價低下スル𪜈ハ其銀行ニ命シテ更ニ他ノ公債證書ヲ納メシメ其發行紙幣ノ額ニ充タシムヘシ

第十九條　右公債證書ハ此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行スル紙幣ノ抵當ナルヲ以テ出

銀行紙幣交換準備金ノ制限

納頭ハ其銀行永續中ハ正ニ之ヲ預リ置クヘシ而シテ若シ此公債證書ノ內國債寮ニ於テ施行スル所ノ公債支消ノ抽籤ニ當ル者アレハ銀行ハ他ノ公債證書ヲ納メテ之ヲ引換フヘシ

第二十條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其紙幣下付高四分ノ一ニ相當スル通貨ヲ以テ發行紙幣引換ノ準備ニ充ツヘシ（十六年第十四號布告ヲ以テ全條改正）

資本金ノ增減ニ從ヒ引換ノ準備金等モ其割合ニ準スルノ件

第二十一條　此條例第四十條四十二條ニ掲クル所ノ手續ヲ以テ資本金額ヲ增減スルヿアルニ於テハ前條ニ掲クル所ノ公債證書並ニ銀行紙幣引換ノ準備金モ亦其割合ニ從テ之ヲ增減スヘシ

第二十二條　（十六年第十四號布告ヲ以テ刪除ス）

公債證書銀行紙幣交收割合ノ件

第二十三條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取支配人ハ公債證書ヲ出納寮ヘ納メ其受取證書ヲ領受シタル後同額ノ銀行紙幣ヲ各種ノ種類ニテ紙幣寮ヨリ受取リ之ニ頭取支配人等ノ名印ヲ加用シ以テ銀行營業ノ資本トナスヘシ

銀行紙幣受領ノ件

第二十四條　右公債証書ノ請取証書ハ紙幣頭出納頭ノ連署調印シタル者タルヘシ尤此公債証書ノ勘査ニ付テハ該兩寮頭互ニ其簿冊ヲ開ラキ須ラク注意ヲ盡シ詳明ニ之ヲ記入シ又互ニ之ヲ點檢スルヲ得ヘシ

公債證書勘査ノ件

第二十五條　此條例第十八條ニ掲クル所ノ出納頭ニ預ケタル公債證書ハ毎年一度（又ハ數度）銀行ノ役員出納寮ニ至リテ之ヲ點檢シ其銀行ノ元帳ニ照シテ其種類員額等相違ナキニ於テハ改人ハ改濟ノ旨ヲ書面ニ認メ之ヲ出納頭ヘ差出スヘシ

公債證書ノ改人並ニ委任狀ノ件

但シ右改人出納寮ヘ出ル時ハ其銀行頭取ノ委任狀ヲ持參スヘシ

第二十六條　右公債證書ハ銀行ノ都合ニヨリ四朱以上利付ノ他ノ公債證書ヲ以テ之カ引換ヲ申請シ紙幣頭ノ考案ニ於テ差支ナシトセハ其趣ヲ出納頭ヘ通知シ之ヲ交換下附スヘシ

公債證書換納ノ件

但シ其引換ヘタル趣並ニ其公債證書ノ種類金額等ハ紙幣出納兩寮ノ簿冊ニ詳記スヘシ

第二十七條　右公債證書ヨリ生スル年々ノ利息ハ其銀行之ヲ受取リ毎年銀行ノ利益精勘定ノ內ニ加ヘテ之ヲ株主一同ヘ分配スヘシ（十六年第十四號布告ヲ以テ但書ヲ削除ス）

公債證書利息ノ件

第三章　株式ノ分割、資本金入金ノ割合、株式沒入、株主牒ノ記入、株式ノ賣買及ヒ資本金增減等ノ事ヲ明カニス

株式分割ノ定規

第二十八條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ資本金ハ之ヲ株式ニ分割シ百圓又ハ五拾圓又ハ貳拾五圓ヲ以テ一株ト定ムヘシ尤一株百圓ニ分配シタル銀行ノ株式ハ悉皆百圓ノ金高タルヘシ五拾圓貳拾五圓ノ株式モ亦之ニ準スヘシ

但シ拾萬圓以上ノ資本金ヲ以テ創立スル銀行ナレハ百圓又ハ五拾圓ヲ以テ一株ト定ムヘシ又拾萬圓未滿五萬圓マテノ資本金ヲ以創立スル者ナレハ五拾圓又ハ貳拾五圓ヲ以テ一株ト定ムヘシ

株式ノ所有ハ其望ニ任スルノ件

第二十九條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主タル者ハ各自ノ望ニ任セ幾株ニテモ之ヲ所持スルヲ得ヘシ而シテ其株主ハ何レノ屬族何レノ職務アルニ拘ハラス總テ其所持株

資本金入金割合ノ件

高相當ノ權利ヲ有シ其銀行營業ニ付テノ損益ハ株高ニ應シテ之ヲ負擔スヘシ

但シ大藏省ノ官員其他ノ官員トモ此銀行ノ事務ニ關係アル者ハ株主トナルヲ許サス

資本金集合高屆書差出方ノ件

第三十條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主等ハ開業免狀ヲ得其業ヲ始ムル前ニ於テ少ナクトモ資本金總額十分ノ五ハ必ス之ヲ銀行ニ入金スヘシ而シテ他ノ十分ノ五ハ資本金總額ノ十分一ヲ以テ月賦ト定メ開業免狀ヲ得タル月ノ翌月ヨリ入金スヘシ

株式沒入ノ件

第三十一條　右資本金ノ月賦入金毎ニ其銀行ノ頭取支配人ハ成規第十三條ニ準據シ資本金集合高屆書ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ

第三十二條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主等株金ノ月賦入金ヲ怠ル時ハ頭取取締役等ニ於テ其株ヲ沒入シ競賣其他ノ手續ヲ以テ三十日以內ニ之ヲ賣拂ヒ而シテ其入用ヲ差引キ尙ホ過金アレハ之ヲ元株主ヘ返還スヘシ尤此競賣ニ於テ右株式ヲ買取リタル株主モ亦他ノ株主同樣ノ權利ヲ有スヘシ

株式消除ノ件

第三十三條　右競賣ニ於テ其株ヲ買フ者アラサル時ハ是迄入金シタル金高ハ銀行ニ沒入シテ其株ヲ消スヘシ尤此消株ニヨリ資本金額此條例第十七條ニ規定スル所ノ制限ヨリ減少スルトキハ頭取取締役等ハ三十日間ニ之ヲ補ヒ定限ノ高ニ滿タシムヘシ若シ頭取取締役等之ヲ怠ルトキハ紙幣頭ハ其銀行ニ領店ヲ申渡シ更ニ跡引受人ヲ命スヘシ

株主牒ノ製造及ヒ記入ノ方法

第三十四條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ株主牒ヲ製シ左ノ要件ヲ記載スヘシ

第一　各株主ノ姓名、住所、屬族、職業（若シ之アラハ）

第二　各株主ノ所持セル株式ノ番號、箇數

第三　入社ノ年月日

第四　退社ノ年月日

株主牒ヘ記名ノ件

第三十五條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ創立證書ニ記名スル者ハ卽チ其銀行ノ株主タルカ故ニ前條ニ規定セル株主牒ニ各其姓名ヲ登記スヘシ且其他何人ニテモ（外國人ヲ除クノ外）爾後其銀行ノ株主タランヿヲ同意シ隨テ其姓名ヲ株主牒ニ登記シタルモノハ又同シク其銀行ノ株主タルノ權利アルヘシ

株主牒檢閱ノ件

第三十六條　右株主牒ハ銀行其開業免狀ヲ領受スルノ卽日ヨリ之ヲ其本店ニ備置クヘシ而シテ此株主牒ハ營業時間ナレハ何時ニテモ株主等之ヲ檢閱スルヲ得ヘシ若シ銀行其檢閱ヲ拒ミタルトキハ株主ハ其趣ヲ書面ニ認メ之ヲ其管轄地方官廳ヘ差出シ紙幣頭ヘノ照會ヲ乞フヘシ其照會ヲ得ルニ於テハ紙幣頭ハ直チニ官吏ヲ派遣シ其本店ヲ檢査セシムルヿアルヘシ

株主牒ノ記入ヲ修正スルノ件

但シ銀行ハ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ其旨ヲ報知スルニ於テハ壹箇年中日數三十日ニ過キサレハ何時ニテモ右檢閱ヲ停止スルヿヲ得ヘシ

第三十七條　右株主牒ニ何人カ故ナク姓名ヲ記入セラレ又ハ妄リニ除名セラレ又或ハ退社セシ所以ノ記載ヲ故ナク遷延セラレタル等ノ事アリテ其人之カ爲メ妨碍ヲ受クルニ於テハ其事由ヲ書面ニ認メ之ヲ其管轄地方官廳ヘ差出シ紙幣頭ヘノ照會ヲ乞フヘシ其照會ヲ得ルニ於テハ紙幣頭ハ直チニ銀行ニ命シテ之ヲ修正セシムヘシ

株式賣買譲與ノ件

第三十八條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株式ハ成規第二十七條三十條ニ規定スル所ノ手續ヲ以テ之ヲ賣買譲與スルヿヲ得ヘシ

但シ銀行ハ新開紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ其旨ヲ報知スルニ於テハ一箇年中日數三十日ニ過キサレハ何時ニテモ其株式ノ賣買譲與ヲ停止スルヿヲ得ヘシ

株式喪却譲與ニ於ケル名代人ノ權利

第三十九條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主死去スルノ際名代人ヲ以テ株式ヲ賣却譲與スル等ノ事アル片ハ假令ヒ此名代人ハ其銀行ノ株主ニ非スト雖ヒ記名調印等ノ事ニ至リテハ猶ホ株主同樣ノ權利ヲ有スヘシ

資金增加ノ件

第四十條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ社中ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ其資本金額ヲ增加スルヿヲ得ヘシ而シテ右增加スヘキ資本金額ノ制限ハ大藏卿ノ稟議ヲ經テ紙幣頭之ヲ定ムヘシ故ニ其資本金額ヲ增加スルニハ紙幣頭ニ申請シ其承認ヲ得テ之ニ從事スヘシ尤全ク入金濟ノ上ハ成規第十四條ニ準據シテ其增加證書ヲ差出スヘシ

資本金增加ニ付公債證書納方ノ件

第四十一條　此條例ヲ遵奉スル銀行前條ニ掲クル如ク資本金ヲ增加セシニヨリ公債證書ヲ納メ銀行紙幣ヲ請取ルノ手續ハ現ニ其株主タル者ヨリ增加ノ總額ヲ全ク入金シタル後ニ非レハ之ヲ施行スルヲ許サス

資本金減少ノ件

第四十二條　此條例ヲ遵奉スル銀行若シ其資本金額ヲ減少セントスル時ハ社中ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ之ニ從事スルヲ得ヘシ尤其減少ノ高ハ此條例第十七條ニ於テ規定スル所ノ員額ヨリ下ルヲ許サス但シ紙幣頭ノ承認ヲ得テ此決議ヲ施行セントスルニ於テハ其施行ノ日限ヨリ少ナクモ三箇月以前ニ於テ資本金ノ減少員額ト其殘リ資本金額トヲ記載シタル報告ヲ製シ適宜ノ手續ヲ以テ之ヲ其預リ金アル得意先ヘ送達スヘシ且右減少セントスルノ趣ハ其銀行所在ノ地ニ行ハルヽ三種以上ノ新聞紙ヲ以テ三箇月以上毎日之ヲ公告スヘシ

資本金減少ニ際シ貸金及ヒ預ケ金アル者ノ權利

第四十三條　此條例ヲ遵奉スル銀行若シ前條ノ如ク其資本金額ヲ減少セントスルニ際シ其銀行ヘ貸金、預ケ金等アル者ハ未タ其仕拂期日至ラスト雖モ右減少ヲ施行スヘキ日限前一箇月ノ間ナレハ何時ニテモ左ノ定則ニ準據シ之カ償却ヲ乞フノ權利アルヘシ

第一　凡ソ定期預ケ金アル者ハ其元金並ニ當日迄ノ利息ヲ受取ルノ權利アリトス

第二　其他期限未滿タリモ凡ソ銀行ヨリ受取ルヘキ勘定アル者ハ時ノ相場ヲ以テ其仕拂期日迄ノ利息ヲ引去リ殘金高ノミヲ受取ルノ權利アリトス

資本金減少ノ件可

第四十四條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ此條例第四十二條四十三條ニ掲クル所ノ諸般ノ手續ヲ了ルニ於テハ成規第十五條ニ準據シ其減少証書ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ若シ右第四十二條四十三條ノ規定ニ背戻シ資本金減少ノ報告又ハ公告ヲ怠リ及ヒ期限未滿ノ勘定仕拂ヲ拒ムヿアル片ハ紙幣頭ハ右資本金減少証書ニ許可ヲ與ヘサルヘシ

銀行紙幣製造ノ件

第四章　銀行紙幣ノ製造及ヒ種類、其通用ノ能力、引換場所及ヒ燒捨等ノ事ヲ明カニス

第四十五條　此條例ヲ遵奉シテ發行スル所ノ銀行紙幣ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ紙幣頭其製

株式賣買讓與ノ件

第三十八條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株式ハ成規第二十七條三十條ニ規定スル所ノ手續ヲ以テ之ヲ賣買讓與スルヿヲ得ヘシ

但シ銀行ハ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ其旨ヲ報知スルニ於テハ一箇年中日數三十日ニ過キサレハ何時ニテモ其株式ノ賣買讓與ヲ停止スルヿヲ得ヘシ

株式賣却讓與ニ於ケル名代人ノ權利

第三十九條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主死去スルノ際名代人ヲ以テ株式ヲ賣却讓與スル等ノ事アルトキハ假令ヒ此名代人ハ其銀行ノ株主ニ非スト雖ヒ記名調印等ノ事ニ至リテハ猶ホ株主同樣ノ權利ヲ有スヘシ

資金增加ノ件

第四十條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ社中ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ其資本金額ヲ增加スルヿヲ得ヘシ而シテ右增加スヘキ資本金額ノ制限ハ大藏卿ヘノ稟議ヲ經テ紙幣頭之ヲ定ムヘシ故ニ其資本金額ヲ增加スルニハ紙幣頭ニ申請シ其承認ヲ得テ之ニ從事スヘシ尤全ク入金濟ノ上ハ成規第十四條ニ準據シテ其增加證書ヲ差出スヘシ

資本金增加ニ付公債證書納方ノ件

第四十一條　此條例ヲ遵奉スル銀行前條ニ掲クル如ク資本金ヲ增加セシニヨリ公債證書ヲ納メ銀行紙幣ヲ請取ルノ手續ハ現ニ其株主タル者ヨリ增加ノ總額ヲ全ク入金シタル後ニ非レハ之ヲ施行スルヲ許サス

資本金減少ノ件

第四十二條　此條例ヲ遵奉スル銀行若シ其資本金額ヲ減少セントスル時ハ社中ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ之ニ從事スルヲ得ヘシ尤其減少ノ高ハ此條例第十七條ニ於テ規定スル所ノ員額ヨリ下ルヲ許サス但シ紙幣頭ノ承認ヲ得テ此決議ヲ施行セントスルニ於テハ其施行ノ日限ヨリ少ナクモ三箇月以前ニ於テ資本金ノ減少員額ト其殘リ資本金額トヲ記載シタル報告ヲ製シ適宜ノ手續ヲ以テ之ヲ其預リ金アル得意先ヘ送達スヘシ且右減少セントスルノ趣ハ其銀行所在ノ地ニ行ハル、三種以上ノ新聞紙ヲ以テ三箇月以上每日之ヲ公告スヘシ

資本金減少ニ際シ貸金及ヒ預ケ金アル者ノ權利

第四十三條　此條例ヲ遵奉スル銀行若シ前條ノ如ク其資本金額ヲ減少セントスルニ際シ其銀行ヘ貸金、預ケ金等アル者ハ未タ其仕拂期日至ラスト雖モ右減少ヲ施行スヘキ日限前一箇月ノ間ナレハ何時ニテモ左ノ定則ニ準據シ之カ償却ヲ乞フノ權利アルヘシ

第一　凡ソ定期預ケ金アル者ハ其元金並ニ當日迄ノ利息ヲ受取ルノ權利アリトス

第二　其他期限未滿タリモ凡ソ銀行ヨリ受取ルヘキ勘定アル者ハ時ノ相場ヲ以テ其仕拂期日迄ノ利息ヲ引去リ殘金高ノミヲ受取ルノ權利アリトス

資本金減少ノ件可ノ件

第四十四條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ此條例第四十二條四十三條ニ掲クル所ノ諸般ノ手續ヲ了ルニ於テハ成規第十五條ニ準據シ其減少証書ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ若シ右第四十二條四十三條ノ規定ニ背戻シ資本金減少ノ報告又ハ公告ヲ怠リ及ヒ期限未滿ノ勘定仕拂ヲ拒ムヿアルトキハ紙幣頭ハ右資本金減少証書ニ許可ヲ與ヘサルヘシ

第四章　銀行紙幣ノ製造及ヒ種類、其通用ノ能力、引換場所及ヒ燒捨等ノ事ヲ明カニス

銀行紙幣製造ノ件

第四十五條　此條例ヲ遵奉シテ發行スル所ノ銀行紙幣ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ紙幣頭其製

造ノ事務ヲ董括シ極メテ紙質ノ堅牢ト彩紋ノ精緻ヲ要シ深ク贋摸ノ弊ヲ豫防スルノ術ヲ盡シテ以テ之ニ從事スヘシ

但シ右銀行紙幣製造ノ入費ハ其銀行ヨリ現費ヲ以テ紙幣寮ヘ納ムヘシ

銀行紙幣ノ種類

第四十六條　右銀行紙幣ノ種類ハ壹圓、貳圓、五圓、拾圓、二拾圓、五拾圓、百圓、五百圓ノ八種ト定メ銀行ノ望ニ應シテ製造下付スヘシ

但シ五圓以下ノ銀行紙幣ハ其銀行發行總額十分ノ五ヨリ多カラサルヘシ

銀行紙幣下付ノ件

第四十七條　右銀行紙幣ノ表裏面ニハ政府ノ公債証書ヲ抵當トシテ發行スルノ旨趣及ヒ其他ノ要件ヲ摘載シ大藏卿並ニ出納頭記錄頭ノ印ヲ鈐シ且大藏省並ニ銀行ノ記號番號ヲ押捺シテ紙幣頭之ヲ其銀行ヘ下付スヘシ而シテ銀行ニ於テハ之ニ其頭取支配人ノ名印ヲ加用スヘシ

銀行紙幣通用ノ能力

第四十八條　此條例ヲ遵奉シテ創立シタル國立銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣ハ諸官廳又ハ銀行、會社其他ヲ論セス日本全國何レノ地ニ於テモ租稅、運上、貸借ノ取引、俸給其他一切公私ノ取引ニ於テ都テ政府發行ノ貨幣同樣通用スヘシ

但シ公債證書ノ利息ト海關稅ニハ之ヲ用ウルヲ許サス

銀行紙幣引換ノ件

第四十九條　此條例ヲ遵奉シテ創立シタル銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣ヲ通貨ト引換ヘンコトヲ請求スルモノアルトキハ日本銀行ニ於テ之ヲ引換フヘシ（十六年第十四號布告ヲ以テ全條改正）

銀行紙幣ヲ拒ミタル者ニ於ケル處分ノ件

第五十條　此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣通用ノ際其授受ヲ拒ミ或ハ之ヲ妨ケ其他不正ノ所爲ヲナス者アルニ於テハ皆國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

損壞銀行紙幣引換并ニ燒捨ノ件

第五十一條　此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣通用中敗裂汚染等ニテ通用シ難キモノアルニ於テハ其所持人ハ銀行ニ持參シテ之ヲ引換フヘシ而シテ銀行ハ之ヲ紙幣頭ヘ差出シ其代リ銀行紙幣ヲ受取ルヘシ○尤右引換銀行紙幣ノ種類、記號、番號、金額等ハ之ヲ紙幣寮ノ公書及ヒ銀行ノ簿冊ニ詳明ニ記入シ其廢紙幣ハ大藏卿ヨリノ立會ヲ得テ紙幣頭ハ其主任ノ官員ヲシテ銀行役員ノ立會ヲ要シ之ヲ燒捨ニ付スヘシ而シテ其趣ハ尙ホ右簿冊ニ登記シ各記名調印スヘシ

但シ右燒捨ノ後ハ新開紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ其趣ヲ世上ニ公告スヘシ

第五章　銀行營業ノ本務、公債証書其他ノ賣買並ニ貸附金ノ制限、利息ノ制限、銀行紙幣並ニ株式抵當ノ制禁及ヒ預リ金準備等ノ事ヲ明カニス

銀行營業ノ本務

第五十二條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ金銀ヲ（引受貸シ抵當貸シノ別ナク）貸附ケ又ハ當座並ニ定期預リ金ヲ爲シ又ハ爲換ヲ取組ミ又ハ爲換手形、約束手形、代金取立手形其他ノ証書ヲ割引シ又ハ公債証書、外國貨幣並ニ金、銀、銅ノ地金ヲ賣買シ及ヒ保護預リ又ハ両替等ノ事ヲ以テ營業ノ本務トナスヘシ

公債證書ノ賣買ヲ專ラニスルヲ得サルノ件

第五十三條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ本務タルヤ前條ニ掲クル所ノ種類ナルヲ以テ公債證書ノ賣買ヲナスヲ得ルト雖モ貸附金、預リ金、爲換等ノ如キハ殊ニ銀行ノ主トシテ爲スヘキ營業ノ目的タルニヨリ此等ノ事業ヲ經營セスシテ唯公債証書ノ賣買ヲ專ラニスルヲ許サス

他ノ會社ノ株主トナル

第五十四條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ前第五十二條ニ掲クル所ノ營業本務ノ外地所家

ヲ得サル件及ヒ地所物件賣買ノ制限

屋其他物件ノ賣買ヲナスヘカラス又職工作業ノ功ヲ與シ及ヒ此等ノ功ヲ與ス會社ノ株主トナルヲ許サス尤左ニ掲載スル所ノ條件ニ付テハ地所又ハ家屋物件等ヲ賣買シ又ハ之ヲ引取リ又ハ之ヲ所持スル等ノ事ハ此條例ニ於テ之ヲ宥恕スヘシ但シ銀行所有ノ地所ハ勿論一般ノ地稅法ニ從フヘシ

第一　銀行ノ業ヲ營ムヘキ爲メ緊要ナル地所家屋ハ之ヲ買取リ之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

第二　滯貸金ノ抵當トシテ質物ニ取リタル地所物件ハ之ヲ引取リ之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

地所其他ノ物件賣拂ノ期限

第三　貸金返濟ノ約定日切トナリテ借主ヨリ返金ノ代リトシテ引渡サレタル地所物件ハ之ヲ引取リ之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

第四　銀行ヨリ貸金ノ抵當又ハ質物トナリシモノニシテ官廳ノ裁判ヲ經テ賣拂ヒトナリタルモノカ又ハ之ヲ引取リタルモノ又ハ右質入ノ流込ミトナリタルモノ又ハ銀行ヨリノ貸金ヲ返濟スル爲メニ賣物ニ出シタル地所物件ハ之ヲ買取リ之ヲ引取リ之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

貸付金ノ制限

第五十五條　前條ニ掲クル所ノ款項中銀行營業ノ爲メ緊要ナル地所家屋ヲ除クノ外銀行ニ於テ引取リ又ハ買取リタル地所物件ハ遲クモ十箇月以內ニ於テ之ヲ賣拂フヘシ

第五十六條　此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ貸附クル所ノ金額ノ制限ハ一口ニ付資本金總額ノ十分一ヲ限リトナスヘシ

貸附金利息ノ制限

第五十七條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ貸付金利息ハ政府ニ於テ定メタル一般ノ利息制限法ニ準據スヘシ若シ其限ニ超過スルモノアル時ハ大藏卿ハ其銀行ヲ督責シテ之ヲ其制限ノ割合ニ引直サシムヘシ（十一年第三十一號布告ヲ以テ全條改正）

銀行紙幣及ヒ株式ノ抵當幷ニ賣買ノ制禁

第五十八條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其銀行紙幣ヲ抵當又ハ質物トシテ借金ヲナスヘカラス又其銀行ノ株式ヲ抵當ニ取リテ貸付金ヲナスヘカラス又其株ノ買主トナリ又ハ其株主トナルヘカラス然レトモ貸付金ノ滯リニテ銀行ノ損失トナルヿアレハ止ムヲ得ス其株ヲ引當ニ取リ又ハ買取ルヿヲ得ヘシ尤其株ハ遲クモ六箇月以內ニ於テ之ヲ賣拂フヘシ

預リ金ノ準備

第五十九條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ諸方ヨリノ預リ金ヲ他ヘ運轉流用スルニハ須ラク之カ制限ヲ立テ其預リ金總額ノ內少クモ十分ノ二、五（即チ四分ノ一）ヲ引殘シ之ヲ返却ノ準備トシテ銀行ノ金庫中ニ積立置クヘシ尤內十分一ノ員額ハ政府ノ公債證書ヲ實價ヲ以テ積立ルヲ得ヘシ

但シ此準備金ハ銀行紙幣引換ノ準備金ト混同スヘカラス

發行紙幣準備金ノ制限ヲ超過スルノ件ニ於ケル

第六十條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其營業ノ爲メ銀行紙幣ヲ發行スルニハ此條例第二十條ニ規定シタル準備金ノ割合ヲ超過スヘカラス若シ此割合ヲ超過シテ發行スルトキハ紙幣頭ハ之ヲ督責シテ速カニ其準備金ヲ增加シ規定ノ割合ニ滿タシムヘキ旨ヲ命スヘシ若シ銀行ニ於テ此命ヲ受ケシ日ヨリ三十日ヲ過キテ尙ホ增加スルヿヲ怠ル些ハ紙幣頭ハ其銀行ノ開業免狀ヲ取上ケ跡引受人ヲ命スヘシ

準備金不足スルニ際シ株主等一時償辨スル負責

第六十一條　此條例ヲ遵奉スル銀行ニ於テ預リ金ノ返濟又ハ爲換手形約束手形等ノ仕拂ヲナスニ當リ兼テ積置キタル準備金ヲ以テ之ヲ償フコト能ハサルトキハ其銀行ノ株主等ハ各其所持ノ株數ニ應シ別ニ出金シテ一時之ヲ償辨スルノ責ニ任スヘシ但此出金ハ全ク一時償辨ノ爲メニシテ其株金ト異ナルヲ以テ其銀行ハ速カニ之レヲ各株主ヘ返辨スヘシ（十六年第十四號布告ヲ以テ全條改正）

銀行名號ノ掲牌及ヒ社印ノ書體

銀行名號ノ掲牌及ヒ社印ノ書體

第六章　銀行名號ノ掲牌、社印ノ書體並ニ諸手形ニ於ケル銀行ノ負責、所有物ノ明細帳及ヒ營業時間等ノ事ヲ明カニス

第六十二條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ讀易キ書體ヲ以テ其名號ヲ掲牌ニ記載シ之ヲ其銀行ノ店前最モ見易キ所ニ掲クヘシ而シテ其社印ノ彫刻ヨリ諸報告並ニ諸公告、諸証書、諸手形、諸切手ノ類ニ至ル迄凡ソ其名號ヲ用ヰル所ノ者ハ亦同シク讀易キ書體ヲ用ヰヘシ

第六十三條　此條例ヲ遵奉スル銀行若シ前條ノ如ク其社號ヲ掲ケサルトキハ銀行ハ其時間一日ニ付五圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納ムヘシ且其頭取取締役及ヒ支配人タルモノ知テ之ヲ爲サシメ或ハ故サラニ之ヲ見逃スニ於テハ是亦右同額ノ罰金ヲ納ムヘシ若シ又銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員又ハ何人ニテモ前條ノ如ク彫刻セサル社印ヲ用ヒ或ハ人ヲシテ之ヲ用ヰシメ又ハ前條ノ規定ニ悖リタル社號ヲ以テ報告書ヲ出シ或ハ之ヲ出サシメ又ハ爲換手形、約束手形、切手、證書、注文書、受取証書、受合狀等ニ至ル迄凡ソ其名號ヲ用ヰル者前條ノ規定ニ悖リテ記名調印シ又ハ記名調印セシム

銀行ノ名號ヲ用ヰタル諸手形ハ銀行其責ニ任スルノ件

所有物ノ明細帳及ヒ其取扱ヒ規定ニ戻リタルノ處分

營業ノ時間

ルトキハ拾圓ヨリ少ナカラス五拾圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納メシメ且右等爲換手形、約束手形、切手、注文書等ニ記載スル所ノ金額ヲ銀行ヨリ拂渡サヽルトキハ其規定ニ悖リタル役員等ハ自費ヲ以テ右持主ヘ辨償スルノ責ニ任スヘシ

第六十四條　此條例ヲ遵奉スル銀行其名號ヲ以テ爲換手形、約束手形ヲ振出シ又ハ之ヲ引受ケ又或ハ之ニ裏書シタルモノヽ如キハ假令ヒ右等ノ取扱ヒ何人ノ手ニ出ルトヽ雖モ此人苟モ其銀行ノ命任ヲ受ケタルモノニ相違ナキニ於テハ一切之ヲ其銀行ノ爲メニ取扱ヒシモノト見做スヘシ

第六十五條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其所有財產（動產、不動產ノ別ナク）ノ種類員數ハ勿論其授受賣買及ヒ質入書入委托其他ニ於ケル一切ノ事件ヲ記載セル簿冊ヲ製シ右等ノ擧アル毎トニ其事由並ニ其種類員數及ヒ質預リ人又ハ受托人等ヲ遺漏ナク記載シ其時々頭取取締役等之ニ檢印シ常ニ其銀行ニ備置キ以テ債主及ヒ株主等ノ檢閲ニ供スヘシ○若シ前段ノ記載ナクシテ銀行其所有財產ヲ質入書入シ又ハ之ヲ委托スル等ノ事アルニ當テ其銀行ノ頭取取締役支配人等知テ之ヲ捨置キ又ハ故サラニ之ヲ見逃スニ於テハ右役員ハ五拾圓ヲ踰エサル罰金ヲ納ムヘシ

但シ右所有財產ノ簿冊ハ卽チ其事件ノ正確ナル証據トシテ何レノ裁判所何レノ官廳ニ於テモ採用セラルヽヲ得ヘシ

第六十六條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ營業時間ハ其本店支店共定式（又ハ臨時）休暇日ヲ除クノ外毎日午前第九時ヨリ午後第三時マテタルヘシ尤銀行ノ都合ニヨリ紙幣頭

ノ承認ヲ得ルニ於テハ其營業時間ヲ變更スルヲ得ヘシ而シテ其趣ハ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ之ヲ世上ニ公告スヘシ

但シ爲換並ニ預リ金等ノ仕拂期日若シ定式(又ハ臨時)休暇日ニ當ルモノハ其翌日之ヲ仕拂フヘシ

第七章　株主總會ノ定規並ニ格段決議ノ順序、諸簿冊ノ點檢及ヒ檢査ノ手續、諸報告差出方等ノ事ヲ明カニス

總會ノ定規

第六十七條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ總會ハ毎年少クトモ兩度宛之ヲ執行スヘシ尤モ臨時ノ事件ヲ評決センカ爲メ執行スル所ノ臨時總會ハ此限ニアラス

格段決議ヲ以テ定款ヲ更正スルノ件

第六十八條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ社中ノ總會ニ於テ次條ニ掲載セル方法ヲ以テ執行セシ格段決議ニ於テハ其銀行定款中ニ記載シタル事件箇條ヲ變更訂正スルヿヲ得ヘシ

格段決議ノ體裁

第六十九條　凡ソ社中評決スヘキ事件アリテ其議按ヲ出シ其銀行株主臨席ノ總員(本人代人ヲ論セス)四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ一旦其大體ヲ決定シ隨テ其旨趣ヲ詳述シテ之カ報告ヲナシ後チ十四日以外一箇月以内ノ時日ニ於テ更ニ執行スル所ノ總會ニ於テ其臨席シタル株主總員ノ同意セル發言投票ノ多數ヲ以テ其事件ヲ確定スル者之ヲ格段決議ト稱スヘシ

格段決議ニ於ケル承認ノ件

第七十條　凡ソ格段決議ニ於テ確定シタル事件ハ其旨趣頭末ヲ記載シタル書附ヲ刊行シ又ハ謄寫シテ右確定ノ日ヨリ日數十五日(郵便遞送日數ヲ除ク)ノ内ニ之ヲ紙幣頭ヘ差出シテ其承認ヲ受クヘシ○若シ銀行前段ノ書附ヲ右期日内ニ差出スヿヲ怠ルニ於テハ右ノ日數以後(即チ十六日目ヨリ)ハ怠慢時間一日ニ付拾圓ヲ越エサル罰金ヲ納ムヘシ且頭取取締役等故サラニ之ヲナサシメ又ハ知テ之ヲ見逃セシトキハ是亦右同額ノ罰金ヲ納ムヘシ

格段決議ニ於テ確定シタル箇條ノ寫ヲ分賦スルノ件

第七十一條　凡ソ格段決議ニ於テ確定シタル事件ニシテ(此條例第四條六條ニ準據シ)現ニ之ヲ施行スルモノハ右ノ事件ヲ正シク記載シタル寫ヲ各株主ヘ分賦スヘシ○若シ銀行此箇條ヲ遵守セスシテ詐僞ヲ記載スルカ又ハ寫ヲ分賦セサルニ於テハ右寫一通ニ付五圓ヲ越エサル罰金ヲ納ムヘシ且頭取取締役等故サラニ之ヲ爲サシメ又ハ知テ之ヲ見逃セシトキハ是亦右同額ノ罰金ヲ納ムヘシ

諸簿冊ノ點檢

第七十二條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主タル者ハ其銀行ノ營業時間中ナレハ何時ニテモ其銀行實際記入スル所ノ諸簿冊及ヒ報告計表ヲ點檢スルヲ得ヘシ○若シ銀行此箇條ヲ遵守セスメ株主ノ點檢ヲ拒ムトキハ五圓ニ越エサル罰金ヲ納ムヘシ且頭取取締役支配人等故サラニ之ヲナスカ又ハ知テ之ヲ見逃セシ時ハ右同額ノ罰金ヲ納ムヘシ

銀行ノ檢査

第七十三條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ營業實際ヲ詳知監督スル爲メ紙幣頭ハ大藏卿ヘノ稟議ヲ經テ定例臨時ノ別ナク官員ヲ命遣シ銀行一切ノ業體ヲ檢査セシムヘシ

但シ紙幣頭ハ時宜ニヨリ大藏卿ヘノ稟議ヲ經テ其銀行管轄地方官ニ依托シ其銀行實際ノ營業ヲ(定例臨時ノ別ナク)檢査セシムルヿアルヘシ尤右檢査ニ從事シタル地方官ハ其檢査シタル旨趣ヲ詳記シ速カニ之ヲ紙幣頭ヘ報知スヘシ

檢査官ノ規定

第七十四條　右檢査ノ官員ハ各銀行ノ本店又ハ支店トモ其營業時間中ナレハ何時ニテモ其用所ニ至リ詳密ニ其諸簿冊計表其他銀行一般ノ業體ヲ檢査シ其銀行役員ノ處務按ノ旨趣ヲ書面ニ詳記シ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ

株主ノ請願ニヨリ銀行ヲ檢査スル件

第七十五條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ總株五分一以上ヲ所持スル株主等ヨリノ請願アルニ於テハ紙幣頭ハ官員ヲ命遣シ或ハ其管轄地方官ヘ委托シテ其銀行一切ノ業體ヲ檢査セシムルヿアルヘシ但シ其檢査ノ實況ト考按ノ旨趣ハ之ヲ書面ニ認メ紙幣頭ヘ差出スヘシ而シテ紙幣頭ハ其寫ヲ其銀行ノ本店並ニ此檢査ヲ請願セシ株主等ヘ下附スヘシ

銀行檢査ノ制限

第七十六條　此條例ヲ遵奉スル銀行此條例第七十三條七十五條ニ規定スル所ノ檢査官員ノ檢査ヲ除クノ外他ノ檢査ハ一切之ヲ受ケサルヘシ尤諸官廳ノ職掌上ニ於テ國法ヲ以テ檢査スルカ如キハ此限ニアラス

定例報告書幷ニ計表ノ件

第七十七條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ半季及ヒ毎月其事務計算等ノ實際詳明ナル考課狀並ニ報告計表（成規第六十六條ニ規定スル所ノ種類）ヲ製シ本店ハ頭取支配人支店ハ支配人並ニ計算方之ニ記名調印シテ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ尤其書式ハ紙幣頭ノ指圖ニ從フヘシ

但シ右半季報告計表ハ銀行ヨリ新開紙其他ノ手續ヲ以テ之ヲ世上ニ公告スヘシ

臨時ノ報告幷ニ報告遲

第七十八條　右定例報告計表ノ外紙幣頭尚ホ要用ト思考スルヿアレハ銀行ニ命シテ臨時ノ報告計表ヲ差出サシムルヿアルヘシ○若シ銀行ノ頭取取締役支配人等右定例或ハ臨時ノ報告ヲ怠リ紙幣頭ノ命スル日ヨリ（郵便遞送日數ヲ除ク）十日以內ニ差出サヽルトキハ十日以外（即チ十一日目ヨリ）一日ニ付五拾圓ヨリ少ナカラス百圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納ムヘシ

出方ヲ怠慢スルニ於ケル罰金分

第八章　利益金分配ノ方法ヲ明カニス（同上改正）

利益金分配ノ方法幷ニ滯貸金ノ件

第七十九條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役等ハ毎半季其銀行ノ總勘定ヲナシ其總益金ノ內ヨリ諸雜費並ニ損失補償ノ金額及ヒ滯貸金ノ準備ヲ引去リ其餘ヲ以テ純益金トナシ之ヲ總株主ヘ分配スヘシ尤右利益ノ計算ハ株主ニ分配セサル前十日以內ニ（郵便遞送日數ヲ除ク）大藏卿ヘ差出シ其承認ヲ得テ後之ヲ株主一同ヘ通知シ且新聞紙ヲ以テ世上ニ公告シ而シテ之ヲ株主一同ヘ分配スヘシ（同上全條但書共改正）

但慥カナル抵當物或ハ確實ナル引受人アル貸附金ヲ除クノ外其返濟期限ヲ過クルコト六ケ月以上ニ及フモノハ都テ之ヲ滯貸金ト看做スヘシ

積金割合ノ規定

第八十條（同上削除）

第九章　銀行ハ官廳ノ爲換方ニ從事スルヿ及ヒ外國銀行ト聯合スヘカラサル事ヲ明カニス

銀行ハ大藏省其他ノ爲換方ヲ勤ムルノ件

第八十一條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其通常營業事務ノ外大藏卿ノ命令ニ依リ大藏省又ハ各地方官廳其他ノ爲換方ヲ勤ムルヿヲ得ヘシ尤其勤方ノ手續ハ爾時大藏卿ノ考按ニヨリ其筋ヨリ命スル所ノ規定ヲ奉シテ以テ之ニ從事スヘシ

銀行ハ外國銀行ト聯合スルヲ得サルノ件

第八十二條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ大藏卿ノ命令ヲ奉スルカ或ハ其免許ヲ得ルカニ非レハ內外地ニ設置スル所ノ外國ノ銀行ハ勿論本邦ノ銀行(又ハ交換所等)ト雖モ凡ソ海外ニアルモノト相共ニ聯合シ以テ爲換ヲ取組又ハ其他ノ營業ニ從事スルヿヲ得サルヘシ

銀行役員此條例ニ背戻スルヲ處分スルノ件

第十章　銀行役員職務上一般ノ制禁及ヒ其負責ノ事ヲ明カニス

第八十三條　國立銀行ノ役員タル者諸相場ニ關シ投機ノ商業ニ從事危險ナリト認ムルトキハ大藏卿ハ銀行ニ命シ其役員ヲ退職セシムルヿアルヘシ同上全條改正

此條例ニ背戻スル銀行役員ノ負責

第八十四條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役等若シ此條例ニ背戻スルヿアリテ夫レカ爲メ株主又ハ其他ノ人ヘ損失ヲ受ケシムル片ハ其損失ハ頭取取締役等之ヲ償辨スルノ責ニ任スヘシ

銀行役員ノ制禁

第八十五條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員タル者ハ銀行所有ノ金銀及ヒ諸証書預リ品等ヲ私用シ又ハ竊掠シ又ハ之ヲ妄用スヘカラス又頭取取締役ノ承認ヲ得スシテ銀行紙幣及ヒ預リ証書ヲ發行シ又ハ諸貸附ヲナシ爲換手形ヲ振出シ又ハ証書及ヒ切手ノ引受ケヲナシ約束手形、爲換手形、諸証書、質物及ヒ公裁ニテ引取リタルモノヲ賣渡スヘカラス又銀行ノ諸簿冊、計表、報告書其他ノ要書ニ詐僞ヲ記載スヘカラス○若右ノ箇條ヲ犯シテ其銀行又ハ他ノ銀行、會社其他ノ者ヲ損害欺騙シ又ハ其銀行ノ役員或ハ檢査官員ヲ欺カント謀ル者ハ皆ナ國法ニ從ヒテ之ヲ罰スヘシ

銀行役員其銀行ヨリ借得ヘキ金額ノ制限

第八十六條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員ハ社中申合規則ノ規定ニ從ヒ尋常借リ得ヘキ金額ノ外ハ自身又ハ仲人等ヲ以テ一切銀行ヨリ借受クヘカラス又其銀行ヨリ借財ヲナス者ノ爲メ其證人又ハ受人トナルヘカラス○若シ右等ノ役員右ノ規定ニ背戻シテ借財ヲナシ又ハ證人受人トナリ又ハ人ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ之ヲ承諾スル等ノ事アル片ハ此等ノ役員ハ拾圓ヨリ少ナカラス五拾圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納ムヘシ且其借財ノ金額ハ其規定ニ背戻セシ者ヨリ速カニ銀行ヘ返濟スヘシ

銀行ノ名ヲ假リ自用ヲ辯スヘカラサルノ件

第八十七條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員タル者ハ其銀行ノ名ヲ假リ以テ自己ノ利益ヲ謀ルハ勿論總テ私用ヲ辨スヘカラス若シ此等ノ役員之ヲ犯シ又ハ人ヲシテ犯サシメ又ハ知テ之ヲ見逃ス者ハ皆ナ國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

紙幣及ヒ諸手形類發行ノ禁止

第十一章　紙幣及ヒ諸手形類ノ發行並ニ銀行紙幣ノ贋造描改及ヒ其版板彫刻等禁止ノ事ヲ明カニス

第八十八條　此條例ヲ遵奉シテ創立シタル國立銀行ヲ除クノ外何人又ハ何會社ヲ論セス凡テ紙幣又ハ望次第持參人ヘ仕拂フヘキ約束手形又ハ右類似ノ証書其他政府發行ノ貨幣同樣ニ通用スヘキ諸手形又ハ切手ヲ振出シ其引受ヲナシ之ヲ製シ之ヲ發行スルヲ禁ス若シ此等ノ數件ヲ犯ス者アルニ於テハ何人ヲ論セス皆ナ國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

銀行紙幣贋造及ヒ描改ノ禁止

第八十九條　此條例ヲ遵奉スル國立銀行ヨリ發行スル銀行紙幣ハ何人ヲ論セス之ヲ贋造スヘカラス贋造セシムヘカラス贋造スルヲ助ケ又ハ之ヲ勸ムヘカラス贋造ト知リテ之ヲ通用スヘカラス又ハ之ヲ通用セシムヘカラス又其文字畫圖ヲ描改スヘカラス描改セシムヘカラス描改スルヲ助ケ又ハ之ヲ勸ムヘカラス描改セシ紙幣ト知リテ之ヲ通用スヘカラス又ハ之ヲ通用セシムヘカラス

銀行紙幣版及ヒ紙幣ノ彫刻品製造等ノ禁止

第九十條　右銀行紙幣ヲ印刷スルニ用ウル所ノ版板又ハ之ニ類似スル者ハ之ヲ私ニ彫刻スヘカラス又ハ私ニ彫刻ヲ命スヘカラス又右銀行紙幣ニ用ウル所ノ紙品又ハ之ニ類似スル紙品ハ之ヲ私ニ製スヘカラス又ハ人ヲシテ之ヲ製セシムヘカラス又ハ之ヲ私ニ所持スヘカラス若シ前第八十九條及ヒ本條ノ數件ヲ犯ス者アルニ於テハ皆ナ國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

銀行紙幣及ヒ證書類ノ手形ヲ傷損スルノ禁止

第九十一條　此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行シタル銀行紙幣又ハ爲換手形、約束手形其他證書ノ類ハ何人ニ限ラス之ヲ切拔キ又ハ切裂キ又ハ剝去リ又ハ塗抹シ又ハ孔ヲ穿チ又ハ糊付ニスル等ノ一ヲナスヘカラス又人ヲシテ此等ノ事ヲナサシムヘカラス若シ此等ノ數件ヲ犯ス者アルトキハ其裁判所(又ハ府縣ノ聽斷主任官員)ニ於テ之ヲ裁判シ其金高十倍ノ償金ヲ銀行ヘ拂ハシムヘシ

第十二章　官命鎖店ノ場合特例監督役跡引受人等ノ取扱方並ニ公債證書ノ沒入及ヒ紙幣引換等ノ手續ヲ明カニス(同上改正)

第九十二條(同上削除)

第九十三條　國立銀行ニ於テ左ニ掲クル事實アルトキハ大藏卿ハ鎖店ヲ命スルコトアルヘシ

第一　國立銀行條例ノ旨趣又ハ箇條ニ背戻シ大藏卿其銀行ヲ鎖店セシムルヲ相當ナリト思考スルトキ(同上全條改正)

第二　國立銀行ニ於テ負債辨償ノ義務ヲ盡ス能ハサル證據アルトキ

第三　國立銀行ニ於テ其資本金總額十分ノ五以上ノ損失ヲ生スルトキ

第九十四條　前條ニ記載スル事實アリト認ムルトキハ大藏卿ハ檢査ノ官員ヲ派遣シ其事實ヲ推糺セシメ若シ相違ナキニ於テハ都テ其銀行ノ營業ヲ差止メ金銀其他ノ出納ヲ禁スベシ(同上)

第九十五條　前條ノ如ク營業ヲ差止メラレタル銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員ハ諸手形、諸證書類又ハ抵當物、地所等ヲ他人ヘ讓リ渡シ又ハ賣渡スヘカラス又他人ヨリ金銀其他ノ物件ヲ預ルヘカラズ若シ頭取取締役支配人其他ノ役員等此箇條ニ背キ或ハ讓リ渡シ又ハ賣渡シ又ハ預リ又ハ拂方ノ引受ヲナスアルニ於テハ紙幣頭ハ督促シテ其金額ヲ償ハシメ之ヲ其元ニ復セシムヘシ

第九十六條　紙幣頭ハ更ニ大藏卿ヘ稟議シ特例ノ監督役ヲ命遣シ其銀行ノ實際諸般ノ取扱ヲ推究シテ其事實ヲ詳明ニ報知セシムヘシ而シテ其背戻ノ事實相違ナキニ於テハ紙幣頭ハ其銀行ヨリ出納寮ニ預ケ置キタル公債證書ヲ沒入スヘキ旨ヲ(右報知ヲ得タル日ヨリ三十日以內ニ)申渡シ其公債證書ヲ取上クヘシ

營業停止ノ後發賣ノ禁止

特例監督役ヲ命遣シ及ヒ公債證書ヲ沒入スルノ件

銀行鎖店ニ付其紙幣官府ニ於テ引換ノ件

第九十七條　右諸般ノ手續了リシ後チ紙幣頭ハ大藏卿ヘノ稟議ヲ經テ凡ソ此銀行ノ紙幣ヲ所持スル者ハ都テ之ヲ大藏省ニ出シテ其引換ヲ乞フヘキ旨ヲ公告シ相當ノ時日ヲ以テ之ヲ引換遣ハスヘシ而シテ其引換タル紙幣ハ總テ此條例第五十一條ノ手續ニ從ヒ之ヲ燒捨テ其趣ヲ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ世上ニ公告スヘシ

沒入公債證書賣却ノ件

第九十八條　此條例第九十六條ニ據リ其銀行ヨリ沒入シタル公債證書ハ大藏省ノ便宜ニ從ヒ之ヲ公賣若クハ私賣シ以テ其銀行ノ發行紙幣引換ノ資ニ充ルモノトス但右公債證書ノ賣却代價紙幣下付高ニ對シ不足アル片ハ大藏卿ハ他ノ債主ニ先チ之ヲ其銀行ノ資産ヨリ徵收シ若シ下付高ニ對シ過剩アル片ハ之ヲ其銀行ニ下付スヘシ（同上）

幹例監督役ノ報知ヲ得テ跡引受人ヲ命スルノ件

第九十九條　此條例第九十六條ニ掲クル所ノ特例監督役ノ報知ヲ得之カ處分ヲナスニ於テハ紙幣頭ハ即チ右銀行ノ跡引受人ヲ命シ其銀行ノ諸簿冊及ヒ各種ノ資産等ヲ取押ヘ諸貸付金、立替金ヲ取立タル上ニテ其裁判所（又ハ府縣ノ聽斷主任官員）ニ謀リテ滯リ貸金類及ヒ銀行ノ所有物ヲ賣拂ヒ其集合金ヲ以テ其銀行ノ諸借財又ハ預リ金其外ヲ償却シ過金アレハ株高ニ應シテ之ヲ株主ヘ割返シ不足アレハ都テ銀行ノ株高及ヒ其所有物ヲ限リテ相當ノ分散ヲナサシムヘシ

銀行ノ借財償却處分ノ件

第百條　右借財又ハ預リ金等ヲ償却スルニハ紙幣頭ヨリ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ三箇月間世上ニ公告シ其銀行ニ貸金預ケ金等アル者ハ右期限中ニ申出テシメ其事由ト證書類トヲ檢按シ紙幣頭ハ厚ク之ニ注意シ適正ノ處分ヲ以テ貸方ニ賦當償却スヘシ

銀行鎖店ニ付株主負責

第百一條　此條例ヲ遵奉スル國立銀行ノ株主等ハ假令其銀行ニ損失又ハ其他ノ事故アリテ其銀行鎖店分散スルヿアル𪜈其株主等ハ其創立証書ニ於テ掲載シタル株式金額ノミヲ損失スルノ外其鎖店分散ニ付テ別ニ賦當出金ヲ受クルノ責メ勿カルヘシ

鎖店處分宥恕ノ件

第百二條　紙幣頭ハ此條例第九十六條ニ掲クル所ノ處分ヲナスニ際シ其銀行ヨリ尙ホ請願スルヿアリテ其狀實ヲ具陳スル時ハ監督役ヲ出セシ日ヨリ三十日以內（郵便遞送日數ヲ除ク）ナラハ其地方官廳ニ謀リ更ニ其實況ヲ詳悉シテ全ク其背戻セサルノ實證アルニ於テハ紙幣頭ハ之ヲ大藏卿ヘ稟議シ而シテ之ヲ宥恕スヘシ尤右ノ請願書ハ必ス其地方官廳ヲ經テ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ

但シ此宥恕ヲナス時ハ紙幣頭ハ速カニ其趣ヲ出張ノ監督役ニ達シテ暫ラク其處置ニ取掛ルヿヲ見合セシムヘシ

銀行紙幣ノ引換ヲ拒ミタル片其處分ニ於ケル賠償ノ件

第百三條　此條例ヲ遵奉スル銀行鎖店ノ場合ニ於テ跡引受人ノ入質等ハ總テ相當ノ處分ヲ以テ大藏卿之ヲ取極メ他ノ債主ニ先チ其銀行ノ資産ヨリ之ヲ辨償セシムヘシ（同上）

第十三章　銀行平穩鎖店ノ手續及其紙幣引換方等ノ事ヲ明カニス

平穩鎖店ノ件

第百四條　此條例ヲ遵奉スル銀行三分二以上ノ株主等ノ協議ニ從テ平穩ニ分散又ハ鎖店セントスルニハ其銀行ノ頭取支配人ヨリ其銀行ノ名印ヲ以テ其決議ノ旨趣ヲ紙幣頭ニ申牒シ其承認ヲ得テ後チ三箇月間新聞紙其他ノ手續ヲ以テ世上ニ公告シ發行紙幣ノ引換方其他銀行ニ屬スル取引ノ清算ヲ詳載シタル報告ヲ製シテ之ヲ世上ニ公告スヘシ

公債證書ノ下戻及ヒ銀

第百五條　右ノ公告ヲナシタル日ヨリ其銀行ハ其引換ヘタル銀行紙幣ヲ以テ豫テ出納

行紙幣流通ノ殘額ヲ處分スルノ件

察ニ預ケ置キタル公債証書ノ内ヲ取戻スヿヲ得ヘシ尤其公告ノ日ヨリ半箇年ヲ過キ其銀行ノ簿冊上ニ於テ尚ホ世上ニ殘在スル銀行紙幣アルニ於テハ其員額丈ケノ通貨ヲ出納頭ニ差出シ右預ケ置キタル公債證書ノ全額ヲ取戻スヿヲ得ヘシ然ル上ハ其銀行紙幣ノ世上ニ殘在スル分ハ大藏省ニ於テ之ヲ引換ヘ銀行ノ株主等ハ一切其引換ノ責ニ任セサルヘシ

殘在銀行紙幣引換ノタメ通貨ヲ領受ノ件

第百六條　右鎖店シタル銀行ヨリ其殘在銀行紙幣引換ノタメ通貨ヲ差出スニ於テハ出納頭ハ之ヲ領受シ其趣ヲ詳記シタル受取證書ヲ製シ之ヲ其銀行ヘ下付スヘシ

但シ出納頭ハ右受取証書ノ外ニ預リ證書ヲ製シテ之ヲ紙幣頭ヘ回附シ置キ其殘在銀行紙幣引換ノ爲メ右通貨ノ受取方ヲ要スルニ於テハ何時ニテモ之ヲ紙幣頭ヘ渡スヘシ

殘在銀行紙幣引換ノ件

第百七條　右預リ證書ヲ領受スルニ於テハ紙幣頭ハ大藏卿ノ稟議ヲ經テ相當ノ期限ヲ定メ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ之ヲ世上ニ公告シ其殘在銀行紙幣ノ引換方ニ從事スヘシ

引換銀行紙幣燒捨ノ件

第百八條　右ノ手續ヲ以テ引換タル銀行紙幣ハ此條例第五十一條ノ規定ニ從テ之ヲ燒捨シ其趣ヲ世上ニ公告スヘシ尤右ニ屬スル諸計算其外トモ紙幣頭國債頭出納頭ハ各其簿冊ニ詳記シ置クヘシ

訴訟ノ取扱ハ一般ノ方

第十四章　銀行訴訟ノ取扱及ヒ罰金處分ノ事ヲ明カニス

第百九條　此條例ヲ遵奉シテ創立シタル銀行若シ他ノ會社又ハ一般ノ人民ヲ相手取リ訴訟スルカ又ハ他ヨリ此銀行ヲ相手取リ訴訟セラルヽカノキハ都テ一般ノ訴訟法ニ從ヒ其裁判所(又ハ府縣ノ聽斷主任官員)之ヲ裁判處分スヘシ

罰金處分ノ件

第百十條　此條例ニ於テ規定セル罰金ヲ以テ處置スヘキ罪科ニ付テハ裁判所(又ハ府縣ノ聽斷主任官員)之ヲ裁判處分スヘシ但シ此條例中現ニ罰金ノ明文無キ箇條ヲ犯スヿアルキハ其時ニ當リ其裁判所(又ハ府縣ノ聽斷主任官員)ニ於テ相當ト思考スル罰金(三圓ヨリ少ナカラス五拾圓ヨリ多カラサル額數)ヲ右犯罪ノ銀行又ハ頭取取締役其他ノ役員ニ命スヘシ

第十五章　銀行納稅ノ事ヲ明カニス

銀行納稅ノ件

第百十一條　此條例ヲ遵奉シテ創立シタル銀行ハ追テ政府ニ於テ制定施行スル所ノ收稅規則ニ遵ヒ相當ノ稅金ヲ納ムヘシ

第十六章　銀行紙幣消却ノ方法ヲ明カニス（十六年第十四號布告ヲ以テ追加ス）

第百十二條　此條例ヲ遵奉スル國立銀行ヨリ發行シタル紙幣ハ左ニ掲クル方法ヲ以テ其營業年限内ニ悉皆消却スヘキモノトス但其取扱手續ハ大藏卿之ヲ定メ日本銀行ヲシテ之ニ從事セシムヘシ(同上)

一　各國立銀行ノ紙幣引換準備金ハ大藏卿ノ指定スル期限迄ニ日本銀行ニ納付シ營業年限内之ヲ定期預ケトナシ以テ紙幣消却ノ元資ニ充ツヘシ

一　各國立銀行ハ毎半季利益金ノ多少ニ拘ラス其銀行紙幣下付高ニ對シ年二分五厘（即チ半一季分二厘五毛）ニ當ル金額ヲ引去リ之ヲ日本銀行ニ預ケテ紙幣消却等ノ資ニ充ツヘシ

一　日本銀行ハ前二項ニ掲クル金額ヲ預リ各國立銀行ト別段ノ約定ヲ結ヒ之カ發行紙幣ヲ消却シテ大藏省ニ上納スルモノトス但其約定書ハ大藏卿ニ呈シテ之カ與書証印ヲ受クヘシ

一　日本銀行ヨリ右消却紙幣ヲ上納シタルトキハ大藏省ニ於テ此條例第五十一條ノ手續ニ從ヒ之ヲ燒捨テ其都度之ヲ公告スヘシ

一　日本銀行ヨリ右消却紙幣ヲ大藏省ニ上納シタルトキハ豫テ出納局ニ差出シ置キタル紙幣抵當公債証書ノ内右消却高ニ相當スル員額ヲ大藏省ヨリ直チニ其銀行ニ還付スヘシ

第十七章　條例ノ更正及ヒ廢止ノ事ヲ明カニス（十六年第十四號布告ヲ以テ十六章ヲ十七章ト改ム）

第百十三條　此國立銀行條例ハ政府ノ都合ニ依リ要用ノ事アレハ何時ニテモ之ヲ增補シ又ハ之ヲ更正シ又或ハ之ヲ廢止スルヿアルヘシ若シ右增補其他ノ節ハ直チニ其由ヲ世上ニ公告スヘシ（十六年第十四號布告ヲ以テ第百十二條ヲ第百十三條ト改ム）

○國立銀行稅額（明治十一年九月二十八日第貳拾九號布告）

明治九年（八月）第百六號布告國立銀行條例第十五章稅額ノ儀ハ銀行紙幣下付高ノ千分ノ七ト相定メ本年七月ヨリ年々徵收候條此旨布告候事

但納期ノ儀ハ一ヶ年兩度ニ割合前半年分ハ七月三十一日限リ後半年分ハ一月三十一日限リ其管轄廳ヘ可相納事

○鎖店銀行貸金其他ノ證書中跡引受人裏書繼書式及其濟方處分ヲ定ム（十八年十二月四日大藏省第四十號告示）

鎖店國立銀行ノ貸金其他ノ證書中跡引受人ヲシテ左ノ書式ノ裏書又ハ繼書ヲナシ處分爲致候モノハ爾後裏書又ハ繼書ノ記名主之カ債主タルヘシ依テ右證書ニ對スル負債ハ該負債者ヨリ右記名主ニ向ヒ濟方可致者トス　右告示候事

（裏書又ハ繼書書式）但朱書

裏書（繼書ナレハ裏書ノ二字ヲ本文ノ二字ニ改ム）第何國立銀行明治何年何月何日鎖店被申付候ニ付右處分ノ爲メ本證書ハ何府縣何郡何區何町村番地何ノ誰ヘ相渡候條明治十七年十二月大藏省第四拾號告示ニ據リ右何ノ誰ヘ負債濟方可被致候事

年　月　日

第何國立銀行跡引受人

姓　名　印

姓　名　印

○横濱正金銀行條例（二十年七月七日布告勅令第二十九號）

朕横濱正金銀行條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御　名　御　璽

明治二十年七月六日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

大藏大臣伯爵松方正義

勅令第二十九號

横濱正金銀行條例

第一條　横濱正金銀行ハ有限責任ニシテ其負債ニ對シテ株主ノ負擔スヘキ義務ハ株金ニ止マルモノトス

第二條　横濱正金銀行ハ本店ヲ横濱ニ設置ス又内外國ニ於テ貿易上要用ナル地ニ支店又ハ出張所ヲ設置シ又他ノ銀行ト「コルレスポンデンス」ヲ締約スルコトヲ得但支店出張所ヲ設置若クハ廢止シ又ハ外國銀行ト「コルレスポンデンス」ヲ締約若クハ解約スルトキハ其事由ヲ大藏大臣ニ具狀シテ許可ヲ受クヘシ

第三條　横濱正金銀行ノ營業年限ハ開業ノ日卽チ明治十三年二月二十八日ヨリ滿二十箇年トス但株主總會ノ決議ニ依リ營業ノ延期ヲ請願スルコトヲ得

第四條　横濱正金銀行ノ資本金ハ六百萬圓ト定メ之ヲ六萬株ニ分チ一株ヲ百圓トス但株主總會ノ決議ニ依リ資本金ノ增減ヲ請願スルコトヲ得

第五條　横濱正金銀行ノ株式ハ日本人ノ外賣買讓與スルコトヲ許サス

第六條　横濱正金銀行ノ株券ハ記名券ニシテ定款ニ從ヒ賣買讓與スルコトヲ得

第七條　横濱正金銀行ノ營業ハ左ノ如シ

第一　外國ノ爲替及荷爲替　　第二　内國ノ爲替及荷爲替

第三　貸付　　第四　諸預金及保護預

第五　爲替手形約束手形其他諸證券ノ割引又ハ其代金取立

第六　貨幣ノ交換

第八條　横濱正金銀行ハ營業ノ都合ニ依リ公債證書地金銀又ハ外國貨幣ヲ買入レ又ハ賣拂フコトヲ得

第九條　横濱正金銀行ハ政府ノ命令ニ依リ外國ニ關スル公債及官金ノ取扱ヲ爲スコトアルヘシ

第十條　横濱正金銀行ハ第七條第八條及第九條ニ記載スル事業ノ外他ノ營業ヲ爲スコトヲ許サス

第十一條　横濱正金銀行ハ左ノ場合ヲ除クノ外不動産株券其他ノ物件ヲ買取リ又ハ引受クルコトヲ得ス

第一　銀行營業ノ爲メ地所家屋ノ必要アルトキ

第二　貸金返濟ノ爲メ負債者ヨリ之ヲ引渡シ又ハ賣却スルトキ

第三　貸金ノ抵當ニシテ裁判上公賣ニ付シタルトキ

第十二條　横濱正金銀行ハ本行ノ株券ヲ抵當ニ取リ又ハ之ヲ買戻スヘカラス但負債者其辨償ヲ怠リテ他ニ相當ノ抵當ナク若クハ返濟ノ道ナキ場合ニ於テ之ヲ抵當ニ取リ又ハ引受クルハ此限ニ在ラス

第十三條　第十一條第二項第三項及第十二條ノ場合ニ於テ不動産株券其他ノ物件ヲ引受ケシトキハ必ス十箇月以内ニ之ヲ賣却スヘシ但賣却代價不相當ト認メタルトキハ其事實ヲ大藏大臣ニ具申シ延期ヲ請フコトヲ得

第十四條　横濱正金銀行ハ權利者ノ請求次第ニ支拂フヘキ諸預金ニ對シ其四分ノ一以

上ニ當ル準備金ヲ備ヘ置クヘシ

第十五條　横濱正金銀行取締役ハ五人以上トシ株主總會ニ於テ其人員ヲ定メ五十株以上ヲ所有スル株主中ニ就キ之ヲ撰擧シ其任期ヲ一年トス但滿期ニ當リ復撰スルモ妨ナキモノトス

第十六條　頭取ハ取締役ニ於テ之ヲ互撰シ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ但大藏大臣ニ於テ必要ト思考スルトキハ特ニ日本銀行副總裁ヲシテ横濱正金銀行頭取ヲ兼子シメ又ハ横濱正金銀行頭取ヲシテ日本銀行理事ヲ兼子シムルコトアルヘシ

銀行事務ノ都合ニ依リ取締役ニ於テ副頭取一人ヲ互撰スルコトヲ得但其職權ハ頭取事故アルトキ之ヲ代理スルニ止マルモノトス

頭取取締役ノ職權及責任ハ定款ヲ以テ定ムヘシ

第十七條　横濱正金銀行ハ毎年二回定式株主總會ヲ開キ定款ニ定メタル事項ヲ決定スヘシ又臨時ノ事件ヲ議スル爲メ何時ニテモ臨時總會ヲ開クコトヲ得

株主總會ニ出席スル者ハ會期六十日以前ヨリ株主タル者ニ限ルヘシ

第十八條　毎半季利益金ヲ配當スルトキハ豫メ其割合ヲ大藏大臣ニ具申シテ認可ヲ受クヘシ

第十九條　毎半季純益金總額ノ十分ノ一以上ヲ積立テ左ノ目的ニ供スヘシ

第一　資本金ノ損失ヲ補フコト　　第二　配當金ノ不足ヲ補フコト

第二十條　貸金返濟ノ期限ヲ過キ到底損失ニ歸スヘキモノト認ムルトキハ其損失ト見積リタル金額ニ對シテ準備金ヲ積立ツヘシ

第二十一條　横濱正金銀行營業上ニ於テ損失ヲ生シ資本金ノ半額以上ヲ減少シタルトキ又ハ此條例ニ背戻シタル所爲アリテ大藏大臣ニ於テ必要ト思考スルトキハ其營業ヲ停止シ又ハ解散ヲ命スルコトヲ得

又株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ許可ヲ受クルニ於テハ任意ノ解散ヲ爲スコトヲ得但此總會ニ於テハ株主總員二分ノ一以上ニシテ總株金二分ノ一以上ニ當ル株主出席シ其議決權ノ三分ノ二以上ニ依テ決議スルモノトス

第二十二條　横濱正金銀行ニ於テ條例定款ニ背戻スル所爲アルトキ又ハ大藏大臣ニ於テ不利ナリト認ムル事件アルトキハ大藏大臣之ヲ制止スルコトヲ得

第二十三條　大藏大臣ハ時々官吏ヲ派遣シテ横濱正金銀行ノ業務及財産ノ實況ヲ檢査セシムヘシ

第二十四條　横濱正金銀行ハ大藏大臣ノ命令ニ從ヒ其營業上ニ係ル計算報告書ヲ差出スヘシ

第二十五條　横濱正金銀行本支店及出張所ニ於テハ重要ノ文書ニ其本支店若クハ出張所ノ印ヲ押捺スヘシ但横文ヲ以テ發スル文書ニハ之ヲ押捺スルコトヲ要セス

第二十六條　横濱正金銀行ハ明治二十年七月十日ヨリ此條例ヲ遵奉シ株主總會ノ決議ヲ以テ更ニ定款ヲ制定シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ但定款ノ改正增補ヲ要スルトキハ亦本條ニ準ス

第二十七條　横濱正金銀行ノ頭取取締役其他ノ役員ニシテ此條例ヲ犯シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條　此條例ノ改正ヲ要スルコトアルトキハ三箇月以前ニ之ヲ公布スヘシ

○銀行紙幣抵當金祿公債證書利札下渡方

二十年五月二十八日大藏省訓令第三十五號北海道廳府縣

金祿公債證書明治二十年以降ノ利札ハ同十八年大藏省第六十三號達ニ據リ本年五月其廳ニ於テ貼付割印シテ下渡スヘキノ處各銀行紙幣發行ノ抵當トシテ大藏省金庫局及同局大阪出張所ニ預ケコレアル分ハ特ニ同局又ハ同出張所ニ於テ貼付割印スヘキニ由リ其廳ニ於テハ利札ヲ證書所有者ニ下渡スヘシ

第百八十一章　米商會所條例

明治九年八月一日第百五號布告

從來各地方ニ於テ差許置候米油限月賣買一切差止メ自今米穀賣買相場取引致度モノハ會社規則取調可願出旨明治七年(十二月)第三十八號ヲ以テ布告候處今般更ニ米商會所條例別紙ノ通相定候條營業致度者ハ右ニ照準可願出此旨布告候事

(別紙)

米商會所條例

第一條　緒言

第一節　米商會所ハ米穀流通ノタメ米商人ノ集會シテ賣買取引ヲ爲ス所ナリ而シテ協同結社之ヲ創立セント欲スル者ハ農商務卿ノ免許ヲ請フヘシ

十四年第三十一號布告ヲ以テ(内務省内務卿大藏省)トアルヲ(農商務省及農商務卿)ト改ム以下皆同シ

第二節　農商務卿ハ地方ノ景狀ヲ察シ之ヲ創立スルノ緊要ナルヤヲ考定シ之ヲ許可スルト否トノ權ヲ有ス

第三節　米商會所營業ハ五ケ年ヲ以テ一期ト定ム右滿期ノ際猶之ヲ保續セント望ムモノハ更ニ其趣ヲ申立農商務卿ノ免許ヲ乞フヘシ

第二條　會所創立ノ手續

第一節　米商會所ヲ創立スルニハ發起人十人以上ニシテ資本金ノ總額三萬圓以上タルヘシ

第二節　資本金ハ百圓ヲ以一株ト定メ發起人總員ニテ必資本金總高ノ半額以上ニ當ル株數ヲ所持スヘシ

第三節　會所ノ發起人ハ創立願書ニ此會所ヲ創立セントスル地方ノ從來米穀聚散ノ實況及ヒ將來賣買ノ目的ヲ詳悉シ各記名調印シ區戸長ノ奥書ヲ得會所創立証書及ヒ定款申合規則等ヲ添ヘ之ヲ地方官廳ヘ差出スヘシ

但創立證書中株ノ主賣任ニ有限或ハ無限ナルヿヲ明記スヘシ十二年第四號布告ヲ以テ但書ヲ追加ス

第四節　地方官廳ニ於テハ願人共ノ身元行狀ヲ檢知シ且ツ其目的ノ利害障碍ノ有無ヲ識別シ又會議所等ノ設ケアル地方ニ於テハ其集議ヲ取リ併セテ之ヲ參酌シ相當ト思量スルトキハ意見書ヲ添ヘ農商務卿ヘ具申スヘシ

第三條　開業ノ手續

第一節　發起人等ニ於テ會所創立ノ許可ヲ受ケタルトキハ直ニ其旨ヲ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ世上ニ公告シテ他ノ株主ヲ募ルコヲ得

第二節　發起人ハ其募ニ應シタル株主等ト共ニ集會ヲ爲シ第五條ノ程限ニ從ヒ五人以上ノ肝煎及ヒ正副頭取ヲ撰任シ其住所姓名年齢等ヲ詳記シタル書面ヲ以テ地方廳ヲ經由シ農商務卿ノ認許ヲ受クヘシ農商務卿ハ時トシテ其改撰ヲ命スルヿアルヘシ（十三年第十九號布告ヲ以テ全節ヲ改正ス）

第三節　此頭取肝煎等ハ資本金總高ノ三分二ニ當ル現金或ハ日本政府ノ公債證書（此公債証書ハ時々相場ノ昂低ヲ以增減スヘシト雖トモ明治七年大藏省乙第二十八號達ノ價額ヨリ減少スヘカラス）ヲ其地方官廳或ハ國立銀行ニ預ケ公正ナル預リ證書ヲ乞受ケ其寫ヲ農商務卿ニ差出シ開業免狀ヲ請求スヘシ

第四節　會所ニ於テ開業免狀ヲ受ケタル上ハ其免狀ノ寫ヲ添ヘ何月何日ヨリ其商業ヲ創ムヘキ旨ヲ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ世上ニ公告シ始メテ之ニ從事スルヿヲ得

第四條　社印ノ用方并印鑑差出方等ノ手續

第一節　開業免狀ヲ得テ其商業ヲ創メントスルニ當リ會所ノ印ヲ刻シ頭取以下諸役員ノ印ト共ニ其印影ヲ一纏メニシテ農商務卿ニ差出スヘシ若シ改刻スル者アル片ハ其都度之ヲ差出スヘシ

第二節　會所ノ諸願伺屆又ハ諸證書約定書及ヒ往復ノ文書等ニ至ルマテ會所一般ニ關スルヿハ其會所ノ名義ヲ用ヰ會所ノ印ヲ捺シ頭取肝煎等之ニ署名加印スヘシ

第五條　役員ノ程限

第一節　會所ノ役員ト稱スル者左ノ如シ

頭取　副頭取　肝煎

以下支配人書記等ノ名義ヲ以テ役員ヲ定ムルハ會所ノ都合ニ任ス

第二節　會所ノ役員タル者ハ該會所ニ於テ賣買本人又ハ仲買人トナルヿヲ許ルサス

第三節　右役員ハ株主ノ定例總集會ノ節投票ヲ以テ十株以上ヲ所持シタル株主中ヨリ肝煎ヲ撰舉シ肝煎ハ其同僚中ヨリ正副頭取ヲ推撰シ共ニ其住所姓名年齢等ヲ詳記シタル書面ヲ以テ地方廳ヲ經由シ農商務卿ノ認許ヲ受テ新舊交代セシムヘシ農商務卿ハ時トシテ其改撰ヲ命スルヿアルヘシ（十三年第十九號布告ヲ以テ全節改正ス）

第六條　役員ノ職務

第一節　頭取ハ會所ノ事務ヲ總轄シ他ノ役員ヲ指揮シ會所一切ノ責ニ任ス

第二節　頭取ハ肝煎分掌ノ事務ヲ定ムヘシ

第三節　副頭取ハ頭取ヲ助ケテ其事務ヲ共成シ時トシテハ其代理ノ任ニ當ルヘシ

第四節　肝煎ハ支配人書記等ノ役名ヲ議定シ其者等分掌ノ課程及ヒ俸給ヲ定メ社中差縺ノ事ヲ判決シ金穀ノ出納ヲ管理シ株主ノ衆議ヲ取ラントスル事柄アル時ハ之ヲ招集スルヿアルヘシ

第五節　肝煎ハ毎月何回ト定メタル會議ノ議員トナルヘシ

第六節　肝煎ハソノ同僚中又ハ頭取ニ於テ職任ニ不適當ノ行ヒアルカ又ハ之ヲ怠ル者アルトキハ臨時委員ヲ定メ次ノ肝煎會議ノ日ニ無名投票ヲ以テ三分ノ二以上ノ說ニ

從ヒ之ヲ退職セシムルヿヲ得

第七條　株主ノ權利制限及株式讓渡ノ手續

第一節　株主ハ會所ノ本主ニシテ會所資本ノ一部ヲ入金シ其入金高ニ應シタル株券ヲ所持シ以テ株數相當ノ權利ヲ有シ營業上ノ損益ヲ負擔スル者ナルカ故ニ時々ノ景況ニ着目シ金員及ヒ出納勘定帳簿ヲ檢閲セント求ムルノ權アリ

第二節　株主ハ肝煎ノ承諾ヲ得テ仲買人ト爲ルヲ得其場合ニ於テハ別段證人ヲ要セスト雖モ通常仲買人タルノ條件ニ適應スルヲ要ス（同上全節ヲ改正ス）

第三節　株主ハ何等ノ事故アルトモ會所解散ノ期ニ至ラサル時間ハ其株金ヲ取戻スヿヲ得ス

第四節　株主ハ肝煎ノ承認ヲ受ケタル上ニテ其所持ノ株式ヲ賣渡シ讓與ヘ又ハ質入抵當ト爲スヿヲ得ヘシ但シ其質入抵當ト爲シタル時間ハ總會議事ノ片發言ノ權ナク又役員ノ撰擧ニ應スルヿヲ許サス

第五節　株主其所持ノ株式ヲ賣渡シ又ハ讓與ヲ爲ス時ハ其賣買授受雙方ヨリ連印ノ證書ヲ會所ニ差出スヘシ會所ハ此証書ヲ請取リタル時ニ株主帳ノ姓名ヲ書改ムヘシ若シ右手續ヲナサヽル間ハ証書賣買授受ノ効ナキ者トス

第八條　仲買人入社ノ手續

第一節　仲買人タルヲ得ヘキ者ハ丁年ニシテ會所所在ノ地ニ於テ滿一年以上米商營業ヲ爲シタル者ニ限ル而テ仲買人トナラント欲スル者ハ身元金千圓以上ヲ出シ株主二名以上ノ保證ヲ以テ肝煎ニ申出テ其承認ヲ得タル上地方廳ヲ經由シテ仲買人トナラントスル願書ヲ農商務卿ニ捧ケテ其認許ヲ受クヘシ

身元金ハ現金又ハ日本政府ノ公債証書ヲ以テ會所ニ預ケ置クヘシ（同上）

第二節　仲買人タルモノハ他人ノ依頼ヲ受ルニアラサレハ賣買取引ヲナスコトヲ得ス其賣買取引ニ付會所ニ對シ自己ノ名義ヲ以テシ其賣買取引上一切ノ責任ヲ負擔スヘシ但一口ノ取引ニ付賣買雙方ノ依頼ヲ受クルヲ得ス（十三年第十九號布告ヲ以テ全節ヲ改メ十五年第二十六號布告ヲ以テ又全節ヲ改ム）

第三節　仲買人ハ五名ヲ一組トシ組合中ヨリ一名ヲ推撰シ肝煎ノ承認ヲ得テ組頭トナシ組合中一切ノ取締ヲ爲サシムヘシ（十三年第十九號布告ヲ以テ全節ヲ改正ス）

第四節　仲買人退社セントスル片ハ其旨趣ヲ書面ヲ以テ肝煎ニ申出ヘシ肝煎ハ之ヲ受ケテ十日間之ヲ會所ニ張出シ置キ會所ニ連帶シタル計算上ノ關係ナキヲ認タル上ニテ其退社ヲ許シ身元金ヲ返付シテ證人ノ責任ヲ解クヘシ

第九條　米商會所一般ノ規則

第一　外國人ヲ株主幷仲買人ト爲スコトヲ得ス（十五年第二十六號布告ヲ以テ第一節第二節ヲ改正シ第三節以下ヲ追加ス）

第二　會所ニ於テ賣買取引ヲ爲スモノハ其會所ノ仲買人ニ限ルヘシ

第三　會所ニ於テハ貸附金ヲナスヘカラス又仲買人ノ身元金及証據金ヲ使用スヘカラス

第四節　會所ハ此條例ノ旨趣ニ基キ賣買主雙方ノ約定ヲ履行セシムルノ責任アルモノトス

第五節　會所ハ左ノ場合ニ於テハ賣買ノ違約人トシテ會所限處分スルコトヲ得

第一　賣買主雙方若クハ一方其會所ニ差入ヘキ証據金ノ差入方ヲ怠リタルトキ

第二　賣買主雙方若クハ一方其取引約定ノ期日ニ至リ其約定ヲ執行セサルトキ

第三　會所ニ於テ定メタル現米檢査ノ方法及受渡上ノ期約ニ背キタルトキ

第六節　會所ニ於テ違約人ヲ處分スルハ其違約ニ依リ會所ノ取引上ニ於テ失ヒタル利得ト蒙リタル損害トヲ其者ノ證據金及身元金ヲ以テ償ハシメ其者ヲ除名スルニ止ルヘシ而シテ仍ホ其損失ヲ償フヿ能ハサルトキハ會所ニ於テ其責ニ任スヘシ

第十條　賣買取引ノ手續

第一節　會所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ現米直取引ト定期トノ二樣ニ分チ又其定期ヲ二種ト爲シ其一ヲ約定ノ期限ニ至リ現米金ノ受渡ヲ爲スモノトシ其二ヲ豫定ノ期限內ニ其取引ヲ完結シ又ハ解約スルモノトス（十三年第十九號布告ヲ以テ以下四節ヲ改正ス）

第二節　現米直取引ハ見本米ヲ以テ會所內ニ於テ賣買ヲ爲シ其現石受渡ノ順序ハ會所ノ規則ニ從フヘシ

第三節　定期賣買ヲ約定シタルトキハ會所ノ役員ニ屆出テ賣買主雙方ヨリ約定ノ證據金ヲ會所ニ差入ルヘシ此證據金ハ少クトモ約定代金高十分ノ一ヨリ下ルヘカラス又此證據金ノ外ニ時々相場ノ高低ニ因テハ追證據金或ハ期日前ニ至リ猶ホ其約定ヲ確固ナラシムル爲メ增證據金ヲ差入シムヘシ（十五年第六十六號布告ヲ以テ更ニ（十分ノ二）ヲ（一）ト改ム）

第四節　定期賣買約定ノ期限ハ三ケ月ヨリ永カルヘカラス而シテ其期日ニ至レハ會所ノ役員立會ノ上必ス現米金ノ受渡シヲ爲シ其取引ヲ完結スヘシ但約定濟ノ分ヲ雙方ノ都合ニヨリ其期限內ニ買戻シ又ハ買受ケタル分ヲ他人ヘ賣渡スヿヲ得

（十八年十一月第三十六號布告ヲ以テ本條改正ス）

第十一條　手數料ノ定規

第一節　會所ニ於テ賣買者雙方ヨリ領收スヘキ手數料ハ會所ニ於テ當相ノ額ヲ定メ大藏卿農商務卿ノ認許ヲ受クヘシ

第二節　手數料ハ其決算ノ時ニ至リ賣買取引ニ關係スル他ノ債主ニ先ツテ收受スルコトヲ得

第十二條　會議ノ規則

第一節　會所ノ會議ヲ分ツテ肝煎會議ト株主總集會トノ二類トス

第二節　肝煎會議ハ每月何回ト定メ頭取ヲ以テ議長トナス此會議ニ於テ發言ノ權ハ一人ニ付一說ト定メ衆說ヲ取リテ其議事ノ可否ヲ決ス若シ可否ノ數相半ハスルトキハ議長ノ判決ニ任カス

第三節　右會議ニ當リ出席定員ノ半ハニ充タサルトキハ其議事ヲ始ムヘカラス但シ急遽ノ事件ハ格別ナリトス

第四節　株主ノ總集會ハ每年一度又ハ數度例日ヲ定メテ之ヲ開ク此集會ハ頭取肝煎ノ撰擧及ヒ會所營業ノ實況計算ノ得失ヲ議スルヲ主務トス

第五節　株主五分ノ一以上ノ請求又ハ肝煎ノ衆議ニ依リテハ臨時總集會ヲ開クヿヲ得

第六節　總集會ニ於テノ發言ノ權利決議ノ方法ハ便宜ニ從テ之ヲ定ムヘシ

第七節　總集會ニ於テノ議長ハ頭取又ハ株主中ヨリ撰擧スルモ妨ケナシ

第十三條　資本金增減ノ手續

第一節　會所ニ於テ資本金高ヲ增減セントスルトキハ總集會ノ決議案ヲ具シ頭取肝煎其次第ヲ詳記シ農商務卿ノ指揮ヲ受クヘシ

但其資本金賣買取引ノ景況ニ對シ不適當ト認ルトキハ農商務卿ハ其適當ノ金額ニ增加スヘキ旨ヲ命スルヿアルヘシ（十五年第廿六號布告ヲ以テ但書ヲ追加ス）

第二節　右增減ノ許可ヲ得タル上ハ直ニ世上ニ公告シ其增減セシ名前書ヲ取纏メタル上農商務卿ニ屆出且地方官廳或ハ銀行ニ預ケタル營業保証ノ金額ヲ增減スヘシ

第十四條　損益金計算ノ定規

第一節　頭取肝煎ハ毎年兩度以上營業ノ總決算ヲ爲シ其內稅金並積立金其他一切ノ社費ヲ引去リ殘リ損益高ヲ以テ株數ニ割リ合セ之ヲ株主ニ分賦スヘシ

第二節　右計算表ハ株主ニ分賦ノ日ヨリ十五日內農商務卿ニ屆出且ツ世上ニ公告スヘシ

第十五條　納稅及積金ノ規則

第一節　政府ニ於テ制定施行スル所ノ收稅規則ニ遵ヒ稅金ヲ納ムヘシ

第二節　株主等ヘ配當スヘキ純益金一ケ年一割卽百分ノ十以上ノ利息ニ當ルトキハ肝煎ノ衆議ヲ以テ割賦高ノ幾分ヲ引去リ之ヲ積立テ以テ非常準備金ト爲スヘシ

第十六條　報告ノ定規

第一節　會所及仲買人ハ毎日取扱ノ事項幷金穀出納等凡テ之ヲ詳明正確ニ記載シ且其簿記ノ方法ニ於テハ農商務卿ノ差圖アルトキハ其差圖ニ從フヘシ（十三年第十九號布告ヲ以テ全節ヲ改正シ十五年第廿六號布告ヲ以テ又全節改正ス）

第二節　會所及仲買人ニ於テ使用スル所ノ諸帳簿ハ其名目用法ヲ詳記シ之ヲ農商務卿ニ屆出ヘシ（十五年第廿六號布告ヲ以テ下追加）

第三節　會所ハ賣買實際ノ景況及金穀出納其他役員ノ進退並株主ノ異同仲買人ノ退社ヲ農商務卿ニ報告スヘシ

第十七條　官員檢査規則

第一節　地方長官ハ時々官員ヲ派出シ會所及仲買人營業ノ模樣其他諸帳簿幷現米ノ所在其受渡ノ實況及會所ノ現金等ヲ査覈セシムヘシ又時トシテハ農商務省ヨリ官員ヲ派出シ之ヲ檢査セシムルコトアルヘシ若シ右檢査官員ヨリ疑問等アルトキハ會所ノ役員及仲買人等ハ遂一答辨ヲ爲サヽルヘカラス（同上全節改正）

第十八條　諸願書其他ノ書類上達ノ定規

第一節　會所ヨリ農商務卿ニ差出スヘキ文書中諸願ハ二通其他ハ一通宛ニシテ其差出方ハ地方廳ヲ經由スヘシ（同上）

第十九條　罰則

第一節　會所ノ役員及ヒ株主仲買人等此條例ヲ犯スカ又ハ役員タル者株主仲買人ノ條例ニ背犯シタルヲ不問ニ措キ又ハ背犯セシメタル實証アルトキハ役員幷ニ本人トモ其

輕重ニヨリ三拾圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス（十三年第十九號布告ヲ以テ全節ヲ改正ス）

第二節（十三年第十九號布告ヲ以テ追加シ十六年第三十號布告ヲ以テ刪除ス）

第三節　官員檢査ノ節簿冊書類ヲ差出スヿヲ拒ミ又ハ疑問ニ答辨ヲ爲サヽル者アル片ハ頭取又ハ其主任者ヘ五拾圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ（十三年第十九號布告ヲ以テ第二節ヲ三節トシ第三節ヲ四節ト改ム）

第四節　會所ノ規約ニ背犯シタル役員株主仲買人ヲ會所限リ處分スルハ之ヲ除名スルカ或ハ過怠料ヲ取立ルニ止ルモノトス但其過怠料ハ株金身元金ノ高ニ超ルヲ得ス（十五年第廿六號布告ヲ以テ全節改正）

第二十條　營業停止及禁止（同上布告ヲ以テ本條ヲ追加シ同年第四十六號布告ヲ以テ刪除ス）

○米穀金銀貨幣等竊ニ取引ヲ爲ス者處分方（明治十三年四月十五日第貳拾壹號布告）

法律定規ニ遵ヒ官許ヲ得タル米商會所株式及ヒ横濱取引所外若クハ內タリ𪜈竊ニ米穀并金銀貨幣及株式ノ限月若クハ現場（定規ヨリ起リタル現場ヲ云フ）賣買其他之ニ類似シタル取引ヲ爲シタル者及情ヲ知テ賣買取引ノ場所ヲ給與シタル者若クハ其賣買取引ヲ誘助シタル者ハ拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ其賣買取引ハ無効ト爲スヘシ

但本條ヲ犯シタル者ヲ告發シタル者ニハ其告發ニ因テ科シタル罰金ノ全部ヲ給ス其自ラ犯シタル者事未タ發覺セサル前ニ於テ自首シタル片ハ其罪ヲ問ハス

右布告候事

○米商會所及株式取引所ノ賣買上ニ關スル處分方（明治十五年八月十九日第四拾六號布告）

米商會所及ヒ株式取引所ノ賣買ニ不正惡弊アルカ又ハ賣買取引上ノ景況穩當ナラサル爲メ公共ニ妨害ヲ及ホスト認ムルトキハ農商務卿ハ其會所及ヒ取引所又ハ仲買人ノ營業ノ一部又ハ全部ヲ停止若クハ禁止シ又ハ役員ヲ退罷セシムルヿアルヘシ

但本年第貳拾六號布告米商會所條例追加第二十條ハ削除ス

右奉　勅旨布告候事

○米商會所株式取引所ノ方法ニ倣ヒ又ハ類似ノ方法ヲ用ヒ取引ヲ爲ス者處分方（明治十六年一月十五日第四號布告）

米商會所株式取引所ノ限月若クハ現場賣買ノ方法ニ倣ヒ又ハ之ニ類似ノ方法ヲ用ヒ諸物品ノ賣買取引ヲ爲シタル者及情ヲ知テ賣買取引ノ場所ヲ給與シタル者若クハ其賣買取引ヲ誘助シタル者ハ總テ明治十三年（四月）第貳拾壹號布告ニ據リ處分スヘシ

右奉　勅旨布告候事

○米商會所株式取引所ノ仲買人竊ニ米穀金銀貨幣公債證書株式ノ限月若クハ現場賣買ヲ爲ス者處分方（明治十六年八月六日第貳拾九號布告）

米商會所及株式取引所ノ仲買人ニシテ竊ニ米穀并金銀貨幣公債証書株式ノ限月若クハ現場（定期ヨリ起リタル現場ヲ云フ）賣買又ハ其類似ノ取引ヲ爲シタル者及情ヲ知テ賣買取引ノ場所ヲ給與シタル者若クハ其賣買取引ヲ誘助シタル者ハ五拾圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其賣買取引ハ米商會所條例及株式取引所條例ノ手續ヲ爲サシム

右奉　勅旨布告候事

○米商會所株式取引所仲買人認許料（明治十六年八月六日第貳拾八號布達）

米商會所及株式取引所ノ仲買人ト爲ラシト欲スル者農商務卿ノ認許ヲ得タルトキハ認許料トシテ金三拾圓ヲ農商務省ニ納ムヘシ

右布達候事

○製茶砂糖反物等竊ニ現月若クハ現場賣買類似ノ商業ヲ爲ス者處分方

明治十三年九月二十二日第四十九號(使)府縣ヘ達

近來竊ニ製茶砂糖反物薪炭等種々ノ物品ヲ以テ限月若クハ現場賣買類似ノ商業ヲ爲ス者有之趣右ハ總テ本年(四月)第貳拾壹號布告ニ依リ處分スヘキ儀ト心得ヘシ此旨相達候事

○米穀金銀貨幣等竊ニ取引ヲ爲ス者取締方

明治十三年四月十六日

大藏省乙第拾八號府縣ヘ達

今般第廿一號公布ノ趣モ有之候ニ付テハ取締向尚一層嚴重ニ可相立因テハ金銀米穀賣買取引ヲ爲ス業體ノ者幷ニ兩替店爲替店又ハ穀物問屋ノ類ヘハ時々主務ノ官吏ヲ派遣シ篤ト爲相改自然右公布ニ違反候者ハ速ニ取糺シ裁判所ヘ求刑可致此旨相達候事

○米商會所株式取引所仲買人認許規程

明治十六年八月十八日農商務省第六號告示

米商會所株式取引所仲買人認許規程左之通相定候條此旨告示候事

第一項　米商會所仲買人及株式金銀貨仲買人ハ營業認許願ハ各其條例ニ依リ從前會所及取引所ニ於テ慣行ノ手續ニ從フヘシ

第二項　仲買人ニ認許ヲ與ヘタルトキハ左ノ雛形ノ如キ認許証ヲ下付スヘシ

第三項　米商會所幷ニ株式取引所仲買人ヘ認許証ヲ下付シタルトキハ認許料ヲ地方廳ヘ納付シ地方廳ヨリ農商務省ヘ上納スヘシ

第四項　株式仲買人及金銀貨仲買人ヘ認許証ヲ下付スルトキハ認許料ヲ其株式取引所ヘ納付シ株式取引所ヨリ農商務省ヘ上納スヘシ

第五項　從前會所及取引所ノ定款ニ定メタル年限中認許ヲ與ヘタルモノハ其期限中ハ認許証下付セサルニ付滿期ニ至リ第一項ノ手續ニ從フヘシ

第六項　仲買人左ノ場合ニ於テハ會所及取引所ヲ經由シテ認許証ヲ農商務省ヘ返納スヘシ

但本人執行成リ難キ場合ニ於テハ親戚又ハ組合仲買人ニ於テ返納ノ手續ヲ爲スヘシ

第一　廢業シタルトキ　第二　死亡シタルトキ

第三　營業禁止ノ命ヲ受タルトキ　第四　納稅規則ニ違犯シ認許ノ効ヲ失ヒタルトキ

第五　會所及取引所ノ規約ニ違ヒ除名ノ處分ヲ受タルトキ

第六　身代限リノ處分ヲ受タルトキ

第七項　認許証若シ盜火水難其他ノ事故ニ因テ紛失シタルトキハ其事由ヲ詳悉シテ更ニ認許証ノ下付ヲ請願スヘシ

第八項　氏名ヲ改メタルトキハ認許証ヲ農商務省ニ差出シ書替ヲ請願スヘシ

十八年十二月農商務省告示第二十四號ヲ以テ三項改正

○米商會所株式取引所收稅規則

十八年十一月廿八日 第三十八號布告

米商會所幷株式取引所收稅規則左ノ通制定シ明治十八年十二月一日ヨリ施行ス

但明治十一年(九月)第三拾號布告明治十五年(十二月)第六拾五號布告及同年(同月)第六十七號布告ハ明治十八年十二月一日ヨリ廢止ス

米商會所並株式取引所收稅規則

第一條　會所並取引所ノ稅金ハ左ノ割合ニ從ヒ毎一ケ月分ヲ翌月十日マテニ地方廳ニ上納スヘシ

米穀定期賣買	賣買各約定代金高千分ノ二
公債證書定期賣買	賣買各約定代金高萬分ノ三
諸株式定期賣買	賣買各約定代金高萬分ノ六

第二條　定期內ニ轉賣又ハ買戻ヲ爲ス者ハ其轉賣買戻ニ係ル稅金ハ免除ス

第三條　賣買ヲ解約スルコトアルモ其稅金ハ之レヲ還付セス

第四條　大藏卿ハ地方廳ニ委任シ又ハ隨時官吏ヲ派出シ納稅ノ精算ヲ檢査セシムヘシ

第五條　會所幷取引所ニ於テ賣買約定ノ代金高ヲ詐リ脫稅シタルトキハ頭取ヲ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其會所幷取引所ヨリ其脫稅ニ係ル金額ヲ徵收スヘシ

右奉　勅旨布告候事

○私立銀行會社ニ於テ實印使用

二十一年十二月十五日 大藏省訓令第六十八號(北海道廳府縣)

私立銀行並ニ銀行類似會社ニ於テ諸證書ニ押用スル印章ノ儀是迄役印ヲ用ヒ候向モ有之趣右ハ明治十年七月第五十號同九月第六十四號布告ノ通實印押用致サスヘシ

伺指令

米商會所資本金ノ內營業保證公債證書價格ノ件ニ付滋賀縣ヨリ農商務省ヘ伺

十九年四月二十一日 (十九年五月十一日官報)

米商會所條例第三條第三節會所資本金總高三分二ニ當ル營業保證公債證書價格ノ儀ニ付キ去十五年十二月中相伺候處伺ノ趣十三年一月大藏省乙第一號達ニ據リ可致處分旨御指令相成然ルニ該御達書中ニハ社寺配當祿金札引換中山道鐵道公債證書ノ三種ハ登載無之右證書ヲ以營業保證トシテ差出候節價格ハ何レニ準據取扱可申哉

指令　十九年五月六日

伺ノ趣該抵當價格ハ今後左ノ通心得ヘシ

	額面		保證額
一割利付金祿公債證書	百圓ニ付	百圓	一七分利付同　同　九拾圓
一六分利付同	同	八拾五圓	一五分利付同　同　七拾七圓
一神官配當祿公債證書	同	九拾弐圓	一起業公債證書　同　八拾五圓
一金札引換公債證書	同	百圓	一新公債證書　同　七拾弐圓
一中山道鐵道公債證書	同	九拾五圓	

米商會所保證金預リ方ノ件ニ付石川縣ヨリ農商務省ヘ伺

十九年五月十二日 (十九年五月廿六日官報)

明治九年八月太政官第百五號布告米商會所條例第三條第三節頭取肝煎等資本金總高三分ノ二ニ當ル現金或ハ日本政府ノ公債證書ヲ預リ置クヘキ成規ノ處右ハ國立銀行ノ外大藏省預金局並遞驛局貯金預ケ金證券ニテモ預リ方同樣取計可然哉

指令　十九年五月十八日

米商會所保證金預リ方ノ儀伺ノ通

○第百八十二章　取引所條例

二十年五月十四日　勅令第十一號

朕取引所條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十年五月十四日

內閣總理大臣伯爵伊藤博文

農商務大臣伯爵山縣有朋

勅令第十一號

取引所條例

第一章　總則

第一條　取引所ハ商業上ノ取引ヲ便利ニシ市價ヲ平準ニシ商業上公正直實ノ風ヲ養成シ商業上ノ慣習ヲ統一維持シ須要ノ報道ヲ傳播シ及取引所會員ノ間ニ生スル爭論ヲ仲裁スルヲ以目的トシ商業上便宜必要ノ地方ニ於テ其地方ノ商人農商務大臣ノ特許ヲ得テ設立スルモノトス

第二條　取引所ニ於テ賣買取引スヘキ物件ハ重要ノ商品公債證書證券株式等ニシテ創立員又ハ取引所ノ出願ニ依リ農商務大臣ノ認可シタルモノニ限ル

第三條　取引所ヲ設立スルニハ東京大阪ニ於テハ三十人以上其他ノ地方ニ於テハ十五人以上會員タルヲ得ヘキ者創立員トナリ地方官廳ヲ經テ農商務大臣ニ願出ヘシ

第四條　取引所ハ其賣買取引スヘキ物件ニ就キ之ヲ各部ニ分チ又ハ數物件ヲ合セテ一部トシ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五條　取引所ノ創立ニ係ル費用及之ヲ維持スルニ必要ナル費用ハ會員之ヲ負擔スヘシ取引所ハ前項ノ費用ヲ補充スル爲メ賣買取引ニ就キ相當ノ手數料ヲ領收スルコトヲ得其手數料ノ割合ハ役員之ヲ議定シテ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ前項ノ手數料ハ之ヲ分配スルヲ得ルモノトス

第六條　農商務大臣ハ取引所ヲ監督シ地方長官ヲシテ之ヲ監視セシメ其賣買取引法律命令ニ違反シ或ハ公衆ノ安寧ニ妨害アリト認ムルトキハ其全部又ハ幾部ヲ停止若クハ禁止シ其賣買取引ニ關渉シタル役員ヲ罷免シ仲買人ノ營業ヲ停止若クハ禁止シ及會員ヲ一時若クハ永久ニ除名スルコトヲ得

第七條　農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ取引所ノ規約ヲ改正セシメ又ハ決議及處分ヲ停止禁止若クハ取消スコトヲ得

第八條　農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ取引所ニ對シ委員ヲ命シ其一般ノ事務ヲ監察シ取引所ニ關スル法律命令ノ施行ヲ監視シ且其役員ノ集會ヲ整理セシムルヿヲ得

第九條　取引所ハ毎日一定ノ時間ニ於テ商業上ノ集會ヲ開キ其時間外ハ賣買取引ヲ爲

スコトヲ許サス

第十條　本條例施行ニ關スル細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第十一條　取引所ノ賣買取引ニ關スル稅則ハ別ニ之ヲ定ム

第二章　會員

第十二條　會員タルコトヲ得ル者ハ其取引所所在ノ地ニ居住スル商人ニシテ會員タルノ義務ヲ盡スコトヲ得ル者ニ限ル會員ニ非サレハ取引所ニ集會シ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條　會員タル者ハ身元保證金三百圓以上三千圓以下ヲ差出スコトヲ要ス

第十四條　左ニ掲クル者ハ會員タルコトヲ得ス

一　婦女及未丁年者

但婦女ノ代理人未丁年者ノ後見人ハ會員タルコトヲ得

一　公權剝奪若クハ停止中ノ者

一　身代限ノ處分ヲ受ケ未タ辨償ノ義務ヲ終ヘサル者

一　第六條第十五條ニ依リ除名セラレタル者

第十五條　會員ニシテ不當ノ擧動ヲ爲シ爲メニ取引所內ニ於テ紛擾爭論ヲ釀スカ法律命令及規約ニ違反シタル不正ノ契約ヲ爲スカ又ハ故意ニ其商業上ノ責任ヲ果サヽルトキハ會員ノ決議ヲ以テ百圓以內ノ過怠金ヲ科シ一時若クハ永久ニ之ヲ除名スルコトヲ得

第三章　役員

第十六條　取引所ニ役員ヲ置クコト左ノ如シ

一　理事長　　一　理事　　一　常置委員

第十七條　役員ハ一箇年ヲ以テ任期トシ會員中ヨリ投票ヲ以テ選擧シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但理事長及理事ハ會員ノ決議ニ由リ會員外ヨリ選擧スルコトヲ得

役員任期中ト雖モ其職務ヲ盡サヽルカ又ハ不正ノ所爲アルトキハ會員ノ決議ヲ以テ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ退職セシムルコトヲ得

第十八條　理事長及理事ハ取引所ニ於テ賣買取引ヲ爲スコトヲ許サス

第十九條　役員ハ法律命令ノ範圍內ニ於テ農商務大臣ノ認可ヲ經其業務ニ關シ規約ヲ定ムルコトヲ得

第四章　仲買人

第二十條　取引所ニ仲買人ヲ置ク仲買人ハ他人ノ委托ニ由リ賣買取引ヲ爲スヲ以テ業トシ自己ノ爲メニ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條　仲買人ノ營業ハ一部ニ限リ數部ヲ兼ヌルコトヲ得ス

第二十二條　仲買人タラント欲スル者ハ農商務大臣ノ免許ヲ受クヘシ之ヲ受ケタルトキハ免許料金五拾圓ヲ納ムヘシ

第二十三條　仲買人タルヘキ者ハ會員ニシテ營業保證金一千圓以上二萬圓以下ヲ差出スコトヲ要ス

第二十四條　仲買人ニシテ第十五條ニ掲クル所爲アルトキハ役員ノ決議ヲ以テ二百圓以内ノ過怠金ヲ科シ其營業ヲ停止若クハ禁止スルコトヲ得但營業ヲ禁止スルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十五條　仲買人ハ自ラ取引所ノ賣買取引ニ從事スヘシ代理人又ハ手代ヲ使用スルコトヲ得ス

第二十六條　仲買人口錢ノ額ハ役員會議ニ於テ議決シ農商務大臣ノ認可ヲ得テ之ヲ定ム

第五章　賣買取引

第二十七條　取引所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ直取引及定期取引ノ二樣トス其方法ハ農商務省令及取引所ノ規約ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條　取引所ニ於テ賣買取引スヘキ物件ノ種類ニヨリ農商務大臣ハ取引所外ニ於テ取引所ノ賣買取引ト同一又ハ類似ノ方法ヲ以テ賣買取引ヲ爲スヲ禁止スルコトヲ得

第二十九條　取引所ニ於テ賣買取引シタル物件ノ相場ヲ以テ公定相場トス

第六章　仲裁

第三十條　取引所ニ於テ爲シタル賣買取引ニ關シ爭論ヲ生スルトキハ役員ニ申告シテ仲裁ヲ受クヘシ但代言人ヲ出スコトヲ得ス

第三十一條　前條ノ場合ニ於テハ常置委員ノ多數決ヲ以テ其爭論ヲ仲裁スヘシ

第三十二條　法律上ノ見解ニ關スルモノヲ除クノ外前條ノ仲裁ニ對シテ裁判所ニ上訴スルコトヲ得ス

第七章　罰則

第三十三條　第五條第三項第九條第十八條第二十條及第二十五條ヲ犯シ又ハ第二十七條ニ依リ農商務省令ヲ以テ定メタル賣買取引法ニ違ヒ賣買取引ヲ爲シタル者ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條　第二十八條ニ依リ農商務大臣ノ禁止シタル賣買取引ヲ爲シ又ハ第二十九條ノ公定相場ヲ僞リタル者ハ拾圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本條例ハ明治二十年九月一日ヨリ施行ス但米商會所條例及株式取引所條例ハ米商會所及株式取引所ノ營業滿期ヲ待ツテ廢止スルモノトス

○取引所條例施行細則

二十年六月一日農商務省令第三號

本年五月勅令第十一號取引所條例施行細則左ノ通相定ム

取引所條例施行細則

第一章　總則

第一條　取引所ヲ設立セントスル者ハ設立願書ニ左ノ事項ヲ詳記シ創立員各自署名調印シ地方官廳ニ差出スヘシ

一　取引所ノ名稱及位置

二　設立ヲ要スル事由

三　取引所ノ部分ケ及其各部ニ於テ賣買取引スヘキ物件ノ種類
四　會員タルヲ得ヘキ商人ノ概數及其差入ルヘキ身元保證金額
五　各部仲買人ノ差入ルヘキ營業保證金額
六　賣買取引スヘキ物件集散ノ實況及將來賣買取引高ノ目算
七　取引所設立ニ關スル費用ノ豫算額及徵收ノ方法

第二條　地方長官前條ノ設立願書ヲ受ケタルトキハ其要否ヲ考ヘ創立員ノ身元ヲ糺シ意見ヲ具シ農商務省ニ進達スヘシ

第三條　農商務大臣取引所ノ設立ヲ特許シタルトキハ特許狀ヲ下付スヘシ

第四條　取引所設立ノ特許ヲ得タルトキハ創立員ニ於テ其創立員中ヨリ委員ヲ撰定シ其氏名ヲ農商務省ニ屆出ツヘシ

委員ハ假ニ役員ノ事務ヲ執行シ取引所設立ノ特許ヲ得タル旨ヲ官報又ハ其地方重モナル新聞紙ヲ以テ廣告シ取引所ヲ開クニ付必要ノ準備ヲ爲スヘシ

第五條　會員ノ員數第一條第四項概數ノ十分ノ一以上ニ達スルトキハ總會ヲ開キ役員ヲ選擧スヘシ

役員ハ取引所ノ業務ヲ經理スル爲メ規約ヲ作リ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六條　規約ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ但自餘ノ事項ト雖モ必要ト認ムルモノハ掲載スルコトヲ得

一　取引所ノ名稱及位置
二　取引所各部ノ名稱
三　會員入退及除名ニ關スル規程
四　會員ノ權利義務
五　會員組合ニ關スル規程
六　會員ノ手代入場ニ關スル規程
七　會員ノ員數及其選擧ノ方法
八　役員ノ職務章程
九　仲買人開廢業及營業停止禁止ニ關スル規程
十　仲買人組合ニ關スル規程
十一　仲買人ノ補助員入場ニ關スル規程
十二　仲買口錢ニ關スル規程
十三　身元保證金及營業保證金ニ關スル規程
十四　賣買取引スヘキ物件ノ種類
十五　新株式賣買擧行ニ關スル規程
十六　直取引及定期取引ニ關スル規程
十七　賣買取引受托ニ關スル規程
十八　證據金ニ關スル規程
十九　賣買取引ノ結了ニ關スル規程
二十　市場整理ニ關スル規程
二十一　休暇日及市場開閉時刻ノ定限
二十二　公定相場ニ關スル規程
二十三　會議ニ關スル規程
二十四　帳簿及記錄ニ關スル規程
二十五　取引所ノ經費收支ニ關スル規程
二十六　仲裁ニ關スル規程
二十七　違約處分ニ關スル規程

第七條　役員規約ノ認可ヲ得タルトキハ農商務省ニ屆出ノ上賣買取引ヲ開始スヘキモノトス

第八條　取引所ノ位置ヲ移轉セントスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第九條　取引所ニ關スル一切ノ文書ハ所名ヲ署シ役員ノ印章ヲ捺スヘシ但願伺屆其他

重要ノ文書ハ理事長之ニ署名調印スヘシ

第二章　會員

第十條　會員タラント欲スルモノハ加入申込書ニ履歴書ヲ添付シ役員ニ差出スヘシ役員ハ其履歴ヲ糺シ身元保證金ヲ差入レシメタル上加入ヲ承諾シ會員名簿ニ記名調印セシメ會員ノ證ヲ交付スヘシ

第十一條　婦女ノ代理人若クハ未丁年者ノ後見人會員タラント欲スルトキハ加入申込書ニ履歴書及委任狀若クハ戸長ノ證認書ヲ添付シ役員ニ差出シ其承諾ヲ請フヘシ但條例第十四條ニ觸ルヽ代理人若クハ後見人ハ會員タルコトヲ得ス

第十二條　商社ノ名義ヲ以テ會員タラント欲スルトキハ代表人ヲ定メ加入申込書ニ商社ノ規約及代表人ノ履歴書ヲ添付シ役員ニ差出シ其承諾ヲ請フヘシ但條例第十四條ニ觸ルヽモノハ代表人タルコトヲ得ス

第十三條　會員退去セントスルトキハ其旨ヲ役員ニ申告ツヘシ役員ハ十日間其旨ヲ市場ニ掲示シ賣買取引其他計算上關係ナキヲ認メタル上承諾ヲ與ヘ身元保證金ヲ返付スヘシ

第十四條　會員ハ役員ノ承諾ヲ得手代ヲシテ入場セシムルコトヲ得

第十五條　會員ハ適宜人員ヲ定メテ組合ヲ爲シ組合中ヨリ委員一名ヲ選定シ役員ニ屆置クヘシ

委員ハ其組合會員ノ代議人トナリ取引所總會ニ列スルモノトス

第三章　仲買人

第十六條　仲買人タランヿヲ欲スルモノハ營業願書ヲ役員ニ差出スヘシ役員ハ役員會ヲ開キ過半數ノ同意ヲ得タル上地方官廳ヲ經由シテ其願書ヲ農商務省ニ進達スヘシ

第十七條　農商務大臣ニ於テ仲買人タルコトヲ免許スルトキハ役員ヲ經テ銀章ヲ下付スヘシ役員ハ免許料及營業保證金ヲ差出サシメタル上之ヲ本人ニ交付スヘシ

第十八條　仲買人ハ取引所ニ於テ賣買立會中銀章ヲ佩用スヘシ

第十九條　仲買人ハ自己ノ名義ヲ以テ賣買約定ヲ爲シ其賣買取引上一切ノ責任ヲ負フヘシ

第二十條　仲買人ハ其部內同業者中適宜人員ヲ定メテ組合ヲ爲シ組長一名ヲ選定シ役員ノ認可ヲ受ケ組合中一切ノ取締ヲ爲サシムヘシ但組長ノ氏名ハ役員ヨリ農商務省ニ屆出ヘシ

第二十一條　仲買人ハ其部ノ名稱ヲ冠シ某部仲買人ト稱スヘシ

第二十二條　仲買人ハ役員ノ承諾ヲ得一名若クハ二名ノ補助員ヲシテ取引所ニ於テ其業務ヲ補助セシムルコトヲ得但補助員ハ賣買契約ヲ爲シ又ハ之ヲ執行スルヿヲ得ス

第二十三條　仲買人廢業セント欲スルトキハ其屆書ヲ役員ニ差出スヘシ役員ハ十日間其旨ヲ市場ニ掲示シ賣買取引其他計算上關係ナキヲ認メタル上營業保證金ヲ返付シ地方官廳ヲ經由シテ其屆書ヲ農商務省ニ進達スヘシ

第二十四條　仲買人其資格ヲ失フタルトキハ本人又ハ相續人若クハ親族ヨリ役員ヲ經

由シテ銀章ヲ農商務省ニ返納スヘシ

第二十五條　仲買人銀章ヲ紛失シタルトキハ其事由ヲ詳具シ役員ノ保證ヲ得テ更ニ銀章ノ下付ヲ請フヘシ但此場合ニ於テハ手數料トシテ金拾圓ヲ上納スヘシ

第四章　身元保證金及營業保證金

第二十六條　身元保證金及營業保證金ハ取引所ニ於テ其額ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ農商務大臣ハ時宜ニ由リ其增額ヲ命スルコトアルヘシ

營業保證金ハ各部ニ由リ其額ヲ定ムヘキモノトス

第二十七條　身元保證金及營業保證金ハ左ニ掲クル證書ヲ以テ代用スルコトヲ得但身元保證金ノ預リ證書ハ營業保證金中ニ合算スルコトヲ得

現金ヲ以テ差入レントスルトキハ役員ノ指命スル銀行ニ預ケ入レ其預リ證書ヲ以テ役員ニ差入ルヘシ

一預金局ノ預リ證書　一公債證書　一政府ノ保證アル會社ノ株券

（公債證書ハ農商務大臣株券ハ役員ノ指定スル價格ニ據ルヘシ）

第二十八條　身元保證金及營業保證金ヲ差出シタルトキハ役員ハ預リ證書ヲ付與スヘシ其證書ハ質入書入其他抵當ト爲スコトヲ許サス

第二十九條　身元保證金ニ缺額ヲ生シタルトキハ之ヲ補塡スルニアラサレハ會員タルノ權利ヲ失フモノトス又營業保證金ニ缺額ヲ生シタルトキハ之ヲ補塡スルニアラサレハ仲買人ノ業ヲ營ムコトヲ許サス

第三十條　營業保證金ハ之ヲ差入タル仲買人ニ於テ賣買取引上ノ違約ヲ爲シタルトキ損害辨償ノ用ニ供スルモノトス

身元保證金ハ之ヲ差入タル會員ニ於テ其會員タルノ義務ヲ盡サヽルトキ辨償ノ用ニ供スルモノトス

第三十一條　賣買取引上ヨリ生シタル損害ノ辨償ハ證據金及營業保證金ヲ以テ充テ猶ホ不足アルトキハ被害者ヨリ辨償ノ責ニ當ル本人ニ對シ追求スルヲ得

第五章　役員

第三十二條　理事長ハ理事ヲ率ヒテ取引所全部ノ事務ヲ總轄シ總會及役員會ノ議事ヲ整理シ理事ノ分掌ヲ定メ所屬員ヲ任免シ及規約違反者ヲ處分スルノ權ヲ有シ取引所一切ノ事務ニ付其責ニ任スルモノトス

第三十三條　理事ハ指揮ヲ理事長ニ受ケ各部ノ事務ヲ分掌シ及部下ノ屬員ヲ指揮監督スルノ權ヲ有ス

第三十四條　常置委員ハ取引所全般ノ事務ニ付意見ヲ具シ理事長ヲ輔佐シ金錢ノ出納及他ノ諸役員ノ行爲ヲ監視スルノ權ヲ有ス

第三十五條　理事ハ理事長事故アルトキ其事務ヲ代理スルノ任アルモノトス

第三十六條　會員外ヨリ理事長及理事ヲ撰擧シ農商務大臣ノ認可ヲ請フトキハ其願書ニ履歷書ヲ添付スヘシ

會員外ヨリ撰擧シタル理事長及理事ハ會員同額ノ身元保證金ヲ役員ニ差出スヘシ

第三十七條　役員ノ印章ハ其印鑑ヲ農商務省ニ屆出ノ上使用スヘシ

第六章　賣買取引法

第三十八條　取引所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ現物、見本品、銘柄ニ據リ賣買約定ヲ爲スヘキモノトス

第三十九條　直取引ハ現物、見本品又ハ銘柄ヲ以テ賣買約定ヲ爲スモノトス約定ヲ爲シタルトキハ賣買雙方ヨリ相手方ノ氏名、數量、直段等ヲ其部理事ニ屆出テ取引所ノ帳簿ニ記入ヲ請ヒ五日以內ニ受渡ヲ爲スヘシ

第四十條　定期取引ハ見本品又ハ銘柄ニ據リ期日ヲ定メテ賣買約定ヲ爲スモノトス

第四十一條　定期取引ノ約定ヲナシタルトキハ賣主ヨリ其記名ノ賣渡證書ヲ買主ニ交付スヘシ但賣買約定ノ高ニ應シ賣渡證書ヲ數葉ニ分割スルコトヲ得

買受ケタルモノヲ他ヘ轉賣セントスルトキハ證書記名者ニ其旨ヲ通知シ證書記名者ニ於テ更ニ證據金ノ差入ヲ請求スルトキハ一定ノ證據金額內ニ於テ證書記名者ノ滿足スル證據金ヲ差入レシムヘシ

第四十二條　定期取引ノ約定ヲナシタルトキハ賣買雙方ヨリ相手方ノ氏名、約定期日數量及直段等ヲ詳記シタル書面ヲ以テ其部理事ニ屆出テ取引所ノ帳簿ニ記入ヲ請フヘシ

第四十三條　定期取引ノ約定ヲ堅固ナラシメンカ爲メ賣買主ノ一方ニ於テ證據金ノ差入ヲ必要トスルトキハ相手方ニ其差入ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ其請求者モ亦同額ノ證據金ヲ差入ルヘキモノトス

證據金ノ最上額ハ役員ニ於テ豫メ之ヲ定メ農商務省ニ屆出ヘシ

第四十四條　定期取引ノ期限ハ役員之ヲ定メ農商務省ノ認可ヲ受クヘシ

第四十五條　賣買品ノ受渡ハ其部理事立會ノ上執行完結スヘシ

第四十六條　賣買品ノ受渡ハ制法又ハ特許ニ依リ成立シタル倉庫ノ預リ手形ヲ以テ其用ニ供スルコトヲ得

第七章　公定相場

第四十七條　公定相場ハ取引所ニ於テ日々賣買取引スル物件ノ種類ニ依リ左ノ種別ニ從ヒ直取引ト定期取引トヲ區畫シ役員之ヲ調定シ表ヲ作リテ市場ニ掲示スヘシ。

寄付相場（賣買立會ノ最初ニ賣買取引シタル一口ノ直段ヲ云フ）

大引相場（賣買立會ノ最終ニ賣買取引シタル一口ノ直段ヲ云フ）

最昂相場（賣買立會中最モ高キ直段ヲ云フ）

最低相場（賣買立會中最モ低キ直段ヲ云フ）

平均相場（賣買立會中相場ノ異ナルモノヲ加ヘ更ニ其數ニテ除シタル直段ヲ云フ）

第四十八條　取引所ノ創立ニ係ル費用ヲ支辨スル爲メ一時負債ヲ起スコトヲ得此場合ニ於テハ償却ノ方法及年限ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

取引所ノ經費ヲ支辨スル爲ニ賣買取引上ニ就キ手數料ヲ徵收スルノ外各會員ニ賦金

ヲ課スルコトヲ得

取引所經費ノ豫算額及其賦課徴收ノ方法ハ總會ニ於テ之ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四十九條　取引所ノ經費ハ毎年兩度收支ノ決算ヲナシ會員一同ニ報告スヘシ

第九章　會議

第五十條　會議ヲ分テ總會役員會ノ二トナス

第五十一條　總會ハ委員一同集會シ毎年二回之ヲ開クモノトス

第五十二條　總會ニ於テ議スヘキ事項ハ左ノ如シ

一　賣買取引上ノ利害得失ニ關スル事項　二　取引所經費ノ豫算額及賦課徴收ノ方法

三　取引所維持ニ關スル事項　四　役員ノ選舉

第五十三條　役員會ハ理事長理事及常置委員集會シテ之ヲ開ク其議スヘキ事項ハ左ノ如シ

一　取引所規約ノ改正　二　仲買人ノ口錢額

三　取引所事務ノ整理及賣買取引ノ便否　四　金錢取扱ノ方法

五　臨時必要ノ事項

第五十四條　總會ハ委員三分ノ一以上ノ請求又ハ理事長ノ意見若クハ常置委員ノ衆議ニ依リ臨時開會スルコトヲ得

第五十五條　總會ハ議員ノ半ニ滿タサレハ議事ヲ開クコトヲ得ス但急遽ノ事件ハ此限ニアラス

第五十六條　會議ハ議員過半數ニ由テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ルヘシ

第五十七條　會議ハ理事長之レカ議長トナルヘシ

但條例第十七條後項ノ場合ニ於テハ議員中ヨリ議長ヲ選舉スルコトヲ得

第五十八條　臨時總會ヲ開カントスルトキハ開會ニ先チ議件ヲ詳記シ農商務省ニ屆出ヘシ農商務大臣ハ時宜ニ由リ開議ヲ差止メ又ハ中止スルコトアルヘシ

第十章　報告

第五十九條　役員ハ左ニ掲クル件々ヲ農商務省ニ報告スヘシ

一　毎日公定相場表　二　毎月賣買景況報告

三　毎半季功程及計算報告　四　毎半季會員入退報告

第六十條　取引所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引上ニ異狀アルトキハ其時々役員ヨリ農商務省ニ報告スヘシ

第十一章　帳簿

第六十一條　役員會員及仲買人ハ必要ノ諸帳簿ヲ備ヘ名目用法ヲ農商務省ニ屆出ヘシ其帳簿ハ記載ノ末日ヨリ滿五ケ年間保存スヘシ

第六十二條　役員會員及仲買人ハ毎日取扱タル事項及金錢ノ出納ヲ帳簿ニ詳記スヘシ農商務大臣ハ時宜ニ由リ帳簿ノ補正ヲ命シ又ハ記載ノ方法ヲ指示スルコトアルヘシ

第十二章　仲裁

第六十三條　仲裁ヲ請フ者アルトキハ理事長ニ於テ常置委員中ヨリ三名以上ノ掛員ヲ撰任シ理事長之カ議長トナリ仲裁ヲ爲スヘシ

仲裁ハ一定ノ期日及時間ニ於テ其事實ヲ審理シ之ヲ爲スモノトス

第六十四條　仲裁ヲ請フ者ハ口頭又ハ書面ヲ以テスルモ妨ケナシ但掛員ニ於テ必要トムル場合ニ於テハ書面ヲ出サシムルコトヲ得

第六十五條　仲裁ヲ請フモノ其取調ヲ受クルトキハ自身出頭スヘシ止ヲ得サル事故アルトキニ限リ會員ハ手代仲買人ハ補助員ヲ以テ代理タラシムルコトヲ得

第六十六條　仲裁ノ言渡ヲ爲ストキハ掛員一同其言渡書ニ記名調印スヘシ但細事ニ限リ口頭ヲ以テ言渡スモ妨ケナシ

第六十七條　掛員必要ト認ムルトキハ會員及仲買人中ヨリ證據人ヲ召喚スルコトヲ得

此場合ニ於テ召喚セラレタルモノハ理由ナク之ヲ辭スルコトヲ得ス

第六十八條　掛員ハ其仲裁ヲ爲シタル事件ヲ詳記シ之ヲ保存スヘシ

第六十九條　掛員ハ仲裁ニ關スル費用ヲ曲者ヨリ差出サシムルコトヲ得

第七十條　掛員ハ會員外ノ者ヲ以テ仲裁事件ノ顧問トナシ又ハ仲裁ノ席ニ參セシムルコトヲ得

第十三章　違犯處分

第七十一條　本則ニ違犯シタル者ハ條例ニ據リ處分セラルヽモノヽ外貳圓以上貳拾五圓以下ノ罰金又ハ二日以上二十五日以下ノ禁錮ニ處ス

○株式取引所條例　明治十一年五月四日第八號布告

明治七年(十月)第百七號布告株式取引條例相廢シ更ニ別冊ノ通相定候條此旨布告候事

(別冊)

株式取引所條例

第一章　株式取引所創立及開業ノ事

第一條　株式取引所ハ株式仲買人ノ集會シテ日本政府ノ諸公債證書及日本政府ノ條例ヲ遵奉シテ發行シタル銀行並諸會社ノ株券等ヲ賣買取引スル所ナリ而メ之ヲ創立セントスルモノハ其創立願書ヘ其地方長官ノ奥書ヲ受ケ之ヲ農商務省ヘ差出シ農商務卿ノ允許ヲ請フヘシ(十四年第四十二號布告ヲ以テ(大藏省大藏卿)トアルヲ(農商務省農商務卿)ト改ム以下同シ)

第二條　此條例ヲ遵奉シテ株式取引所ヲ創立スルニハ其發起人少クトモ十名以上ニシテ其資本金額ハ拾萬圓以上タルヘシ而シテ其資本金總高ノ半數以上ニ當ル金額ヲ右發起人總員ニテ出スヘシ(十三年第五十七號布告ヲ以テ(貳拾萬圓)ヲ(拾萬圓)ト改ム)

第三條　農商務卿ハ此創立願書ヲ受領シテ其許可スヘキヤ否ヲ考案シ或ハ之ヲ許可シ或ハ之ヲ許可セサルヿアルヘシ

第四條　發起人右創立許可ヲ受クルニ於テハ諸般ノ規程ヲ議定シテ創立證書及定款申合規則各二通ヲ製シ株主一同記名調印ノ上地方長官ノ奥書證印ヲ受ケ之ヲ農商務省ヘ差出スヘシ

但創立證書及定款等ハ創立許可ヲ得タル日ヨリ遲クトモ三ケ月間ニ差出スヘシ若

シ右期限内ニ差出サヽルトキハ其許可ハ無効ニ屬スヘシ

第五條　右創立證書及定款申合規則ハ左ノ主旨ニ從ヒ各取引所ノ便宜ニ依テ之ヲ製定スヘシ然レトモ必ス此條例ノ旨趣ニ抵觸スルヲ得サルヘシ

創立證書ハ取引所ヲ創立スルニ付株主一同決定シタル綱領ノ條件及ヒ其責任ノ有限或無限（有限責任トハ負債償却ノ義務ニ於テ該取引所ノ株券限リ或ハ其株券ノ二倍等其限アルヲ云ヒ無限責任トハ株主一同相連帶シテ各自ノ資力ヲ竭スニ至ルヲ云フ）ヲ明記シ必ス之ヲ遵守踐行スヘキ旨ヲ政府ニ對シ保證スルモノナリ

定款ハ取引所ヲ創立スルニ付株主一同其取引所ノ便宜ヲ商量決定シテ互相確守スヘキ約束條款ヲ記載スルモノナリ

申合規則ハ賣買取引ニ付賣買主雙方ノ間ニ於テ取引所ニ對シ確守スヘキ規程ヲ記載スルモノナリ

第六條　農商務卿ハ右創立證書及定款申合規則ヲ檢按シテ不都合ナシト思考スルニ於テハ之ニ奥書證印ヲ加ヘ免狀ト共ニ之ヲ其取引所ニ下付シテ開業ヲ許スヘシ

但爾后取引所ノ都合ニヨリ其創立證書及ヒ定款申合規則ヲ改正加除セントスル片ハ其時々農商務卿ノ認許ヲ受クヘシ

第七條　取引所ハ開業前ニ於テ其營業保證ノ爲メ資本金高ノ三分二以上ニ當ル現金又ハ公債證書（大藏省ヨリ指定スル價格ヲ以テ）ヲ農商務省ニ差出シ預置クヘシ

但シ開業免狀ヲ得タル後滿五ケ月ニ至リ猶本文ノ手續ヲナサス又ハ開業セサルトキハ其免狀ハ取消タルヘシ

第八條　取引所ハ開業ノ日ヨリ滿五ケ年ノ間其營業ヲ保續スルヲ得ヘシ右滿期ニ至リ尚ホ營業セント欲スル片ハ更ニ允許ヲ受クヘシ

第九條　取引所ニ於テ開業免狀ヲ受ケタル上ハ其免狀並ニ創立證書ノ寫ヲ添ヘ何月何日ヨリ其商業ヲ創ムヘキ旨ヲ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ世上ニ公告スヘシ

第二章　株主並ニ株手形ノ事

第十條　各株主ヨリ入金シタル金額ハ分テ百圓以上一定ノ株式トナシ株手形ヲ製シ其株主タルモノヘ之ヲ交付スヘシ

第十一條　株主ハ其取引所ノ營業時間ハ何時ニテモ其金員及ヒ諸帖簿ヲ檢閲スルヿヲ得ヘシ

第十二條　株主ハ何等ノ事故アルトモ其取引所解散ノ期ニ至ラサル間ハ其株金ヲ取戻スヿヲ得ス

第十三條　株主ハ其取引所ノ承認ヲ得タル上其所持ノ株式ヲ賣渡シ又ハ讓渡シヲナスヿヲ得ス

第十四條　株主タルモノハ其取引所ノ役員タラサル時間ハ何時ニテモ仲買人タルヲ得ヘシト雖モ仲買人トナリタル片ハ仲買人ノ規則ヲ遵守スヘシ而メ賣買上ニ於テハ之ヲ仲買人ト稱スヘシ

第三章　仲買人ノ事

第十五條　丁年ニシテ仲買人トナラント欲スル者ハ次條ニ定ムル身元金ヲ差入レ取引

所ノ承認ヲ得タル上仲買人トナラントスル願書ヲ農商務卿ニ捧ケ其認許ヲ受クヘシ

仲買人ハ他人ノ委托ヲ受ケテ賣買取引ヲ爲スト自己ノタメニ爲ストヲ問ハス取引所ニ對シテハ其賣買取引上一切ノ責任ヲ負フヘシ（十三年第廿號布告ヲ以テ全條改正）

第十六條　株式仲買人ノ身元金ハ貳百圓以上金銀仲買人ノ身元金ハ千圓以上タルヘシ

同上

第十七條　仲買人ハ丁年者ニ限ルヘシ且ツ一度身代限ノ處分ヲ受ケタル者ハ其負債ノ義務ヲ免レタル實證アルニ非サレハ入社ヲ許サヽルヘシ

第四章　役員ノ丁

第十八條　取引所ノ役員ト稱スルモノハ左ノ如シ

頭取　肝煎

其他支配人書記方計算方等ノ名義ヲ以テ役員ヲ定ムルハ取引所ノ便宜ニ任ス

第十九條　取引所ノ肝煎ハ五名以上トシ株主ノ總會ニ於テ取引所ノ定規ニ從ヒ現ニ三十株以上ヲ所持スル株主中ヨリ之ヲ撰擧シ肝煎ハ其同僚中ヨリ頭取壹人ヲ推擧シ其住所姓名年齢等ヲ大藏卿ニ具申シテ其認許ヲ受クヘシ大藏卿ハ時トシテハ其改撰ヲ命スルヿアルヘシ

支配人以下ノ役員ハ頭取肝煎ノ衆議ニ依リ株主又ハ株主ニアラサル者ヲ撰任スルヿヲ得同上

第二十條　取引所役員ノ在職年限ハ一ケ年タルヘシ

第廿一條　頭取ハ取引所ノ事務ヲ總轄シ取引所一切ノ責ニ任スヘシ

第廿二條　頭取肝煎ハ其仲買人賣買上ノ差縺レヲ解キ違約者ヲ處分スルノ責任アリトス

第廿三條　取引所諸役員職務上ノ責任權限等ハ其取引所ニ於テ適當ノ規程ヲ設ケ之ヲ定款中ニ記載スヘシ

第五章　一般ノ規程

第廿四條　外國人ヲ取引所ノ株主並仲買人ト爲スヿヲ得ス

第廿五條　取引所ニ於テ株式賣買取引ヲナス者ハ其取引所ノ承認ヲ經タル仲買人ニ限ルヘシ

第廿六條　（十四年第廿八號布告ヲ以テ刪除）

第廿七條　取引所ノ役員タルモノハ其取引所ニ於テ賣買本人又ハ仲買人トナルヘカラス

第廿八條　取引所ノ役員及ヒ仲買人ハ他ノ株式取引ヲ爲ス會社ノ役員又ハ仲買人或ハ他ノ銀行並ニ諸會社（官許ヲ經タル合本會社）ノ役員タルヲ得ス

第廿九條　取引所ハ其營業ノ爲メ緊要ナル地所家屋ヲ除クノ外地所家屋ヲ所持スルヲ許サス又之ヲ賣買スヘカラス

第三十條　政府ニ於テ賣買ヲ許シタル諸公債證書及ヒ政府ノ條例ヲ遵奉シテ發行シタル銀行並諸會社ノ株券等ノ賣買ヲ除クノ外此取引所ニ於テ一切他ノ物件ヲ賣買シ他

ノ事業ヲ營ムヘカラス

但本條ニ掲載セサル諸會社ノ株券ト雖モ其營業確實ナリト認ムルモノハ農商務卿ニ於テ其賣買ヲ許可スルヲ得（十三年第五十七號布告但書追加）

第三十一條　取引所ハ第一章第七條ニ掲ケタル營業保證ノ爲メ農商務省ヘ預クヘキ公債證書ヲ除クノ外自ラ諸公債證書諸株券等ヲ賣買シ又ハ之ヲ所持スヘカラス又貸附金ヲナスヘカラス

第三十二條　取引所ハ諸證據金ヲ使用スヘカラス

第三十三條　取引所ニ於テ違約人ヲ處分スルハ其違約ニ依リ取引所ノ取引上ニ於テ失ヒタル利得ト蒙リタル損害トヲ其者ノ證據金及ヒ身元金ヲ以テ償ハシメ其者ヲ除名スルニ止ルヘシ而シテ仍ホ其損失ヲ償フコト能ハサルトキハ取引所ニ於テ其責ニ任スヘシ（十三年第二十號布告ヲ以テ全條改正シ十五年六十四號布告ヲ以テ又全條改正ス）

第三十四條　取引所ハ其取引所ニ於テ株式等ノ賣買ヲ認許シタル銀行並諸會社及ヒ新立會社ノ株式ヲ賣買スルヿノ依頼ヲ受ルト雖モ其事情ニヨリ之ヲ停止シ又ハ之ヲ許否スルノ權ヲ有ス

第三十五條　取引所ノ諸願屆又ハ諸證書約定書及往復ノ文書等取引所一般ニ關スル事件ハ頭取肝煎等コレニ記名調印スヘキハ勿論ナレ𪜈必ス其取引所ノ名ヲ署シ取引所ノ印ヲ捺スヘシ

第六章　賣買取引ノヿ

第三十六條　取引所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ現場ト定期ノ二條ニ分チ必ス現物ノ受渡シヲ爲スヘシ

但三ヶ月ヨリ永キ定期ノ約定ヲナスヘカラス

第三十七條　凡取引所ニ於テ賣買ノ約定ヲナシ其定期ニ係ルモノハ約定金高百分ノ五宛ニ下ラサル證據金ヲ賣買雙方ヨリ差入ル可シ而シテ其期限中相庭ノ高低等ニヨリテハ追證據金增證據金等ヲ差入シムルヿヲ得ヘシ

第三十八條　約定取引ノ期限ニ至ツテハ其品種ニ依リ記名書替等其他受渡シノ手續ハ政府又ハ諸會社ノ成規ニ照シ之ヲ履行スヘシ

第三十九條　約定期限內ニ於テ之ヲ轉賣スルヲ得ヘシト雖𪜈其期日ニ至レハ必ス現物ノ受渡ヲ爲スヘシ

第四十條　賣買主ニ於テ諸證據金ノ差入レヲ怠リ又ハ期限ニ至リテ其約定ヲ履行セサル者ハ都テ之ヲ違約人ト爲スヘシ（十五年第六十四號布告ヲ以テ全條改正）

第七章　手數料ノヿ

第四十一條　取引所ニ於テ賣買者雙方ヨリ領收スヘキ手數料ハ取引所ニ於テ相當ノ額ヲ定メ大藏卿農商務卿ノ認可ヲ受クヘシ

第四十二條　手數料ハ其決算ノ時ニ至リ賣買取引ニ關係スル他ノ債主ニ先ツテ之ヲ收受スルヿヲ得ヘシ

第八章　檢査ノヿ

第四十三條　農商務卿ニ於テ要用ト思考スル片ハ何時ニテモ官員ヲ派遣シ或ハ其地方

（十八年十一月廿八日第三十七號布告ヲ以テ本條改正）

長官ヘ達シテ其取引所ノ業體及ヒ金銀其他諸帖簿等ヲ檢査セシムルヿアルヘシ

第九章　帖簿ノヿ

第四十四條　取引所ハ毎日取扱ノ事項ハ勿論金銀ノ出納等凡テ之ヲ詳明正確ニ記載シ且其簿記ノ方法ニ於テ農商務卿ノ差圖アルトキハ其差圖ニ從フヘシ

第四十五條　取引所ニ於テ製定使用スル處ノ諸帖簿ハ其名目用法ヲ詳記シ之ヲ農商務省ヘ屆出ツヘシ

第十章　諸報告ノヿ

第四十六條　取引所ハ賣買實際ノ報告及金銀出納表其他役員ノ進退並株主仲買人ノ姓名等ヲ農商務卿ノ指命スル處ニ從ヒ時々報告ヲナスヘシ

第十一章　納稅ノヿ

第四十七條　此取引所ハ追テ政府ニ於テ制定施行スル所ノ收稅規則ニ遵ヒ相當ノ稅金ヲ納ムヘシ

第十二章　罰則

第四十八條　取引所ノ役員及株主並仲買人等此條例ヲ犯スカ又ハ役員タルモノ株主並仲買人ノ此條例ニ背戻シタルヲ不問ニ措キ又ハ背戻セシメタル實證アルトキハ役員並ニ本人トモ其事ノ輕重ニ依リ三拾圓ヨリ少ナカラス千圓ヨリ多カラサル罰金ヲ科スヘシ

第四十九條　官員檢査ノ節取引所役員及ヒ仲買人等簿冊書類ヲ差出スコトヲ拒ミ又ハ疑問ニ答辯ヲ爲サヽル者アルトキハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ同上

第五十條　取引所ノ規約ニ背犯シタル役員及ヒ株主仲買人ヲ取引所限リ處分スルハ之ヲ除名スルカ或ハ過怠料ヲ取立ツルニ止ルモノトス同上布告ヲ以テ本條ヲ追加ス

但其過怠料ハ株金身元金ノ高ニ超ユルヲ得ス

第百八十三章　郵便條例

明治十五年十二月十六日第五拾九號布告

郵便條例別冊ノ通制定シ明治十六年一月一日ヨリ施行ス

右奉　勅旨布告候事

（別冊）

郵便條例

第一章　郵便物

第一條　凡郵便物別テ四種ト爲ス

一　書狀

二　郵便葉書及往復葉書十七年第三十三號布告ヲ以テ(及)以下五字ヲ追加ス

三　毎月一回以上發行スル定時印刷物及其附錄

四　書籍、帳簿、各種ノ印刷物、寫眞、書畫、罫紙、營業品ノ見本及雛形

第二條　何品ヲ問ハス此條例ニ抵觸セサルモノハ第一種郵便物トナスヲ得

第三條　封緘シタル郵便物ハ第一種郵便物トナスヘシ

第四條　第二種郵便物ヲ他種ノ郵便物ト合裝スルトキハ總テ第一種郵便物トナスヘシ

第五條　第二種郵便物左ニ記載シタル所爲アルトキハ第一種郵便物トナスヘシ

一截斷又ハ破却シタルモノ

一稅額印面ニ文字ヲ書シタルモノ

一稅額印面ニ郵便切手ヲ貼付シタルモノ

一紙配達又ハ返戻ノ爲ニスルモノヲ除ク其他ノ品ヲ貼付シタルモノ

一一葉ヲ折リ之ヲ全ク糊着シ又ハ數葉ヲ合セ之ヲ全ク糊着シタルモノ

一表面ニ音信文ヲ記載シタルモノ

第六條　第三種郵便物ハ其發行人ヨリ定時印刷物タルヲ証シテ驛遞總官ノ認可ヲ受ケ驛遞局認可ノ文字ヲ印刷スヘシ但其文字標題番號及發行ノ年月日ヲ見易カラシムヘシ

其附錄ハ其本紙ノ標題番號及發行ノ年月日ヲ印刷シ冊子トナサスシテ本紙ニ添付シ且本紙ノ重量ニ超過セサルモノニ限ルヘシ

第七條　第三種第四種郵便物ハ封緘セサルモノトス

第八條　第三種第四種郵便物ニ音信文又ハ暗號隱語ヲ筆書スルトキハ第一種郵便物トナスヘシ

第九條　營業品ノ見本及雛形ハ雙方又ハ一方營業者ト往復スルモノニ限ルヘシ

第十條　營業者ニアラサルモノヽ間ニ往復スル見本及雛形ハ第一種郵便物トナスヘシ

第十一條　異種ノ郵便物ヲ合裝スルトキハ總テ其種類中高額稅ヲ課スヘキ郵便物トナスヘシ但第四條ニ記載シタルモノハ此限ニアラス

第十二條　郵便物ノ重量ハ郵便切手封皮帶紙ノ重量ヲ合算スルモノトス

第十三條　第三種第四種郵便物（營業品ノ見本及雛形ヲ除ク）ハ一個ノ重量三百目ニ超過スヘカラス

第十四條　營業品ノ見本及雛形ハ一個ノ重量四十八匁ニ超過スヘカラス

第十五條　郵便物ノ大サハ曲尺ニテ長一尺二寸幅八寸厚五寸ニ超過スヘカラス

第十六條　左ニ記載シタルモノハ郵便物トナスヘカラス

一毒藥、劇藥、爆發燃燒シ易キ物品

一流動物、流動腐敗シ易キ物、孵化スヘキ物、動物、植物、鋒刀器、硝子器、陶器等他ノ郵便物ヲ傷害スヘキ物品但十分ノ豫防ヲ爲シ郵便局若クハ郵便受取所ノ承諾ヲ受ケタル後郵便ニ差出スモノハ此限ニアラス

第二章　郵便稅

第十七條　郵便稅ハ郵便物ノ種類ニ從ヒ其額ヲ定ム

第一種郵便物　重量二匁毎ニ（二匁未滿亦同シ）　二錢

第二種郵便物　葉書一葉（十七年第三十三號布告ヲ以テ葉書一錢トアルヲ以テ本條ヲ改正）　一錢

往復葉書一葉（葉書一葉一錢往復葉書一葉二錢ト改ム）　二錢

第三種郵便物　一號一個重量十六匁毎ニ（十六匁未滿亦同シ）　一錢

二號又ハ二個以上一束重量十六匁毎ニ（十六匁未滿亦同シ）　二錢

第四種郵便物　重量八匁毎ニ（八匁未滿亦同シ）　二錢

第十八條　郵便稅ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス郵便封皮葉書往復葉書帶紙ハ切手ヲ貼付シタルト同般ナリトス但驛遞總官ト約定アルモノハ此限ニアラス同上（葉書）ノ下（往復葉書）ノ四字ヲ加フ

第十九條　納稅ニ用ヒタル郵便切手幷封皮葉書往復葉書帶紙ノ稅額印面ハ郵便局ニ於テ消印スヘシ同上

第二十條　郵便稅ニ過納アルモ已ニ其稅額印面ニ消印シタル後ハ之ヲ還付セス

第二十一條　未納稅又ハ不足稅ノ郵便物ハ受取人ヨリ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ受取人其郵便物ヲ受取リタルトキハ其納稅ヲ拒ムヘカラス受取人其郵便物ヲ受取ラスシテ差出人ニ還付スルトキハ其差出人ヨリ其額ノ三倍ヲ徵收スヘシ

第二十二條　未納稅又ハ不足稅ノ便郵物配達シ能ハス差出人ニ還付スルトキハ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ差立前ニ係ル未納稅又ハ不足稅ノ郵便物ヲ差出人ニ還付スルトキ亦同シ

第二十三條　第十三條第十四條第十五條ニ背戻スル郵便物ヲ差出人ニ還付スルトキハ未納稅又ハ不足稅ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第二十四條　人民ヨリ官廳ニ差出ス郵便物ハ郵便稅完納ニ限ルヘシ未納稅又ハ不足稅ノモノハ差出人ニ還付シ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第二十五條　未納稅又ハ不足稅ヲ徵收スルトキハ郵便局ニ於テ郵便切手ヲ郵便物ニ貼付シ其切手ニ未納又ハ不足ノ印ヲ捺シ其証トナスヘシ

第三章　郵便切手封皮葉書往復葉書帶紙

第二十六條　郵便切手郵便封皮郵便葉書往復葉書郵便帶紙ハ日本政府ニ於テ發行セシモノタルヘシ同上

第二十七條　郵便切手封皮葉書往復葉書帶紙ハ郵便稅納ノ証トナシ又郵便切手ハ書留手數料幷別配達料納濟ノ証トナスモノトス同上

第二十八條　郵便封皮ヲ用ユルトキ其郵便物ノ重量ニ因テ稅額ニ不足ヲ生スルトキハ郵便切手ヲ以テ之ヲ補フヘシ

第二十九條　郵便封皮ノ價位ハ其印面ノ稅額ニ製造費ヲ加ヘタル額ヲ以テ驛遞總官之ヲ定ムヘシ

第三十條　郵便帶紙ハ第三種郵便物一號一箇ヲ以テ達スルモノニ用ユヘシ但重量十六匁以下ノモノニ限ルヘシ

第三十一條　郵便帶紙ハ第三種郵便物發行人若クハ賣捌人ノ請求ニ依リ驛遞局ニテ賣下クヘシ

第三十二條　郵便切手封皮葉書往復葉書ヲ賣ルモノハ驛遞總官ノ免許ヲ受ケ郵便切手賣下所ノ標板ヲ掲クヘシ同上

第三十三條　郵便切手封皮葉書往復葉書ハ郵便局郵便受取所郵便切手賣下所ノ外ニ於テ賣買スヘカラス同上

第三十四條　郵便局郵便受取切手賣下所ハ郵便切手封皮葉書往復葉書ノ印面稅額ヨリ低價ヲ以テ賣ルヘカラス同上

第三十五條　郵便封皮往復葉書帶紙ノ稅額印面ヲ切取リ郵便切手ニ代用スルモ其効用ヲ有セス同上

第三十六條　郵便切手幷封皮葉書往復葉書帶紙ノ汚斑毀損捺印アルモノ及稅額印面不明瞭ナルモノハ其効用ヲ失フ然レ𪜈其未タ使用セサルモノニ限リ二人以上ノ證人ヲ立テ其原由ヲ明瞭ナラシムルトキハ驛遞局ニ於テハ四枚以上聯續シタル郵便切手幷封皮葉書往復葉書帶紙ヲ其所持人ノ請求ニ依リ定價十分一減ニテ買戻スヘシ同上

第四章　免稅郵便

第三十八條　郵便、郵便爲替及貯金ノ事務ニ關スル郵便物ハ其稅ヲ免除ス

第三十九條　免稅郵便物ハ驛遞局郵便局府縣廳府縣所屬廳郡區役所幷以上各廳派出官吏相互ノ間又ハ之ト往復スルモノニ限ルヘシ

第四十條　免稅郵便物ハ表面ニ郵便事務爲替事務貯金事務ノ文字ヲ記載スヘシ

第四十一條　官廳ニ宛テ又ハ官廳ヨリ差出ス免稅郵便物ハ官氏名若クハ廳名課名ヲ記載シ派出官吏ニ宛テ又ハ派出官吏ヨリ差出ス免稅郵便物ハ官氏名ヲ記載スヘシ

第四十二條　人民ヨリ差出ス免稅郵便物ハ宿所氏名ヲ記載スヘシ

第四十三條　免稅郵便物ニ他ノ音信文或ハ暗號隱語ヲ記載シ又ハ有稅郵便物ヲ附シタルモノハ相當種類ノ郵便稅ヲ徵收スヘシ

第五章　書留郵便

第四十四條　書留郵便物ハ郵便局ノ帳簿ニ登記シ遞送配達ノ受授ヲ証スルモノトス

第四十五條　書留手數料ハ郵便物ノ何種ニ拘ハラス六錢トス

第四十六條　書留郵便物ハ郵便稅手數料共前納ニ限ルヘシ

第四十七條　書留手數料ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス

第四十八條　書留郵便物ヲ差出ストキハ其表面ニ書留ト記載シ郵便局若クハ郵便受取所ニ於テ之ヲ主務者ニ交付シ印刷シタル式紙ニ郵便局若クハ郵便受取所ノ印及主務者ノ印ヲ捺セル受取証書ヲ受領スヘシ

第四十九條　書留郵便物ノ配達ヲ受ケタルモノハ其差出人及受取人ノ氏名配達ノ年月日ヲ記シタル受取證書ニ調印スヘシ本人不在ナルトキハ其代人記名調印スヘシ

第五十條　免稅郵便物ハ書留手數料ヲ納ムルニ及ハス

第六章　郵便物遞送配達

第五十一條　郵便物遞送配達ハ郵便局ニ於テ之ヲ管スルモノトス

第五十二條　郵便局ノ廢置ハ驛遞總官新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第五十三條　郵便物ハ其宛名ノ家ニ配達シ二名以上ニ宛タルモノハ其內ノ一名ニ配達スヘシ肩書寄宿所ノ類以下之ニ倣フアルモノハ其肩書ノ家ニ配達スヘシ

第五十四條　完納稅郵便物宛名ノ家ニ於テハ其配達ヲ拒ムヘカラス免稅郵便物亦同シ
但市外別配達料舟船料貨幣遞送配達賃ニ追納アルモノハ此限ニアラス

第五十五條　未納稅又ハ不足稅ノ郵便物受取人ニ於テ其稅ヲ納メサルトキハ之ヲ受取ルヲ得ス

第五十六條　郵便物ヲ開封シ又ハ其帶紙或ハ結束ヲ脫シ或ハ音信文ヲ讀過スルトキハ之ヲ受取リタルモノトナスヘシ但第百十五條ノ郵便物ハ此限ニアラス

第五十七條　郵便物配達ヲ受ケタル肩書ノ家ニ於テ其受取人移轉シタルトキハ直ニ之ヲ其配達人ニ還付スルカ或ハ其郵便物ニ加記又ハ附箋シ再ヒ郵便ニ出スヘシ但受取人ニ達スル爲メ其家ニ留メ置クモ日數三十日ニ過クヘカラス

第五十八條　其家ニ屬セサル郵便物ノ配達ヲ受ケタルトキハ其由ヲ附箋シ速ニ之ヲ郵便ニ出スヘシ
其郵便物ヲ誤テ開封シタル片ハ更ニ封緘シ其事由ヲ副書シ速ニ之ヲ郵便ニ出スヘシ

第五十九條　配達シ能ハス或ハ未納稅又ハ不足稅ヲ受取人ニ於テ納メサル郵便物ハ之ヲ其差出人ニ還付スヘシ但二名以上ヨリ差出シタルモノハ之ヲ其內ノ一名ニ還付スヘシ

第六十條　第十三條第十四條第十五條ニ背戾スル郵便物ハ之ヲ差出人ニ還付スヘシ

第六十一條　差立前ニ係ル郵便物ハ差出人ノ請求ニ依リ之ヲ還付スルヿアルヘシ

第六十二條　第四種郵便物ハ次便ヲ以テ遞送スルコトアルヘシ

第六十三條　遞送及集配ノ途中ニ係ル郵便物ハ其郵便物ノ受取人タリトモ受授スヘカラス

第六十四條　郵便局所在地ニ於テハ集配人ニ郵便物ノ差出方ヲ委托スヘカラス又集配人ハ其委托ヲ受クヘカラス

第六十五條　郵便物ハ差出人ノ爲メ郵便局ニ於テ之カ秤量ヲナサス

第六十六條　郵便物ノ損害紛失及其損害紛失又ハ遲達ヨリ生シタル損失ハ驛遞局之ヲ償フノ責ニ任セス

第六十七條　書狀ハ郵便局ヲ經由セサレハ之ヲ送達シ又ハ送達セシムヘカラス但左ニ記載シタルモノハ此限ニアラス

一送達料ヲ拂ハス臨時ニ親族朋友雇人ノ類ヲ以テ其發信者ヨリ受信者ニ直ニ達スルモノ

一郵便ニ依ル能ハサル事故アリテ臨時ニ特使ヲ以テ其發信者ヨリ受信者ニ直ニ達スモノ

一貨物ト共ニ發スル無封ノ添狀

第六十八條　軍艦及海軍所屬ノ船舶ヲ除キ凡內國各地ニ往復スル船車ノ所有主若クハ其代理者ハ驛遞局又ハ郵便局ヨリ左ニ記載シタル運送賃額ヲ以テ郵便物ノ運送ヲ托スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス但別段ノ約定アルモノハ此限ニアラス

一第一種郵便物ハ一個一錢ニ超過セサル額

一第二種以下ノ郵便物ハ一個五厘ニ超過セザル額

第六十九條　郵便物運送ノ約定ヲ爲シタルモノ或ハ運送ノ托ヲ受ケタルモノ其出發ノ日時ヲ定メ若クハ既定ノ日時ヲ變更スルトキハ速ニ之ヲ其地ノ郵便局ニ屆出ツヘシ

第七十條　時期ヲ定メテ郵便物運送ノ命ヲ受ケタルモノハ其期ヲ變更スヘカラス

第七十一條　郵便物ノ運送ヲ爲スモノハ其郵便物ヲ安全ニ保護スヘシ

第七十二條　郵便物ヲ積載セル船舶ハ到達地ニ於テ其郵便物ヲ陸揚セシ後ニアラサレハ他ノ積載セル貨物ヲ陸揚スヘカラス

第七十三條　郵便物配達又ハ還付ヲ受ケタルモノ郵便局ニ於テ調査ノ爲メ其郵便ノ封皮帶紙又ハ葉書往復葉書ノ交付ヲ求メラルヽトキハ之ヲ拒ムヘカラス但郵便切手貼付アルモノハ其儘交付スヘシ

第七章　別配達郵便

第七十四條　別配達郵便物ハ書留郵便ニ限ルモノニシテ通常配達ノ例ニ拘ハラス別ニ急速ノ配達ヲナスモノトス

第七十五條　別配達別テ二種ト爲ス

一市內郵便局所在地別配達

一市外郵便局未設地別配達

第七十六條　市內別配達料ハ東京京都及大阪ハ拾錢其他ノ市內ハ六錢トス

第七十七條　市外別配達料ハ配達ノ郵便局ヨリ受取人ノ住所ニ至ル路程ニ應シ十八町毎ニ六錢トス十八町未滿亦同シ

第七十八條　別配達ハ郵便稅並別配達料共前納ニ限ルヘシ

第七十九條　別配達料ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタル者トス

第八十條　市外別配達ハ配達地ニ到リ路程ノ差違ニ因テ其料ニ不足ヲ生スルモ其料六錢以上納濟ノモノ仍ホ別配達トシテ取扱ヒ受取人ヨリ其不足額ヲ徵收スヘシ

第八十一條　市外別配達料不足額ヲ徵收スルトキハ郵便局ニ於テ郵便切手ヲ郵便物ニ貼付シ其切手ニ不足ノ印ヲ捺シ其證トナスヘシ

第八十二條　船舶ニ達スル別配達ハ其船舶ノ碇泊所ニ從ヒ別配達料ノ外相當ノ艀船料ヲ受取人ヨリ徵收スヘシ

第八十三條　市外別配達料不足額又ハ艀船料ヲ受取人ニ於テ納メサルトキハ其郵便物ヲ受取ルヲ得ス其郵便物ハ差出人ニ還付シ其額ヲ徵收スヘシ

第八十四條　別配達郵便物ヲ受取リタルモノハ市外別配達料不足額又ハ艀船料ノ納付ヲ拒ムヘカラス

第八十五條　別配達ハ各郵便局ノ配達區域ニ拘ハラサルモノトス

第八十六條　甲郵便局所在地ニ達スルモノヲ乙郵便局ヨリ配達スルトキハ市外別配達トナスヘシ

第八十七條　市內別配達ハ其郵便物ノ表面ニ別配達ト記載スヘシ

第八十八條　市外別配達ハ其郵便物ノ表面ニ何地郵便局ヨリ別配達ト記載スヘシ若シ

其郵便局ヲ定メ難キトキハ單ニ別配達トノミ記載スヘシ

第八十九條　別配達トノミ記載セルモノハ各郵便局ノ配達區域ニ從ヒ其地ノ郵便局ヨリ配達スヘシ

第九十條　別配達郵便物受取人移轉シ其移轉先ニ達スルトキハ別配達トセスシテ配達スヘシ

第九十一條　免稅郵便物ハ別配達料舟船料ヲ納ムルニ及ハス

第八章　郵便私書函

第九十二條　郵便私書函ハ郵便局ニ設置シ其開閉ニ供スル適當ノ鍵ヲ渡シ貸與スルモノトス

第九十三條　私書函ノ借受人ニ宛テタル郵便物ハ其住所ニ配達セス私書函ニ入置クヘシ

第九十四條　私書函貸與料ハ一ヶ月金三圓以下ヲ以テ驛遞總官之ヲ定ムヘシ

第九十五條　私書函貸與期限ハ一ヶ月以上トシ其貸與料ヲ前納スヘシ

第九十六條　私書函借受人ニ宛テタル別配達書留及未納稅不足稅ノ郵便物ハ私書函ニ入レスシテ其住所ニ配達スヘシ

第九十七條　私書函ハ二人以上又ハ二會社以上ノ名ヲ以テ其一箇ヲ借受クルヲ得ス

第九十八條　私書函貸與ノ滿期ニ至ルトキハ速ニ其鍵ヲ郵便局ニ返納スヘシ之ヲ返納セサルトキハ前期ヲ續テ借受ケタルモノトナスヘシ

第九章　留置郵便

第九十九條　留置郵便物ハ表記地名ノ郵便局ニ留置キ受取人ヲ待テ交付スルモノトス

第百條　留置郵便物ハ其表面ニ何地郵便局留置ト記載スヘシ

第百一條　留置郵便物ヲ受取ルモノハ其受取人タルヲ書面或ハ口頭ヲ以テ證スヘシ

第百二條　留置郵便物ハ郵便稅完納ニ限ルヘシ

第百三條　未納稅又ハ不足稅ノ郵便物ヲ留置トナストキハ之ヲ差出人ニ還付シ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第百四條　留置期限ハ九十日ニ限ルヘシ

留置期限內ニ郵便物ヲ受取ラサルトキハ之ヲ差出人ニ還付スヘシ

第十章　貨幣封入郵便

第百五條　貨幣封入郵便物ハ驛遞總官ト約定アルモノヲシテ特別ノ方法ニ依リ之ヲ遞送配達セシムルモノトス

第百六條　貨幣封入郵便物ハ其重量ニ從ヒ第一種郵便物ノ稅ヲ前納シ別ニ封入ノ金額送達ノ路程ニ從ヒ貨幣遞送賃及配達賃ヲ通貨ニテ納ムヘシ但貨幣遞送賃ハ差出人ニ於テ前納シ配達賃ハ受取人ヨリ納ムヘシ

第百七條　貨幣遞送賃及配達賃額ハ驛遞總官各郵便局ニ掲示スヘシ

第百八條　封入ノ金額ハ三拾圓ニ超過スヘカラス

第百九條　封入ノ金額ハ其郵便物ノ表面ニ明記スヘシ

第百十條　貨幣封入郵便物ハ差出人ニ於テ同一ノ印判ヲ以テ四所以上封印ヲ捺スヘシ

第百十一條　同一ノ差出人ヨリ同一ノ受取人ニ差出ス貨幣封入郵便物ハ一日一個ニ限ルヘシ

第百十二條　貨幣封入郵便物ハ其表記ノ金額及封印ヲ證トシテ受授スヘシ

第百十三條　貨幣封入郵便物ヲ差出ストキハ郵便局ニ設ケアル員數證書用紙ニ式ノ如ク記載シ其郵便物ノ封印ニ用ヒタル印判ヲ捺シ郵便物及貨幣遞送賃ト共ニ之ヲ主務者ニ交付シ印刷シタル式紙ニ郵便局ノ印ヲ捺シ且主務者記名調印セル受取證書ヲ受領スヘシ

第百十四條　本人ノ封印ヲナシタル貨幣封入郵便物ヲ代人ヲ以テ差出シ員數證書ニ其代人ノ印ヲ捺ストキハ之ト同一ノ印ヲ其郵便物ニ四所以上添捺スヘシ

第百十五條　貨幣封入郵便物ニアラサル郵便物中貨幣封入アルヲ郵便局ニテ見出シ又ハ推察スルトキハ之ヲ貨幣封入郵便トシテ取扱ヒ到達地ノ郵便局ニテ其受取人ヲ召喚シ或ハ遞送約定アルモノヲ以テ配達シ受取人ニ開封セシメ封入ノ金額ニ從ヒ差立地ヨリノ路程ニ應シタル貨幣遞送賃及ビ配達賃ヲ受取人ヨリ徴收スヘシ

第百十六條　貨幣遞送賃又ハ配達賃ヲ受取人ニ於テ納メサルトキハ其郵便物ヲ受取ヲ得ス

其郵便物ハ差出人ニ還付シ其額幷還付ノ貨幣遞送賃及配達賃ヲ徴收スヘシ

第百十七條　貨幣封入郵便物配達シ能ハス之ヲ差出人ニ還付スルトキハ更ニ相當ノ貨幣遞送賃及前後ノ配達賃ヲ徴收スヘシ

第百十八條　貨幣封入郵便物ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印税ヲ納ムルニ及ハス

第百十九條　貨幣封入郵便物ヲ受取リタルモノハ其貨幣遞送賃又ハ配達賃ノ納付ヲ拒ムヘカラス

第百二十條　貨幣封入郵便物ニ事故ヲ生シ損失ヲ受クルモノアルモ驛遞局ハ之ヲ償フノ責ニ任セス

第百二十一條　郵便局主務者ノ疎虞懈怠ニ因リ貨幣封入郵便物ヲ失ヒタルトキハ主務者ヲシテ其貨幣ヲ償ハシムヘシ

第百二十二條　貨幣封入郵便物ヲ遞送配達中失ヒタルトキハ强盜難其他災變ニ罹リ看守者保護シ能ハサル實證アルモノヽ外約定人ヲシテ其貨幣ヲ償ハシムヘシ

第十一章　郵便沒書

第百二十三條　郵便沒書ハ配達シ能ハス又還付シ能ハサル郵便物ヲ驛遞局ニ沒入スルモノトス

第百二十四條　驛遞總官ハ沒書ヲ開封シ其文書ニ就テ更ニ其配達又ハ還付ヲ試マシメ尙ホ配達又ハ還付シ能ハサルモノハ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第百二十五條　沒書ハ公告ノ日ヨリ一ケ年間驛遞局ニ保存スヘシ

沒書中貨幣或ハ諸證書又ハ有價ノ物品アルトキハ驛遞局ノ帳簿ニ登記シ三ケ年間其沒書ヲ保存スヘシ但保存シ難キ物品ハ之ヲ賣却シ其代金ヲ領置スヘシ

第百二十六條　沒書ヲ一ケ年內ニ請求スルモノナキトキ及沒書中ノ貨幣諸證書有價ノ物品又ハ其賣却代金ヲ三ケ年內ニ請求スルモノナキトキハ之ヲ沒入スヘシ

第百二十七條　沒書中ノ貨幣諸證書有價ノ物品又ハ其賣却代金ヲ三ケ年內ニ請求スルモノアルトキハ之ヲ還付シ諸證書ハ手數料ヲ徵收セスト雖ヒ貨幣或ハ有價ノ物品ハ其價額十分一ヲ手數料トシテ徵收スヘシ但其額ハ五圓ニ超過スルヲ得ス

第百二十八條　沒書ノ受取方ヲ請求スルモノハ其受取人又ハ差出人タルヲ書面或ハ口頭ヲ以テ證スヘシ但驛遞局ニ於テ證人ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス

第十二章　便郵爲替

第百二十九條　郵便爲替ハ驛遞總官ノ指定スル郵便局ニ於テ取扱フモノトス

第百三十條　爲替ヲ取扱フ郵便局ハ驛遞總官新聞紙ヲ以テ公告スヘシ

第百三十一條　爲替證書一枚ノ金額ハ三拾圓以下トシ端數ハ厘位ヲ限リトス

第百三十二條　爲替料ハ驛遞總官之ヲ定メ新聞紙ヲ以テ公告シ及爲替ヲ取扱フニ掲示スヘシ

第百三十三條　同一ノ差出人ヨリ同一ノ受取人ニ宛テ同一ノ郵便局ニ於テ拂渡スヘキ爲替ノ振出ハ一日金額三拾圓ニ超過スヘカラス

第百三十四條　爲替差出人ハ郵便局ニ設ケアル爲替願書用紙ニ式ノ如ク記載調印シ爲替金及爲替料ト共ニ先ツ之ヲ主務者ニ交付シ後ニ爲替證書ヲ受領スヘシ

第百三十五條　爲替證書ハ其差出人ヨリ受取人ニ送付スヘシ

第百三十六條　爲替差出人ハ其振出局ニ爲替金ノ返戻ヲ請求スルヲ得但爲替料ハ返付セス

第百三十七條　爲替受取人ハ其爲替證書ニ記載シタル拂渡局ニテ爲替金ヲ受取ルニ不便ナルトキ又爲替差出人其振出局ニ爲替金ノ返戻ヲ請求スルニ不便ナルトキハ驛遞局ニ其證書ヲ納付シテ書換ヲ請求シ更ニ爲替金ヲ受取ルニ便ナル局ニ宛テタル證書ヲ受クルヲ得

第百三十八條　爲替金ノ拂渡及返戻ハ其爲替證書ト引替ニ限ルヘシ但郵便局ニ於テ證人ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス

第百三十九條　爲替受取人ハ其爲替證書ニ式ノ如ク記名調印スヘシ爲替差出人爲替金ノ返戻ヲ受ルトキ亦同シ

第百四十條　爲替報知書ニ記載セル諸件ヲ明瞭ニ答ヘ能ハサルモノハ其爲替金ヲ受取ルヲ得ス

第百四十一條　代人ヲ以テ爲替金ヲ受取ル者ハ其爲替證書ノ裏面ニ委任文ヲ記載シ記名調印シ且代人ハ第百三十九條ノ手續ヲナスヘシ

第百四十二條　官衙社寺會社ニ宛テタル爲替金ヲ受取ルトキハ其爲替證書ノ裏面ニ官、衙社寺會社ノ名稱ヲ記シ其印ヲ捺シ且之ヲ受取ル所屬人ハ第百三十九條ノ手續ヲナスヘシ

第百四十三條　官衙社寺會社ノ受取ルヘキ爲替金ニシテ其官衙社寺會社ノ名稱ヲ附記

シ其所屬人ニ宛テタルトキ宛名人自ラ受取ル能ハス又第百四十一條ニ依ル能ハサルトキハ第百四十二條ニ依ルヲ得

第百四十四條　官衙社寺會社若クハ其所屬人ノ名ヲ以テ差出シタル爲替金ノ返戻ヲ受クルトキモ第百四十二條第百四十三條ノ手續ニ依ルヘシ

第百四十五條　爲替證書ノ効用ハ其證書ノ日附ヨリ百二十日ヲ限リトス

第百四十六條　效用ヲ失ヒタル爲替證書ハ差出人又ハ受取人ヨリ驛遞局ニ納付シ其書換ヲ請求スヘシ

第百四十七條　爲替證書ノ効用ヲ失ヒタル日ヨリ二ケ年以内ニ其書換ヲ請求セサルトキハ驛遞總官新聞紙ヲ以テ公告スヘシ

其公告ノ日ヨリ三ケ年内ニ爲替證書ノ書換ヲ請求スルトキハ其爲替金十分ノ一ヲ手數料トシテ徴收スヘシ

其公告ノ日ヨリ三ケ年ヲ過ルモ尚ホ其爲替證書ノ書換ヲ請求セサルトキハ其爲替金ヲ沒入スヘシ

第百四十八條　爲替證書ヲ失ヒタルトキ又ハ汚斑毀損シ判明ナラサルトキハ差出人ニ於テ證人ヲ立テ驛遞局ニ其事由ヲ證明シ更ニ再度ノ證書ヲ請求スヘシ

第百四十九條　爲替金ヲ返戻シ又ハ證書ヲ書換ヘ或ハ再度ノ證書ヲ交付スル其原證書ニ對スル報知書ヲ取戻シタル後ニ限ルヘシ

第百五十條　爲替證書ノ書換又ハ再度ノ證書ヲ請求スルトキハ更ニ相當ノ爲替料ヲ納ムヘシ但郵便遞送中ニ生シタル事故ニ因ルモノハ更ニ爲替料ヲ納ムルニ及ハス

爲替證書ノ書換及再度ノ證書ヲ同時ニ請求スルモ兩樣ノ爲替料ヲ納ムルニ及ハス

第百五十一條　再度ノ爲替證書ヲ受領セシ後前キニ失ヒタル爲替證書ヲ見出シタルトキハ之ヲ驛遞局ニ納付スヘシ

第百五十二條　爲替資金ノ都合ニ因リ爲替金ノ渡方順延スルコアルヘシ

第百五十三條　爲替證書又ハ報知書ニ失誤アルカ或ハ其報知書未達ノトキハ爲替金ノ拂渡ヲ延引スヘシ

第百五十四條　爲替金ノ受渡ニ屬スル證書ハ證劵印稅ヲ納ムルニ及ハス

第百五十五條　郵便爲替ニ事故ヲ生シ損失ヲ受クルモノアルモ驛遞局ハ之ヲ償フノ責ニ任セス

第百五十六條　此章ノ規則ニ從ヒ爲替金ヲ渡シタル後ハ其渡方ニ就キ異議ヲ唱フルモ驛遞局ハ其責ニ任セス

第十三章　驛遞局貯金

第百五十七條　驛遞局貯金ハ驛遞總官ノ指定スル貯金預所ニ於テ取扱フモノトス

第百五十八條　貯金預所ハ驛遞總官新聞紙ヲ以テ公告スヘシ

第百五十九條　一人一度ノ預ケ金額ハ拾錢以上トシ端數ハ厘位ヲ限リトス

一日ノ預ケ金額ハ五拾圓以下トス

第百六十條　一度ニ五拾圓以上ヲ預ケントスルモノハ其都度貯金預所ニ設ケアル願書

用紙ニ式ノ如ク記載調印シ驛遞總官ノ認可ヲ請フヘシ

第百六十一條　貯金ニハ利子ヲ付ス其利子ノ割合ハ驛遞總官之ヲ定メ新聞紙ヲ以テ公告シ且貯金預所ニ掲示スヘシ但拾錢未滿ノ端數ニハ利子ヲ付セス

第百六十二條　貯金ヨリ生シタル利子ハ毎年六月十二月ニ於テ之ヲ元金ニ加ヘ驛遞局ノ原簿ニ登記スヘシ

第百六十三條　貯金ハ預リタル月ト拂戻ス月ハ利子ヲ付セス但驛遞局ヨリ拂戻證書ヲ發シタル月ヲ以テ拂戻月トナスヘシ

第百六十四條　貯金ヲ拂戻ストキ厘位未滿ノ端數ハ切捨ツヘシ

第百六十五條　始テ預ケ金ヲナスモノハ貯金預所ニ設ケアル預ケ願書用紙ニ式ノ如ク記載調印シ之ヲ其貯金預所ニ出スヘシ但印判ヲ所持セサルモノハ引受人ヲ立ツヘシ

第百六十六條　貯金預ケ人ハ貯金預所ニ於テ貯金通帳ヲ受領シ其表紙ニ式ノ如ク記載調印シ此通帳ヲ預ケ金ヲ爲ス毎ニ預ケ金ト共ニ貯金預所ノ主務者ニ交付シ預ケ金ノ記入ヲ受ケ其通帳ヲ所持スヘシ

第百六十七條　貯金通帳ハ預ケ金受授ノ證トナスヘシ

第百六十八條　貯金預所ニ於テ預ケ金ヲ受取ルトキハ通帳ニ其金額及年月日ヲ記入シ貯金預所ノ印ヲ捺シ且主務者記名調印スヘシ

第百六十九條　一ノ貯金預所ヨリ受領シタル通帳ヲ以テ何レノ貯金預所ニモ預ケ金ヲナスヲ得

第百七十條　既ニ貯金通帳ヲ受領シ所持セルモノハ何レノ貯金預所ニ於テモ別ノ通帳ヲ受領スルヲ得ス

第百七十一條　貯金通帳金額記載ノ部餘白ナキニ至リ更ニ通帳ヲ要スルトキハ驛遞局ニ其通帳ヲ差出シ再度ノ通帳ヲ請求スヘシ

第百七十二條　貯金預ケ人ハ滿六ケ月毎ニ驛遞局ニ貯金通帳ヲ差出シ原簿照合及利子記入ヲ受クヘシ

第百七十三條　預ケ金ヲナストキハ驛遞局ノ原簿ニ登記シ且貯金領收通知書ヲ其預ケ人ニ送達スヘシ

第百七十四條　貯金預ケ人ハ預ケ金ヲナシタル日ヨリ左ノ期日內ニ貯金領收通知書到達セサルトキハ其期日ヨリ十五日內又到達スルモ記載ノ金額並年月日ニ相違アルトキハ到達ノ日ヨリ十五日內ニ驛遞總官ニ宛テ其申告書ヲ出スヘシ但申告書ハ郵便局ニ出シ其受取證書ヲ受領スヘシ

一東京　十日
一東京ヨリ百里未滿　三十日
一東京ヨリ百里以外　六十日

第百七十五條　第百七十四條ノ申告書ヲ出サヽルトキハ其預ケ金額驛遞局ノ原簿ニ登記ナキカ或ハ原簿登記ノ金額年月日ト其預ケタル金額年月日ト符合セサルモ驛遞局ハ原簿ニ登記シタルモノヽ外其責ニ任セス

第百七十六條　貯金預ケ人ハ何レノ貯金預所ニ於テモ其貯金全額若クハ幾分ノ拂戻ヲ請求スルヲ得但未タ元金ニ加ヘサル利子ハ貯金ノ全額ヲ拂戻ストキニアラサレハ之ヲ受取ルヲ得ス

第百七十七條　貯金拂戻願人ハ貯金預所ニ設ケアル拂戻願書用紙ニ金額其他式ノ如ク記載調印シ通帳ヲ添ヘ貯金預所ヲ經由シテ驛遞局ニ出スヘシ但貯金預所ヨリ通帳ノ受取證書ヲ受領スヘシ

第百七十八條　第百七十七條ノ拂戻願書及通帳ヲ驛遞局ニ於テ領收シタルトキハ貯金拂戻證書ヲ拂戻願人ニ送達スヘシ

第百七十九條　貯金ノ全額ヲ拂戻ストキハ通帳ヲ返付セス又其幾分ヲ拂戻ストキハ驛遞局ニ於テ其通帳ニ拂戻金額及年月日ヲ記載シ官印ヲ捺シ且主務者記名調印シ貯金預所ヲ經テ之ヲ返付スヘシ

第百八十條　貯金拂戻願人ハ拂戻證書ニ式ノ如ク記名調印シ貯金預所ニ交付シ拂戻金ヲ受取ルヘシ

第百八十一條　代人ヲ以テ拂戻金ヲ受取ルモノハ拂戻證書ノ裏面ニ委任文ヲ記載シ記名調印シ且代人ハ第百八十條ノ手續ヲナスヘシ

第百八十二條　拂戻金ハ其拂戻證書ノ日附ヨリ左ノ期日內ニ受取ルヘシ期日ヲ失スルトキハ更ニ驛遞局ニ其證書ノ書換ヲ請求スヘシ但郵便遞送中ニ生シタル事故ニ因ルモノハ此限ニアラス

一東京　十五日
一東京ヨリ百里未滿　廿五日
一東京ヨリ百里以外　四十日

第百八十三條　貯金預ケ人死亡シタルトキハ其相續人ニ於テ證人ヲ立テ相續人タルヲ證スル書面ヲ出シ且其相續人ハ第百七十七條ノ手續ヲナシ貯金拂戻ヲ請求スヘシ

第百八十四條　預ケ金ヲナストキ引受人ヲ立ツルモノハ預ケ願書及拂戻願書其他調印ヲ要スル書類ニ氏名ヲ記シ其引受人亦記名調印スヘシ

第百八十五條　社寺會社ノ名ヲ以テ預ケ金ヲナストキハ預ケ願書及拂戻願書其他調印ヲ要スル書類ニ社寺會社ノ名稱ヲ記シ其印ヲ捺シ且擔當者一名記名調印スヘシ

第百八十六條　二人以上共同シテ預ケ金ヲナストキハ預ケ願書及拂戻願書其他調印ヲ要スル書類ニ其總代人一名記名調印シ且共同者中ノ一名記名加印スヘシ

第百八十七條　社寺會社及共同ノ貯金ハ其社寺會社若クハ其總代人ヲ以テ一個ノ預ケ人ト看做スヘシ

第百八十八條　貯金預ケ人氏名變換改印轉籍轉住スルトキハ其屆書ヲ驛遞局ニ出スヘシ

第百八十九條　貯金預ケ人ノ引受人社寺會社ノ貯金擔當者共同貯金ノ加印者氏名變換改印轉籍轉住スルトキハ貯金預ケ人連印（引受人アル貯金預ケ人ハ氏名ノミ連記）ノ屆書ヲ驛遞局ニ出スヘシ

第百九十條　貯金預ケ人ノ引受人社寺會社ノ貯金擔當者共同貯金ノ加印者變更アルトキハ後任者及貯金預ケ人連印（引受人アル貯金預ケ人ハ氏名ノミ連記）ノ屆書ヲ驛遞局ニ出スヘシ

第百九十一條　共同貯金ノ總代人ヲ變更セントスルトキハ前任後任ノ總代及加印者連印ノ願書ヲ驛遞局ニ出スヘシ但前任ノ總代人連印スル能ハサル片ハ證人ヲ立ツヘシ

第百九十二條　貯金預ケ人其引受人ヲ解カントスルトキハ印鑑ヲ添ヘ其引受人連印ノ屆書ヲ驛遞局ニ出スヘシ

第百九十三條　貯金通帳ヲ失ヒタルトキハ速ニ其屆書ヲ驛遞局ニ出スヘシ

第百九十四條　貯金通帳又ハ貯金拂戻證書ヲ失ヒタルトキ或ハ汚斑毀損シテ判明ナラサル片ハ證人ヲ立テ驛遞局ニ其事由ヲ證明シ再度ノ通帳又ハ拂戻證書ヲ請求スヘシ

第百九十五條　貯金通帳ヲ失ヒタルトキハ再度ノ通帳ヲ發シタル日ヨリ九十日間其貯金ノ拂戻ヲ請求スルヲ得ス

第百九十六條　再度ノ貯金通帳ヲ受領セシ後前キニ失ヒタル通帳ヲ見出シタルトキハ舊通帳ヲ驛遞局ニ納付スヘシ

第百九十七條　驛遞局ニ貯金通帳ヲ差出シ又ハ再度ノ通帳或ハ貯金拂戻ヲ請求シタル場合ニ於テ第百七十四條ニ記載シタル期日內ニ通帳返付ナキカ又ハ再度ノ通帳或ハ拂戻證書到達セサルトキハ驛遞總官ニ宛テ其申告書ヲ出スヘシ

第百九十八條　貯金通帳ハ賣買讓與又ハ書入質入スルヲ許サス

第百九十九條　驛遞局又ハ貯金預所ニテ證人ヲ要スルトキハ貯金預ケ人之ヲ拒ムヘカラス

第二百條　貯金ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印稅ヲ納ムルニ及ハス

第二百一條　貯金拂戻方延滯シ爲メニ預ケ人ノ損失ヲ生スルモ驛遞局ハ之ヲ償フノ責ニ任セス

第二百二條　此章ノ規則ニ從ヒ貯金ヲ拂戻シタル後ハ其拂戻方ニ就キ異議ヲ唱フルモ驛遞局ハ其責ニ任セス

第十四章　外國郵便

第二百三條　凡外國ニ差立ル郵便物別テ五項ト爲ス

一　書狀

二　郵便葉書及往復葉書（十七年第三十三號布告及以下追加）

三　書籍、各種ノ印刷物、寫眞、畫圖

四　詞訟上及商用上ノ書類

五　商品ノ見本

第二百四條　何品ヲ問ハス此章ノ規則ニ牴觸セサルモノハ第一項郵便物トナスヲ得

第二百五條　第三項第四項第五項郵便物ハ封緘セサルモノトス之ヲ封緘スルトキハ第一項郵便物トナスヘシ

第二百六條　第三項第四項第五項郵便物ニ音信文又ハ暗號隱語ヲ筆書スルトキハ第一項郵便物トナスヘシ

第二百七條　第三項第四項第五項郵便物ヲ第一項郵便物ト合裝スルトキハ總テ第一項郵便物トナスヘシ

第二百八條　第三項第四項郵便物ハ一個ノ重量ニ「キログラム」（九五百三十二匁四分零六毛）ニ超過スヘカラス

第二百九條　第五項郵便物ノ大サハ長二十「サンチメートル」（九曲尺六寸六分六厘）幅十「サンチメートル」（九一寸六分三厘）厚五「サンチメートル」（九一寸六分六厘）又其重量ハ二百五十「グラム」（九六十六匁五分五厘）ニ超過スヘカラス

第二百十條　第三項第四項第五項郵便物ヲ合裝スルトキ其重量ハ第二百八條ノ制限ニ超過スヘカラス但第五項郵便物ノ大サ及重量ハ第二百九條ニ據ルヘシ

第二百十一條　第二項郵便物ハ萬國郵便聯合葉書往復葉書ヲ用ユヘシ（同上布告ヲ以テ（葉書）ノ下（往復葉書）ノ四字ヲ加フ）

第二百十二條　第二項郵便物第五條ニ記載シタル所爲アルトキハ之ヲ差出人ニ還付スヘシ

第二百十三條　第五項郵便物ハ賣價ヲ付セサルモノニ限ルヘシ

第二百十四條　左ニ記載スルモノハ外國ニ差立ル郵便物トナスヘカラス

一流動物、流動腐敗シ易キ物、孵化スヘキ物、動物、植物、鋒刀器、硝子器、陶器等他ノ郵便物ヲ傷害スヘキ物品

一第十六條第一項第三項及第四項ニ記載シタル物品

第二百十五條　郵便聯約國ニ差立ル第三項第四項第五項郵便物ハ少クモ其郵便稅ノ一部分ヲ前納シタルモノニ限ルヘシ

（十九年二月第四號布告ヲ以テ本條改正）

第二百十六條　郵便聯約國外ニ差立ル郵便物ハ總テ郵便稅完納ニ限ルヘシ但到達地ニ於テ課スヘキ郵便稅ハ此限ニアラス

第二百十七條　第二百八條第二百九條第二百十條第二百十三條第二百十五條第二百十六條ニ背戻スル郵便物ハ差出人ニ還付シ未納稅又ハ不足稅ハ第十七條ノ割合ニ從ヒ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第二百十八條　書留郵便物ハ郵便稅書留手數料トモ前納ニ限ルヘシ

第二百十九條　郵便聯約國ニ差立ル書留郵便物ハ受取人ノ受取證書返送ヲ望ムヲ得之ヲ望ムトキハ郵便稅書留手數料ノ外增手數料ヲ前納スヘシ

第二百二十條　郵便稅書留手數料及增手數料ハ日本郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス

第二百二十一條　郵便稅書留手數料增手數料ノ割合郵便物ヲ差立テ得ヘキ國名及郵便爲替小包郵便ニ關スル事項ハ驛遞總官公告スヘシ

第二百二十二條　書留郵便物紛失ノ償金ヲ拂フヘキ約定アル國ニ差立ル書留郵便物ヲ內國又ハ同上約定アル外國ニテ遞送中紛失シタル國ノ驛遞局ニ於テ差出人又ハ差出人ノ望ニ依リ受取人ニ五十「フランク」（一フランクハ凡金貨二十錢）若クハ他ノ貨幣ニテ同額ノ償金ヲ拂フヘシ

書留郵便物紛失ノ償金ヲ拂フヘキ約定アル外國ヨリ內國ニ到達スル書留郵便物ヲ內國遞送中紛失シタルトキ亦同シ

刑法第百六十三條參看

第二百二十三條　軍艦及海軍所屬ノ船舶ヲ除キ凡内國ヲ發シ外國ニ航スル船舶ノ所有主若クハ其代理者ハ驛遞局又ハ郵便局ヨリ左ニ記載シタル運送賃額ヲ以テ郵便物ノ運送ヲ托スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス但別段ノ約定アルモノハ此限ニアラス

一第一項郵便物ハ一個二錢ニ超過セサル額

一第二項以下ノ郵便物ハ一個一錢ニ超過セサル額

第二百二十四條　第二十六條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條ノ規則ハ此章ノ郵便葉書往復葉書ニ亦適用スヘシ

第二百二十五條　第十二條第十九條第二十條第二十一條第一項第三項第二十二條第二十五條第四十四條第四十八條第五十一條第五十九條第六十一條第六十三條第六十四條第六十六條第二百二十二條ノ償金ヲ除ク第六十九條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第百條及第一章ノ規則ハ内國ヨリ外國ニ差立ル郵便物ニ亦適用スヘシ

第二百二十六條　第二十一條第一項第二項第二十五條第四十四條第四十九條第五十一條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第六十三條第六十六條第二百二十三條ノ償金ヲ除ク第七十三條第九十九條第百條第百一條第百四條第一項及第八章ノ規則ハ外國ヨリ内國ニ到達スル郵便物ニ亦適用スヘシ

十五章　罰則

第二百二十七條　第十六條第三十三條第三十四條第三十九條第七十條第二百十四條ヲ犯シタルモノハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百二十八條　第五十四條第六十三條第六十四條ヲ犯シタルモノハ五錢以上一圓九十五錢以上ノ科料ニ處ス

第二百二十九條　第五十七條第五十八條ヲ犯シタルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十條　第六十七條ヲ犯シタルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

遞送配達ヲ以テ營業トナスモノハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十一條　第六十八條第二百二十三條ヲ犯シタルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十二條　懈怠故意ヲ問ハス第七十一條第七十二條ヲ犯シタルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十三條　郵便封皮葉書往復葉書帶紙ヲ僞造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス同上

第二百三十四條　已レニ屬セサル郵便物ヲ開封シ又ハ毀損汚穢シ或ハ私用賣却抑留隱匿拋棄シ若クハ之ヲ受取人ニアラサルモノニ交付シ及其情ヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲナシタルモノハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

郵便事務ヲ奉スルモノ自ラ犯シタルトキハ官吏傭人約定人ヲ論セス本刑ニ一等ヲ加フ

第二百三十五條　郵便事務ヲ奉スルモノ自己若クハ他人ノ爲メニスルヲ問ハス郵便物ヲ不當ノ方位ニ遞送シタルトキハ第二百三十四條第一項ノ刑ニ一等ヲ加フ

第二百三十六條　疎處懈怠ニ因テ郵便物ヲ失ヒタルモノハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

書留郵便ニ係ルトキハ二圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十七條　有稅ヲ以テ免稅トシ其他詐僞ヲ以テ郵便稅ヲ免レタルモノハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

郵便事務ヲ奉スルモノ自ラ犯シ又ハ情ヲ知テ其郵便物ヲ遞送配達シ或ハ自己ノ受ケタル郵便物ノ未納稅又ハ不足稅ヲ免レタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

第二百三十八條　不良ノ事ヲ行ハンカ爲メ郵便ヲ用ヒタルモノハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

行フ處不良ノ罪重キモノハ重キニ從テ論ス

第二百三十九條　驛遞總官ノ認可ヲ得スシテ郵便物ニ驛遞局認可ノ文字ヲ用ヒタルモノハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

郵便物運送ニ使用セサル船車ニ郵便ノ記章又ハ郵便ノ文字ヲ用ヒタルモノ亦同シ

第二百四十條　未納稅又ハ不足稅及ヒ別配達料舟船料貨幣遞送配達賃私書函貸與料ヲ五日內ニ納メサルモノハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

郵便事務ヲ奉スルモノ徴收スヘキ郵便稅別配達舟船料料貨幣遞送配達賃私書函貸與料ヲ徴收セサルトキ亦同シ

第二百四十一條　郵便事務ヲ奉スルモノ郵便物ニ貼用セル郵便切手ヲ剝取ルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其未タ消印ヲナサヽル切手ヲ剝取ルモノハ刑法竊盜ノ本條ニ照シテ處斷ス

第二百四十二條　郵便爲替事務ヲ奉スルモノ郵便爲替金及爲替料ヲ領收セスシテ爲替證書ヲ振出シ又ハ爲替証書ヲ受取ラスシテ爲替金ヲ渡シタルトキハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

驛遞局貯金ノ事務ヲ奉スルモノ預ケ金ヲ領收セスシテ貯金通帳ニ預ケ金ノ記入ヲナシ又ハ拂戻証書ヲ受取ラスシテ貯金ヲ拂渡シタルトキ亦同シ

第二百四十三條　郵便事務ヲ奉スルモノ諸般ノ計數ヲ僞ルトキハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十四條　郵便物ニ押用セル印面ヲ變換シタルモノハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十五條　郵便配達人配達先ニ於テ謝儀ヲ要求シタルトキハ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二百四十六條　郵便函郵便行囊其他郵便ノ器械ヲ毀損汚穢シタルモノハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十七條　渡船人郵便物ノ渡津ヲ怠慢遲緩シタルトキハ五拾錢以上壹圓九拾五

錢以下ノ科料ニ處ス

第二百四十八條　第二百三十三條第二百三十七條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサルモノハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百四十九條　第二百三十三條第二百三十七條第二百四十一條第二百四十二條第二百四十三條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スルモノハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第二百五十條　本章罰則ノ外刑法ニ正條アル者ハ刑法ニ據テ處斷ス

○郵便線路里程表

明治十四年九月十四日第七拾九號官省院(使)廳府縣ヘ達

東京ヨリ各府縣ヘノ郵便線路里程表明治九年(三月)第二十四號ヲ以テ相達置候處爾後道路變換里程伸縮相生シ候ニ付別表ノ通改正候條此旨相達候事

別表

〔ノ里位ク丁位ヶ間位以下尺位〕

東京ヨリ各府縣ヘノ實測里程一覽表

府縣名	元標地名	里程	府縣名	元標地名	里程
東京	日本橋		福島	上町	陸羽街道通リ 七〇ノ三〇ク〇五ヶ三
京都	三條大橋	東海道通リ 一三〇ノ二四ク四〇ヶ四	岩手	盛岡紺屋町	仙臺通リ 一四〇ノ一九ク四六ヶ
大坂	高麗橋	京都ヲ經テ 一四三ノ二六ク一二ヶ一	青森	米町	仝 一九一ノ二七ク五〇ヶ三 米澤通リ 二〇二ノ二三ク二七ヶ二
神奈川	横濱本町	神奈川ヲ經テ 八ノ一七ク三三ヶ三	沖繩縣ヲ除ク		

兵庫	神戸市場町	京都ヲ經テ 一五三ノ二七ク二四ヶ	山形	七日町	仝 九四ノ三四ク五二ヶ
長崎	外浦町	京都及ヒ小倉ヲ經テ 三四五ノ三三ク二一ヶ五	秋田	久保田大町	仝 一五〇ノ〇一ク五一ヶ
新潟	本町	三國通リ 八九ノ一六ク〇四ヶ五	福井	照手上町	名古屋及ヒ番場ヲ經テ 一四〇ノ三四ク〇三ヶ二
		若松ヲ經テ 一〇〇ノ一九タ一七ヶ三	石川	金澤尾張町	高田ヲ經テ 一二七ノ二二ク一二ヶ三
		高田ヲ經テ 一〇八ノ三〇ク五一ヶ三			名古屋及ヒ福井ヲ經テ 一六三ノ一四ク二六ヶ三
埼玉	浦和中町	中山道通リ 六ノ〇三ク二〇ヶ一	島根	松江竪町	京都及ヒ津山ヲ經テ 二二三ノ三二ク五五ヶ四
千葉	本町	市川ヲ經テ 一〇ノ一四ク五二ヶ四	岡山	橋本町	京都及ヒ姫路ヲ經テ 一八九ノ二四ク一五ヶ四
茨城	水戸下市七軒町	土浦通リ 二九ノ三二ク一六ヶ二	廣島	細工町	仝 二三三ノ三五ク四一ヶ一
群馬	前橋連雀町	熊谷及ヒ伊勢崎ヲ經テ 二八ノ〇六ク〇五ヶ	山口	大市町	京都及ヒ廣島ヲ經テ 二六九ノ一六ク四三ヶ一
櫟木	佐野町	小山ヲ經テ 二二ノ一九ク〇八ヶ四	和歌山	京橋	大坂ヲ經テ 一六一ノ〇六ク一四ヶ四
三重	津 掲示場	四日市ヲ經テ 一一二ノ一一ク五五ヶ三	德島	西横町	明石ヲ經テ淡路通リ 一八二ノ三三ク五三ヶ
愛知	名古屋鐵砲町	熱田ヲ經テ 九四ノ〇六ク一三ヶ四	愛媛	松山札ノ辻	下津井及ヒ丸亀ヲ經テ 二四八ノ三三ク一四ヶ二
靜岡	吳服町	東海道通リ 四六ノ一〇ク二ヶ五	高知	本町掲示場	仝 二三九ノ二七ク五二ヶ四
山梨	甲府錦町	甲州街道通リ 三五ノ一九ク三四ヶ五	福岡	橋口町	小倉及ヒ山家ヲ經テ 三一一ノ二九ク一五ヶ三
滋賀	大津上京町	東海道通リ 一二七ノ三四ク五五ヶ四	大分	頑田橋	京都及ヒ小倉ヲ經テ 三二〇ノ二六ク一〇ヶ一
岐阜	白木町	名古屋ヲ經テ 一〇三ノ二六ク三八ヶ三	熊本	新町	小倉及ヒ久留米ヲ經テ 三三二ノ二八ク一〇ヶ
長野	大門町	中山道追分ヲ經テ 五八ノ三三ク五九ヶ二	鹿兒島	山下町	小倉及ヒ熊本ヲ經テ 三八八ノ二六ク〇二ヶ二

宮城 仙臺大町 陸羽街道福島ヲ經テ九二ノ二九ク三九彡

明治十四年五月改正

○官報ヲ購求シ更ニ郵便ニ差出ストキ取扱方

明治十六年十一月九日 第三拾六號布達

官報ヲ購求シ更ニ郵便ニ差出ストキハ第三種郵便物ト爲シテ取扱ヒ其冊子ト爲シ又ハ本紙ノ重量ニ超過シタル附錄ハ第四種郵便物ト爲シテ取扱フヘシ

右布達候事

○諸運輸營業ニ關スル取締規則等施行ノ節屆出方

明治十七年三月十日 農商務省第五號警視廳府縣ヘ達

街道橋梁車馬行旅宿泊其他運輸營業ニ關スル諸取締規則等施行致候節ハ自今必ス當省ヘモ可屆出儀ト可相心得此旨相達候事

但從前施行致候向ハ來四月三十日限取纏メ差出スヘシ

○郵便爲替細則

十八年九月七日 農商務省告示第二十號

郵便爲替細則左ノ通相定メ明治十八年十月一日ヨリ施行候條此旨告示候事

郵便爲替細則

第一章 總則

第一條 郵便爲替ハ爲替差出人ヨリ拂込ミタル金員ニ對シ甲郵便局ニ於テ爲替證書ヲ交付シ乙郵便局ニ於テ其證書ニ對シ爲替金ヲ拂渡スモノトス

第二條 爲替證書ニハ差出人受取人ノ氏名ヲ記載セス其氏名宿所等ハ差出人ノ指示スル處ニ從ヒ甲振出局ヨリ乙振渡局ニ報知スルモノトス

第三條 爲替金額圓位以上ノモノハ驛遞總官特ニ指定スル郵便局ニ於テ差出人ノ望ニ依リ電信ヲ以テ報知スルコトヲ得

第四條 爲替證書ハ驛遞局ニ於テ發行シタル式紙ニ限ルヘシ其證書ノ雛形左ノ如シ

爲替證書雛形

郵便爲替證書

振出日附印 何年 何月 何日 何國 何郵便局

證書番號 何號何番

拂渡日附印

一金何圓錢厘

右者拙者ヨリ相廻シ置候爲替報知書ニ照シ規則之通手數ノ上御渡可有之候也

何國何郡何郵便局氏 何國 何郵便局 名印

金高再記 圓 錢 厘 何 何 何

爲替金受取人記名調印

驛遞局

郵便爲替報知書

振出日附印　何年何月何日　何國郵便局

證書番號　何號何番

一金何圓錢厘

右者左ノ上部ニ記ス氏名ノ者ヨリ下部ニ記ス氏名ノ者ヘ可差送金高ニテ其金高ハ當局ヘ受取候ニ付即其局ヘ宛テ爲替證書相渡候條受取方申出候ハヽ如規則手數ノ上御渡可有之此段及報知候也

何國何郡何郵便局
氏名印

何國
何郵便局

拂渡日附印

差出人宿所氏名	宿所　氏名	受取人宿所氏名	宿所　氏名

驛遞局

電信ニ依テ發シタル爲替ノ證書ニハ前ニ示ス表中各區畫ノ外ニ「番號」「振出局名」「電報着日」ノ三區畫又再渡爲替證書ニハ「振出局名」ノ一畫ヲ備フルモノトス

第五條　爲替差出人又ハ爲替證書再渡ヲ請求スルモノハ爲替料又ハ爲替料及手數料ヲ前納スヘシ但電信ヲ以テ爲替ヲ報告スルコトヲ望ムトキハ別ニ電報料ヲ納ムヘシ

爲替證書再渡ヲ請求スル場合ニ在リテハ其爲替料及手數料ハ便宜原爲替證書金額ノ内ヨリ引去リ納ムルコトヲ得

第六條　爲替差出人自ラ爲替金ヲ差出シ能ハサルトキ或ハ差出人又ハ受取人自ラ證書再渡ヲ請求シ能ハサルトキハ代人ヲ立テ爲替裏書又ハ請求書ニ本人記名調印シ代人亦代人ノ肩書ヲナシテ記名調印スヘシ但別紙ニ委任文ヲ記シ記名調印シテ差出ストキハ此限ニアラス

爲替受取人自ラ爲替金ヲ受取ル能ハサルトキハ代人ヲ立テ本人ニ於テ爲替證書ノ裏面又ハ別紙ニ委任文ヲ記シ記名調印シ代人ハ爲替證書相當ノ位置ニ代人ノ肩書ヲナシテ記名調印スヘシ

第七條　爲替ニ屬スル金錢ヲ受授スルトキハ相互ニ目前ニ於テ之ヲ計算スヘシ

第八條　差出人ニハ振出局ニ於テ其拂込金ニ對スル受領證書ヲ交付スヘシ

差出人ハ其受領證書ノ相當ノ位置ニ差出人受取人ノ宿所氏名ヲ記載シテ之ヲ保存シ後日爲替金ノ返戻又ハ證書再渡ヲ請求スルトキノ證憑トナスヘシ

第九條　爲替受取人又ハ差出人死亡等ノ場合ニ於テハ其相續人等ヨリ事實ヲ證明シ證

人ヲ立テ爲替金ノ拂渡ヲ請求スルコトヲ得

第十條　爲替差出人又ハ受取人印形紛失等ノ爲メ爲替金ノ受授ニ關スル願書證書等ニ調印シ能ハサルトキハ其旨ヲ附記シ證人ヲ立ヘシ

第十一條　爲替金ノ受授ニ關シ證人トナリ事實ヲ證明シタルモノハ其受授ニ關スル願書證書等ニ記名調印シ其事由ヲ附記スヘシ

第十二條　爲替金ノ拂渡ヲ請求スルモノハ郵便局吏員ノ尋問ニ對シ差出人受取人ノ宿所氏名等ヲ陳述スヘシ

又必要ノ場合ニ於テハ郵便局吏員ニ對シ該吏員ノ滿足スヘキ證人ヲ立テ又ハ正當受取人タルコトヲ證明スヘキ證據物ヲ該吏員ニ展示シ若クハ之ヲ差出スヘシ

第十三條　爲替金ノ拂渡ヲ請求スルモノアルトキ左ニ掲クル事故アル場合ニ在リテハ郵便局ニ於テ拂渡停延證書ヲ其請求人ニ付與シ爲替金ノ交付ヲ停延スルヿアルヘシ

一爲替證書調製上違式ノトキ若クハ其證書ニ對スル報知書未達又ハ不符合ノトキ

一爲替資金ノ補充金未達ノトキ

第十四條　規則上爲替金ノ交付ヲ停延シタル間ハ爲替證書有効期限ノ經過ヲ中止スルモノトス

第十五條　爲替取扱時間ハ爲替ヲ取扱フ郵便局前ニ掲示スヘシ

爲替取扱休日ハ左ノ如シ

一月一日二日三日　新年宴會　孝明天皇祭　紀元節

春季皇靈祭　神武天皇祭　秋季皇靈祭　神宮神嘗祭

天長節　新嘗祭　日曜日

第十六條　驛遞局上版ノ料紙ヲ用フヘキ願書請求書等ノ式紙ハ爲替ヲ取扱ノ郵便局ニ於テ申受クヘシ

第二章　爲替振出

第十七條　爲替ヲ願出ルモノハ上版ノ願書式紙ニ式ノ如ク記載調印シ爲替金及爲替料ヲ添ヘ之ヲ郵便局吏員ニ差出シ爲替證書及受領證書（其爲替電信ニ依ルトキハ受領證書ノミ）ヲ受收スヘシ

其爲替願書ニハ受取人人違ヲ生セサル豫防トシテ家號又ハ商標ノ略符等ヲ附記スルモ妨ケナシ但其爲替電信ニ依ルトキハ此限ニアラス

願書ノ書體ハ最明瞭ヲ要シ後日取調上差支ヲ生セサルヲ主トシ差出人受取人ノ宿所ハ其詳畧ヲ斟酌シ又其氏名ハ固有ノ文字ヲ用フヘシ但其爲替電信ニ依ル場合ニ在リテハ願書ニ本ヲ受クル便宜ナル郵便局ヲ指定スヘシ且名宛ノ郵便局ハ受取人爲替金字ヲ以テ記載シタル差出人受取人ノ宿所氏名ノ傍ニ片假名文字ヲ附記スヘシ

第十八條　爲替ヲ願出ルモノアルトキハ振出局吏員ハ爲替願書ニ依リ差出人ノ指定シタル郵便局ヲ宛テ爲替證書ヲ調製シ拂込金ニ對スル受領證書ト共ニ之ヲ差出人ニ交付シ且爲替願書ノ諸件ヲ其名宛ノ郵便局ニ報知スヘシ但電信ニ依ルトキハ其特則ニ據ルヘシ

第十九條　爲替願書ニ差出人又ハ受取人二名以上連帶ノ場合ト雖モ各一名ヲ記載スヘ

シ

第二十條　差出人旅行先又ハ一時寄留ノ場所ニ於テ爲替ヲ願出ルトキハ爲替願書ニ本籍住所ヲ記載シ尚其宿所ヲ附記スヘシ

第二十一條　差出人ハ受取人ニ於テ拂渡局吏員ノ尋問ニ對シ爲替報知書ニ記載アル諸件ヲ陳述シ得ル爲メ爲替願書ニ書入レタル諸件ヲ受取人ニ通知スヘシ（其爲替電信ニ依ルトキハ通知セサルモナシ）但詐僞ヲ避クル豫防ノ爲メ此通知ハ爲替證書ヲ遞送スル信書トナルヘク同時ニナスヘカラス

第二十二條　代人ヲ以テ爲替ヲ願出ルトモ爲替報知書ニ其氏名ヲ記入セサルヲ以テ一般ノ例トス但其氏名ヲ報知スルコトヲ望ムモノ爲替願書ニ其旨ヲ附記シタル場合ハ此限ニアラス

第二十三條　差出人爲替證書ヲ受取リタル後差出人受取人氏名宿所等ノ認メ方相違シタル事アルトキハ其振出局ニ訂正願書ヲ差出スヘシ但電信ニ依リ爲替ヲ報知シタル場合ニ在リテハ相當ノ電報料ヲ納ムヘシ

第二十四條　差出人爲替金ノ返戻ヲ要スルトキハ前ニ受收シタル拂込金受領証書ヲ振出局ニ返納シ爲替金ヲ受取ルヘシ但受領証書紛失ノ場合ニ於テハ其爲替金高番號及振出月日等ヲ記載シタル爲替金返戻願書ヲ差出スヘシ

第三章　爲替拂渡

第二十五條　爲替證書ノ金額ハ差出人ノ指定セル拂渡局ニ於テ其振出局ノ爲替報知書ニ照ラシ受取人ヲ尋問シタル後拂渡スモノトス

第二十六條　爲替證書ノ金高番號又ハ受取人ノ答辯等爲替報知書ニ符合セサルカ又ハ報知書未達等ノ事故アルトキハ拂渡局ニ於テ受取人ニ拂渡停延書ヲ交付シ其事故ヲ振出局ニ問合スヘシ

受取人ハ停延書ノ滿期ニ至リテ更ニ爲替金ノ拂渡ヲ申出テ尚ホ規則ノ通手數ノ上爲替金ヲ受取ルヘシ

第二十七條　若シ前條ノ場合ニ於テ振出局ヨリ回付セル更訂報知書ノ金額證書ノ金額ニ過不及アリテ證書金額ノ誤ナルヿ判明シタルトキハ其受取人ハ證書ノ裏面ニ現實受取ルヘキ金額及其事故ヲ記載記名調印シ其金ヲ受取ルコトヲ得

第四章　爲替證書再渡

第二十八條　爲替證書再渡ヲ要スルトキハ次キニ掲クル第二十九條乃至第三十一條ニ從ヒ爲替差出人若クハ受取人ハ上版ノ請求書式紙ニ式ノ如ク記載調印シ爲替ヲ取扱フ郵便局ヲ經由シテ驛遞局ニ請求スヘシ

第二十九條　左ノ場合ニ於テハ爲替差出人ヨリ證書再渡ヲ請求スヘシ但拂込金受領證書ヲ返納スヘシ

一爲替證書紛失シタルトキ又ハ汚斑毀損シテ金高番號印章等必要ノ部分不判明ニナリタルトキ

一爲替證書ニ示ス振出局ニテ爲替金ノ返戻ヲ受クルニ不便ノ爲メ他局ニ於テ返戻ヲ

受クルコトヲ要スルトキ

第三十條　左ノ場合ニ於テハ爲替受取人ヨリ證書再渡ヲ請求スヘシ

一爲替證書ニ示ス拂渡局ニテ爲替金ヲ受取ルニ不便ノ爲メ拂渡局ノ變更ヲ要スル片

第三十一條　左ノ場合ニ於テハ爲替差出人又ハ受取人ヨリ證書再渡ヲ請求スヘシ但差出人ヨリ請求スルトキハ拂込金受領證書ヲ返納スヘシ

一爲替證書有効期限ヲ失ヒタルトキ

第五章　電信ニ依ル爲替ノ特則

第三十二條　電信ニ依テ爲替ヲ發スルトキハ振出局ニ於テ差出人ノ拂込金ニ對シ受領證書ヲ交付シ爲替願書ニ差出人ノ指定シタル郵便局ニ願書ノ諸件ヲ電報スヘシ

第三十三條　拂渡局ハ電信報知ニ由リ爲替證書ヲ調製シ爲替ノ諸件ヲ其受取人ニ通報スヘシ

受取人ハ拂渡局ノ通報ニ依リ其通知書ヲ拂渡局吏員ニ差出シ爲替證書ヲ受取ルヘシ

第三十四條　前條ノ通知ヲ發シタル日ヨリ七日以内ニ爲替證書ノ渡方ヲ請求セサルトキハ拂渡局ヨリ更ニ受取人ニ通報スヘシ

其通報ノ日ヨリ尚七日以内ニ證書渡方ヲ請求セサルトキハ振出局ヲ經テ之ヲ其差出人ニ交付スヘシ

第三十五條　拂渡局ヨリ前條ノ證書到達シタルトキハ振出局ニ於テ其旨ヲ差出人ニ通報スヘシ

十九年十二月通信省告示第百六號ヲ以テ第六章追加

差出人ハ振出局吏員ニ前ニ受收シタル受領證書ヲ示シ振出局ノ通知書ト引換ヘ爲替證書ヲ受取ルヘシ

第三十六條　前二條ノ順序ヲ經タル後ハ再渡電報ニ依リテ其爲替金ヲ受授スルコトヲ得ス故ニ差出人證書ヲ受取リタル後尚其爲替金ヲ受取人ノ受取ルコトヲ望ムトキハ其證書ヲ受取人ニ廻送スヘシ若シ其爲替金ノ返戻ヲ要スルトキハ差出人ニ於テ第二章第二十四條ノ手續ヲナスヘシ

第六章　爲替金渡濟通知

第三十七條　爲替差出人其爲替金ノ渡濟通知ヲ要スルトキハ豫メ振出局ニ之ヲ請求スヘシ

第三十八條　爲替金渡濟ノ通知ハ拂渡局ニ於テ爲替金ヲ拂渡ストキ通知書ニ受取人ノ證印ヲ取リ即日之ヲ差出人ニ送付スルモノトス

第三十九條　爲替金渡濟ノ通知料ハ爲替證書壹枚ニ付金貳錢トス

第四十條　通知料ハ郵便切手ヲ以テ納ムヘシ其切手ハ爲替願書又ハ小爲替原符ニ貼付スヘシ但通知料ニ用ヒタル郵便切手ハ振出局ニ於テ消印シ納濟ノ証トス

第四十一條　爲替金返戻ノ場合ニ於テモ既納ノ通知料ハ還付セス

第四十二條　通知料納濟ノ爲替ハ振出局ニ於テ其爲替証書（電信爲替ハ領收證書）ニ通知料納濟ノ印ヲ押捺シ交付スヘシ

第四十三條　受取人ハ通知料納濟ノ爲替ヲ受取トキ拂渡局ノ求メニ隨ヒ通知書ニ記名

（十九年三月遞信省告示第十二號ヲ以テ第一項中加除ヲ除ク但書加筆）

調印スヘシ又小爲替ニアリテハ其差出人ノ宿所氏名ヲ陳述スヘシ

第四十四條　爲替金渡濟ノ通知ヲ脫漏シタルトキハ其通知料ヲ還付スヘシ

第四十五條　通知料還付ハ爲替振出ノ日ヨリ六箇月內ニ差出人ヨリ驛遞局長ニ請求スヘシ此期限ヲ過クルトキハ之ヲ還付セス

○郵便往復葉書使用方法（十七年十二月二十七日農商務省告示第十一號）

本年本月第三十三號ヲ以テ布告相成候郵便往復葉書使用方法左ノ通相定候條此旨告示條事

郵便往復葉書使用方法

一郵便往復葉書ハ發信人發信ノトキ發信返信兩紙連續ノ儘發信紙ヲ使用スルモノトス若シ又發信ノトキ發信返信兩紙ニ文字ヲ記載セルトキハ返信紙モ亦使用濟ノモノト認ムヘシ

但發信ノトキ返信紙ノ表面ニ返信ニ用ユヘキ差出人受取人ノ宿所氏名ヲ記載シ又ハ返信紙ノ裏面ニ返信用ノ文言ノ幾部ヲ記入シタルモノハ使用濟ト認メス又發信ノトキ返信紙ヲ截斷シ發信紙ノミ差出スヿヲ得ヘシ

一郵便往復葉書ハ返信人返信ノトキ發信紙ヲ除却シ使用スルモノトス若シ返信人發信紙ヲ除去セサルトキハ郵便局ニ於テ之ヲ除去シ遞送スヘシ

○郵便受取所驛遞貯金預所及郵便支局ヲ置キ事務取扱方ヲ示ス（十九年四月二十二日遞信省令第六號）

地方ニ便宜郵便受取所ヲ置キ貨幣封入郵便ノ外郵便物ノ受附及郵便切手賣下ノ事務ヲ取扱ハシメ又驛遞貯金預所ヲ置キ貯金受拂ノ事務ヲ取扱ハシム

一等二等郵便局區內須要ノ場所ニ郵便支局ヲ置キ本局ノ事務ヲ分掌セシム

○郵便條例中驛遞總官ヲ遞信大臣驛遞局長ヲ遞信管理局長トノ心得（十九年七月一日遞信省告示第六十六號）

郵便條例第二十九條第百二十四條第百二十九條第百三十二條第百五十七條第百六十一條ニ驛遞總官トアルハ遞信大臣第六條第十八條第五十二條第九十四條第百五條第百七條第百三十條第百四十七條第百五十八條第百七十四條第百九十七條第二百二十一條第二百三十九條ハ驛遞局長第三十二條第百六十六條ハ遞信管理局長ト心得ヘシ

○地方郵便局電信局便宜合併ヲ得セシム（十九年十一月十六日同月十七日官報閣令第三十號）

第一條　地方郵便局及電信分局ハ土地ノ情況ニ依リ便否ヲ斟酌シテ之ヲ合併シ其事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第二條　郵便局及電信分局ヲ合併シタルトキハ郵便電信局ト稱シ局長ハ郵便電信局長書記ハ郵便電信書記ト稱ス

第三條　郵便局及電信分局ヲ合併シタルトキ其局ノ等級ハ郵便局及電信分局ノ高キモノニ依ル

○郵便條例中驛遞局長驛遞局等改稱ヲ心得シム（二十年三月二十六日遞信省告示第三十五號）

郵便條例第六條驛遞局長及驛遞局第六十六條第百二十條第百二十三條第百二十五條第百二十八條第百五十五條第百五十六條第二百一條第二百二條第百七十五條金額年月日ト符合セサルモノ下驛遞局第二百三十九條ノ驛遞局長及驛遞局ハ遞信省第十八條第百五條ノ驛遞局長ハ內信局長第三十一條第三十六條第三十七條ノ驛遞局ハ遞信管理局第三十九條第六十八條第二百二十三條ノ驛遞局ハ遞信省遞信管理局第五十二條第九十四條第百七條第百三十條第百五十八條第二百二十一條ノ驛遞局長ハ遞信大臣第百三十七條第百四十六條第百四十八條第百五十一條第百六十二條第百六十三條第百七十一條第百七十二條第百七十三條第百七十五條第百七十七條第百七十八條第百七十九條第百八十二條第百八十八條第百八十九條第百九十條第百九十一條第百九十二條第百九十三條第百九十四條第百九十六條第百九十七條第百九十九條ノ驛遞局ハ爲替貯金局第百四十七條第百七十四條第百九十七條ノ驛遞局長ハ爲替貯金局長第十三章第百五十七條第二百四十二條ノ驛遞局ハ郵便第二百二十二條ノ驛遞局ハ主管廳其他郵便條例中ノ郵便局ハ郵便電信局郵便局ト心得ヘシ

○郵便物受取人又ハ差出人居所不分明ナルトキ戶長役場ノ取調ヲ乞ハシム

二十年五月十九日遞信省訓令第四號北海道廳府縣

郵便物受取人又ハ差出人居所不分明ナル時ハ郵便電信局郵便局ヨリ其地戶長役場ノ取調ヲ乞フ義モ可有之ニ付其際ハ故障ナク其求メニ應セシム可シ

○郵便小爲替規定

二十年六月二十五日遞信省告示第百十七號

郵便小爲替規定左ノ通改定シ本年七月十五日ヨリ施行ス

郵便小爲替規定

第一條　郵便小爲替證書壹枚ノ金額ハ參圓以下トシ端數ハ錢位ヲ限リトス

第二條　爲替料ハ小爲替證書一枚ニ付參錢トス

第三條　小爲替ハ差出人ノ指定シタル爲替ヲ取扱フ郵便局ニ於テ拂渡スモノトス

第四條　爲替差出人ハ郵便局吏員ニ爲替金及爲替料ヲ差出シ小爲替證書及受領證書ヲ受取ヘシ

第五條　爲替差出人ハ小爲替證書ニ設ケアル相當ノ區畫ニ受取人ノ宿所氏名ヲ記入シテ送ルヘシ其宿所氏名ヲ記入シ能ハサルモノハ郵便局吏員ニ之ヲ請求スルヲ得

第六條　小爲替證書ニ記載ノ拂渡局又ハ受取人ノ宿所氏名ヲ變換シ若クハ其宿所氏名ノ訂正ヲ要スルトキハ差出人ニ於テ爲替ヲ取扱フ郵便局ノ許可ヲ受クヘシ

但郵便局ノ許可ヲ請フトキハ受領證書ヲ以テ其差出人タルコトヲ證明スヘシ

第七條　爲替受取人爲替金ヲ受取ルトキハ其證書裏面ニ記名調印スヘシ又郵便局ニ於テ證書ヲ遞送シタル信書ノ封皮又ハ其受取人タルコトヲ證明スヘキ他ノ物件ヲ要スルトキハ之ヲ差出スヘシ

第八條　爲替差出人爲替金ノ返戻ヲ受タルトキハ其證書裏面ニ記名調印シ且受領證書ヲ郵便局ニ納メ差出人タルコトヲ證明スヘシ

第九條　代人ヲ以テ爲替金ヲ受取ルモノハ其爲替證書裏ノ面ニ委任文ヲ記載シ記名調